

## 伊賀市スポーツ推進計画の概要

## 1 策定経過

2021（R3）年	8月5日	伊賀市スポーツ推進審議会へ諮問
	10月1日～31日	アンケート調査実施（※方式と回答数） ① 市民アンケート（WEB方式 509件） ② スポーツ関係団体、スポーツ推進委員、住民自治協議会アンケート（書面 81件）
2021（R4）年	3月1日～3月31日	中間案に対するパブリックコメントの募集 （2人から15件の意見）
	4月28日	伊賀市スポーツ審議会から答申

## 2 【第1章】計画の概要（P1～）

近年、少子化や運動機会の減少による体力等の低下や、平均寿命延伸による「人生100年」を見据えた健康志向の高まり、さらにライフスタイルの多様化などで生涯を通じスポーツを楽しむことへの新たなニーズなどが見られる。

このような中、伊賀市ではスポーツの基本的役割である健康保持や体力向上に加え、スポーツによる交流をとおした地域社会の活性化などにも視点を置きつつ、全世代が生活の中にスポーツを取り入れ、それぞれの年代や状況（ライフステージ）に応じ、生涯を通じて気軽にスポーツを実施できる環境づくりを目指すため、「伊賀市スポーツ推進計画」を策定する。

策定にあたっては、国の「スポーツ基本計画」を参酌し、伊賀市総合計画をはじめとする教育や福祉分野など各種関連計画との整合性、さらには「伊賀市生涯スポーツ都市宣言」の理念に基づき、スポーツを「する」だけでなく、競技の観戦や地域活性化などの「みる」、さらには競技指導や大会ボランティア、また施設管理など「ささえる」こともスポーツ活動として捉えている。

計画期間： 2022（R4）年度～2026（R8）年度（5年間）

## 3 【第2章】スポーツを取り巻く環境と伊賀市の現状・課題（P5～）

## ●スポーツを取り巻く環境

- ① 少子化と子どものスポーツ離れ・体力の低下
- ② 高齢化による健康寿命の延伸
- ③ 余暇活動やスポーツニーズの多様化
- ④ 体力低下とストレスの増大
- ⑤ 新型コロナウイルス禍におけるスポーツ活動
- ⑥ 人間関係の希薄化と新たな連携ツールとしてのスポーツ
- ⑦ スポーツを支える環境の変化
- ⑧ スポーツ施設の老朽化・既存施設の有効活用

●伊賀市の課題（市民アンケートによる）

スポーツを「する」

- ・スポーツを週1回以上実施する人口が少ない（現状値：53.6%）
- ・高齢化が進む中、健康寿命の延伸を図る など

（三重県資料 健康寿命：男 79.20 歳 女 81.50 歳）

スポーツを「みる」

- ・地域でスポーツ行事の実施が困難な反面、レクリエーションスポーツへのニーズが高い など

スポーツを「ささえる」

- ・スポーツ団体の会員数が減少し、後継者が不足している
- ・スポーツイベントの見直しが必要 など

#### 4 【第3章】基本理念（P13～）

「すべての市民が生活の中でスポーツに親しみ 健康で豊かに暮らせるまち 伊賀市」を基本理念とし、総合目標値として成人の週1回以上のスポーツ実施率を65%程度に引き上げることを目指す。（参考 国及び県の目標値：65%程度）

●計画の実現に向けた連携・協働体制

行政、スポーツ実施者（団体）だけでなく、学校、地域指定管理者などと、それぞれの役割などを踏まえ協働して取り組む。

●計画の体系

基本目標1「する」 ⇒スポーツ人口の拡大

基本目標2「みる」 ⇒スポーツ活動の普及・啓発

基本目標3「ささえる」⇒スポーツ環境の体制整備・施設最適化

#### 5 【第4章】基本目標実現のための具体的施策（P18～）

「する（2施策）」

- ・生涯スポーツの普及と推進  
（ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進）
- ・子どもの体力向上  
（体力向上とスポーツが好きになれる取組みの推進）

「みる（2施策）」

- ・みるスポーツの推進  
（スポーツチーム等との連携、地域の魅力発信）
- ・地域活性化やふれあい機会の醸成  
（地域スポーツの推進）

「ささえる（3施策）」

- ・競技スポーツの支援・連携  
（競技力向上とスポーツ協会との連携）
- ・指導者、ボランティアの人材育成と団体の自主財源の確保  
（指導者・ボランティア育成と発掘、既存イベント見直し）
- ・スポーツ施設整備と利便性の向上  
（計画的な施設改修、利便性のある実施環境の提供）



# 伊賀市スポーツ推進計画



2022（令和4）年6月

伊賀市

# 目 次

## 第1章 計画の概要

1	計画策定の趣旨	1
2	スポーツの価値と効能	1
3	計画におけるスポーツの定義	2
4	他計画との関連・位置づけ	2
5	計画の期間	4

## 第2章 スポーツを取り巻く環境と伊賀市の現状・課題

1	スポーツを取り巻く環境	5
2	伊賀市の現状	8
3	伊賀市の課題	9

## 第3章 基本理念

1	計画の基本理念	13
2	計画の目標値	13
3	計画の実現に向けた連携・協働体制	14
4	計画の進行管理	14
5	新しい日常のスポーツ	15
6	スポーツの力を活用したSDGs達成への貢献	15
7	計画の体系	16
8	数値目標の設定	17

## 第4章 基本目標実現のための具体的施策

1	基本目標「する」	18
2	基本目標「みる」	21
3	基本目標「ささえる」	22

## 資料編

1	スポーツに関する市民意識調査等の結果	26
2	伊賀市スポーツ推進計画（諮問）	62
3	伊賀市スポーツ推進計画（答申）	63
4	伊賀市スポーツ推進審議会委員名簿	64
5	伊賀市スポーツ推進計画策定経緯	65

# 第1章 計画の概要

## 1 計画策定の趣旨

スポーツは、子ども・高齢者・障がいのある方等すべての人が、心身の健康保持の推進や体力の向上を図り、生きがいのある活力に満ちた生活を送るための重要な役割を持っています。

国においては、行政やスポーツ団体などが一体となったスポーツ立国を実現するため、2011（平成 23）年にスポーツ振興法（昭和 36 年法律第 141 号）をスポーツ基本法（平成 23 年法律第 78 号）へ抜本的に改正し、今後のスポーツ推進を図る指針であるスポーツ基本計画を策定するとともに、2015（平成 27）年にはその推進組織母体としてスポーツ庁が発足しました。

伊賀市においては、2007（平成 19）年にスポーツ振興法に定めるスポーツ振興の指針として「伊賀市スポーツ振興計画（以下「振興計画」という。）」を「だれもが気軽に楽しみ、元気をはぐくむスポーツ振興」を基本理念とし策定しました。

振興計画では、「スポーツのある豊かな暮らしを支える環境づくり」、「健全な心身をはぐくみ、活力を生む生涯スポーツの推進」、「互いの力を高め合う競技スポーツの振興」の3つを基本方針とするとともに市町村合併後のスポーツ振興についても規定し、さらに 2019（平成 30）年にはこれらの理念や方針を引き継いだ「伊賀市生涯スポーツ都市宣言」を行いました。

一方、近年の少子化や運動機会の減少による体力・運動機能の低下、高齢化の進行による「人生 100 年」を見据えた健康志向の高まり、個人のライフスタイルの多様化など、社会環境が著しく変化する中でも生涯を通じスポーツを楽しむことへのニーズも高まっています。

また、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会」では、競技を通じて「する」「みる」「ささえる」ことを超越した多様性と調和による共生社会の実現を大会レガシーとして規定し、これを契機としたスポーツへの関心も高まりつつあります。

これらのことを踏まえ、スポーツの基本的な役割である健康保持や体力向上による豊かな生活を営むことに加え、青少年の健全育成や人と人との交流をとおして絆を深めることで地域社会の活性化や社会活力の創造などにも視点を置きつつ、全年代が生活の中にスポーツを取り入れ（sports in life）、それぞれの年代や状況（ライフステージ）に応じ、生涯を通じて切れ目なく気軽にスポーツを実施できる体系的な環境づくりを目指すため、その指針となる「伊賀市スポーツ推進計画（以下「計画」という。）」を策定します。

## 2 スポーツの価値と効能

スポーツが持つポテンシャルや意義等は、スポーツ基本法の前文において、次のように規定されています（一部抜粋）。

- ① スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動であり、生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠のもの

- ② スポーツは、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすもの
- ③ スポーツは、人と人との交流及び地域と地域との交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成するものであり、人間関係の希薄化等の問題を抱える地域社会の再生に寄与するもの
- ④ スポーツは、心身の健康の保持増進にも重要な役割を果たすものであり、健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠のものと示され、生活の多岐にわたりスポーツの果たす役割は非常に重要とされています。

### 3 計画におけるスポーツの定義

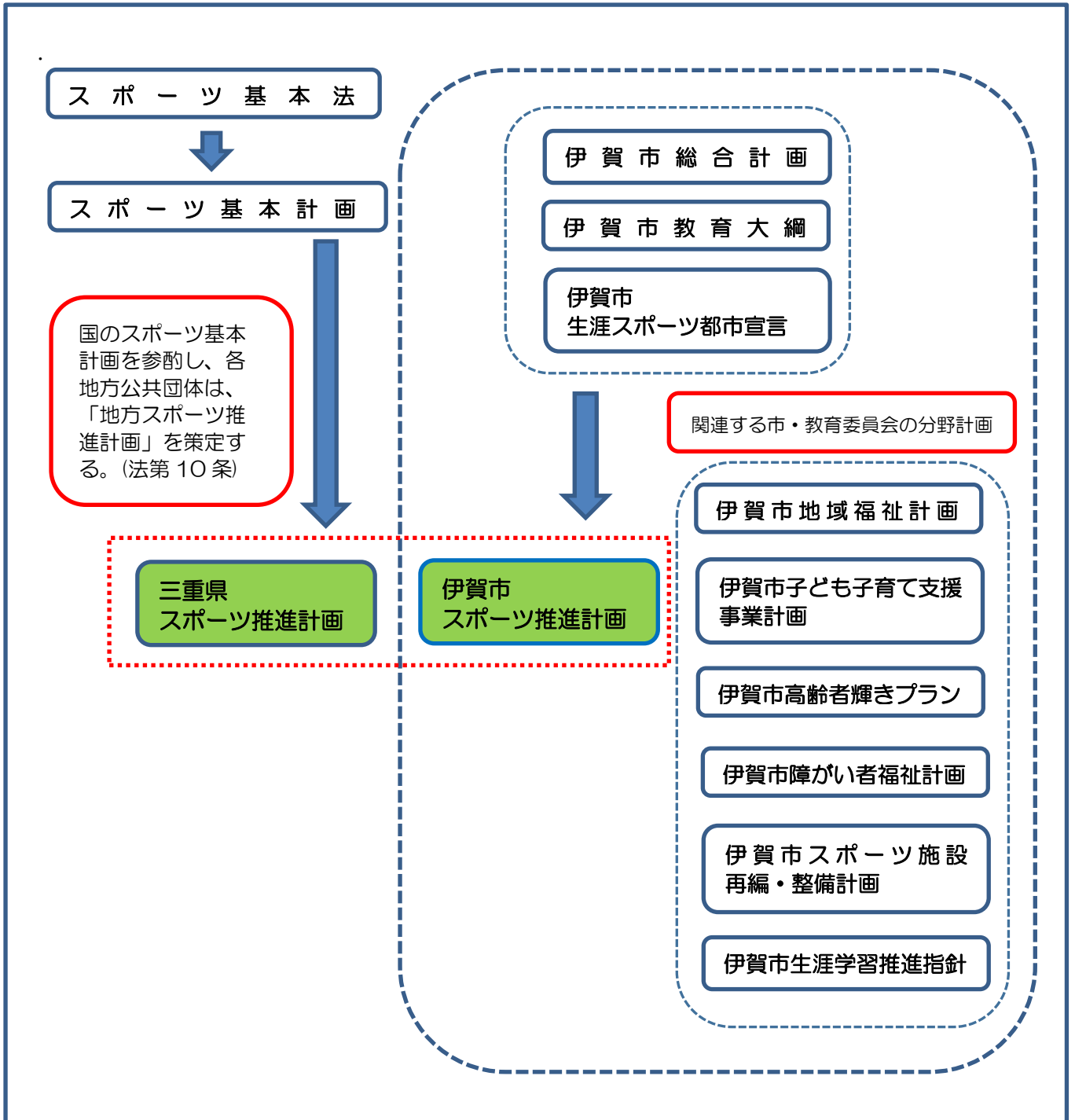
計画では全世代が個々の状況（ライフステージ）に応じて生活の中にスポーツを取り入れ（sports in life）、生涯を通じて切れ目なく気軽にスポーツを実施できる環境づくりを図るため、市民をはじめ行政、学校、民間企業、スポーツ関係団体、スポーツ推進委員などがそれぞれの役割や責任を踏まえ連携・協働して推進することとします。

なお、スポーツの定義として、競技スポーツからレクリエーションスポーツ、健康づくりのためのウォーキングやジョギングなど、各個人のレベルやジャンルに関わらず総じて「スポーツ」として捉えるとともに、スポーツを「する」だけでなく、競技の観戦・応援やスポーツを通じて地域の活性化などを図る「みる」、さらには競技指導や大会運営をサポートするボランティア活動や施設の維持管理など「ささえる」こともスポーツ活動として捉えることとします。

### 4 他計画との関連・位置づけ

策定にあたっては、国におけるスポーツ基本計画を参酌し、伊賀市の上位計画である「第2次伊賀市総合計画第3次基本計画（2021（令和3）～2024（令和6）年度）」や「伊賀市教育大綱（2021（令和3）～2024（令和6）年度）」、また関連する市や教育委員会の分野別計画における施策との整合性を図るとともに、「伊賀市生涯スポーツ都市宣言」の理念に沿ったうえでスポーツ振興と推進のための個別計画として策定します。

【各計画等との関係図】



## 5 計画の期間

計画は、スポーツ基本法第 10 条の規定に基づく伊賀市のスポーツ推進に関する計画とし、2022（令和4）年から2026（令和8）年までの5年間で計画期間とします。

計画名/年次	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	2031 (R13)	2032 (R14)
伊賀市総合計画	2021 (R3) ~ 2024 (R6) (第3次基本計画)				見込み							
伊賀市教育大綱 (教育振興基本計画)	2021 (R3) ~ 2024 (R6)				見込み 2025 (R7) ~ 2028 (R10)			見込み 2029 (R11) ~ 2032 (R14)				
伊賀市スポーツ 施設再編・整備 計画	見直し											
<b>伊賀市スポーツ 推進計画</b>	見直し											
【参考】 国：基本計画 (現状5年)	見込み	見込み 2022 (R4) ~ 2026 (R8)				見込み	見込み 2027 (R9) ~ 2031 (R13)				見込み	
【参考】 県：推進計画 (現状4年)	見込み	見込み 2023 (R5) ~ 2026 (R8)				見込み	見込み 2027 (R9) ~ 2030 (R12)				見込み	



### 1 スポーツを取り巻く環境

#### ① 少子化と子どものスポーツ離れ・体力の低下

文部科学省が策定した「第2期スポーツ基本計画」によると、子どもの体力水準が高かった昭和60年頃と比較すると、基礎的運動能力は依然として低い傾向にあります。さらにスポーツの好き嫌いにより積極的にスポーツをする子どもとそうでない子どもの二極化が顕著に認められ、運動習慣が身につけていないことが課題とされています。

このため、子どもが積極的にスポーツに取り組めるよう学校の体育や地域スポーツなどを通じて充分体を動かしてスポーツの楽しさなどを実感できる環境整備を図る必要があります。

#### ② 高齢化による健康寿命の延伸

毎年平均寿命は伸び続け、令和元年度における「厚生労働省簡易生命表」によると、男性：81.41歳、女性：87.45歳となっており、今後も高齢化が進むことが予想されます。

一方、健康寿命は男性：72.68歳、女性：75.38歳となっており、平均寿命との差は約8年から13年となっています。平均寿命が延伸傾向のなか、日々の生活の状況に応じて体を動かすことで健康寿命を延ばし、病気や介護状態になりにくくすること（不健康な状態になる時点を遅らせる）が期待されます。

#### ③ 余暇活動及びスポーツニーズの多様化

余暇活動の一つとしてのスポーツへの関わり方は多様です。健康増進や交流を実施目的とするもの、種目においてもサッカーや野球などの団体競技に加え個人で行うウォーキングやジョギング、さらにはスポーツジムでのトレーニングなどもあります。

また、近年では若年層によるスポーツ観戦の増加が見られます。（『2020 レジャー白書』公益財団法人日本生産性本部）

一方、東京2020オリンピック・パラリンピック大会を機にポッチャなどの注1)パラスポーツ、あるいはキンボールなど新たなルールやスタイルで行うニュースポーツやレクリエーション競技、さらにはスケートボードやBMXなどの注2)アーバンスポーツへの関心も高まっています。

(注1) パラスポーツ：広く障がい者スポーツを表す言葉。

(注2) アーバンスポーツ：BMX、スケートボード、パルクール等、都会の街中環境を活用することで生まれた都市型スポーツ。

#### ④ 体力低下とストレスの増大

生活が便利になることに伴い、近距離でも自動車で出かける、階段ではなくエレベーターを利用するなど、日常生活において体を動かす機会が減少しています。

その結果、体力や運動能力の低下を招くとともに、学校や職場、地域社会、さらには家庭においても、人々はさまざまな精神的ストレスを抱えることで「ストレス社会」とも言われています。

こうしたことから、体力向上やストレスの低減による心身両面にわたる健康保持の増進のためスポーツの果たす役割が期待されています。

#### ⑤ 新型コロナウイルス禍におけるスポーツ活動

2020（令和2）年頃から世界的に大流行している新型コロナウイルス感染症（COVID-19）では、外出自粛や施設閉鎖などで多くのイベントや大会が中止される影響が続き、新たなストレスを抱えることも危惧されていることから、スポーツ活動の実施には感染防止を図りながら実施する（ウィズコロナ）、さらに感染終息後（アフターコロナ）を見据え、（注3）「新しい生活様式」に配慮した活動も求められています。

#### ⑥ 人間関係の希薄化と新たな連携ツールとしてのスポーツ

ネットワーク環境の整備が進み、近年の働き方改革や新型コロナ感染防止対策などを契機とした在宅ワークが普及してきています。

その一方で、地域や職場などで人間関係の希薄化が進んでいるとされ、（注4）SNSを活用することで従前の組織にこだわらず、共通のスポーツや趣味を通じて新たに仲間を集い、交流を深めていこうとする動きも見られます。

新たな連携や交流は、在住する地域はもとより広域的な移動により活性化につながることも期待され、その連携ツールのひとつとしてスポーツが果たす役割が期待されます。

#### ⑦ スポーツを支える環境の変化

スポーツは、選手をサポートするため日々の練習指導をはじめ遠征や大会運営、さらには資金面など様々な形でボランティア活動を中心に多くの方の献身的な協力で成り立っています。

しかしながら近年では、少子高齢化や競技人口の減少などで人材が減少し、従前の競技運営が難しくなりつつあり、加えて時代に応じた新たなニーズにも対応していくため自己資金確保も課題となってきています。

これらのことから、持続可能な活動とするため、次世代のサポート人材を確保することや、イベント等では従前の実施方法を参考としつつ、新しい実施方法やリニューアルさらには実施の有無などを含め抜本的な検討を行なうとともに、実施主体においても従前の補助金によらないクラウドファンディングや民間からの寄付、スポンサー獲得など新たな自主財源の確保による強い運営体制の必要性が求められています。

#### ⑧ スポーツ施設の老朽化・既存施設の有効活用

高度成長期に整備された施設の老朽化が一斉に進行し、日常の維持管理費用や改修費等の増嵩が避けられない厳しい状況にあります。このことから計画的に既存施設の安全性や利便性を高める改修や、スポーツ・学校体育施設の効率的な利用方法、さらには新しいスポーツニーズにも対応する検討を行っていく必要があります。

(注3) **新しい生活様式**：飛沫感染や接触感染、さらには近距離の会話などへの対策をこれまで以上に日常生活に取り入れた生活様式

(注4) **ソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS)**：Web上で社会的ネットワークを構築するサービス

## 2 伊賀市の現状

### 少子高齢化の進行

伊賀市の人口は減少傾向にあり、2015（平成 27）年から 2040（令和 22）年までの 25 年間で 24,133 人減少し、約 66,000 人余りになると見込まれています。

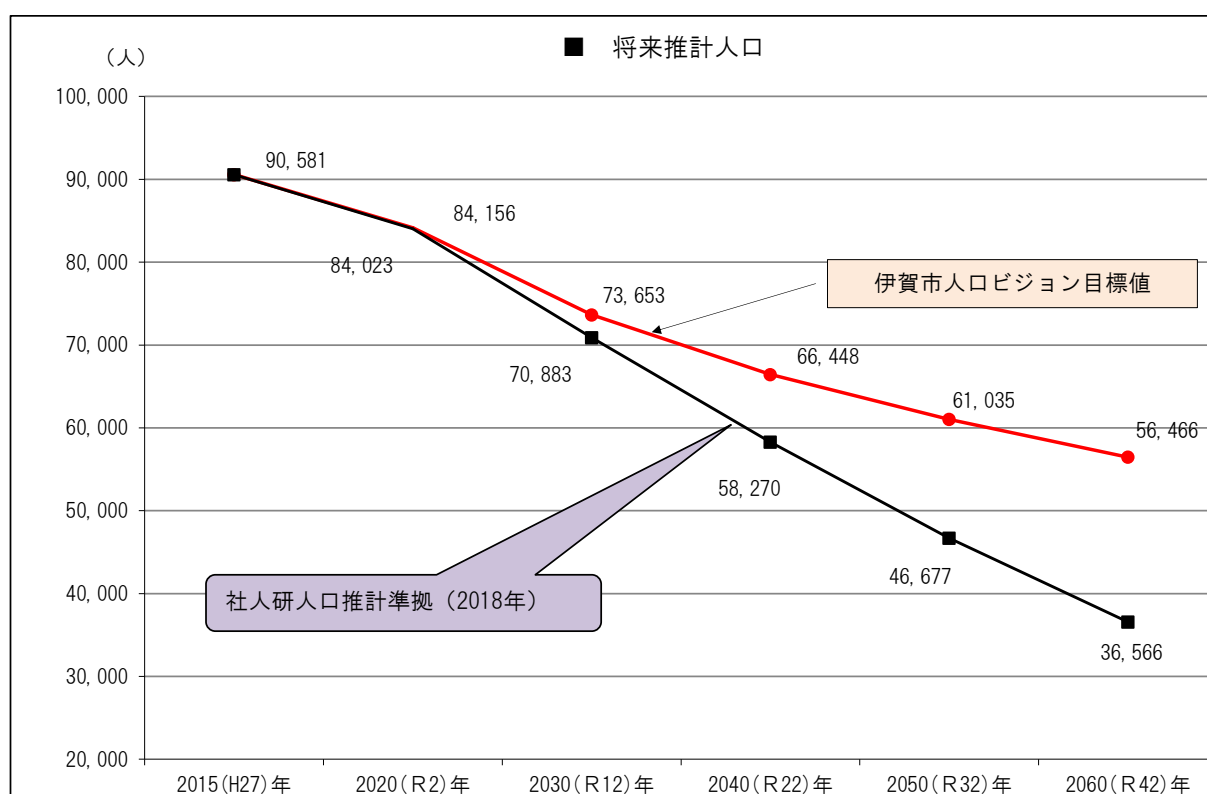
「三重県推計資料」による平均寿命と健康寿命は、それぞれ男性:82.30 歳（79.20 歳）、女性:88.30 歳（81.50 歳）となっています。また、年齢構成別では、老年人口は増加で推移し、人口に占める老年人口は、(注 5)超高齢化社会が進んでいく状況です。

また、スポーツ・学校施設の利用者についても減少傾向にあり、2018（平成 30）年度から 2019（平成 31）年度において、スポーツ施設では 25,499 人減少し、学校施設では 12,907 人減少しています。

### (ア) 伊賀市人口ビジョン

【出典：伊賀市都市マスタープラン】

年齢区分	2015（平成27）年		2030（令和12）年		2040（令和22）年	
	人口（人）	比率	人口（人）	比率	人口（人）	比率
年少人口（15歳未満）	10,763	11.9%	8,593	11.7%	8,558	12.9%
生産年齢人口（15～64歳）	51,141	56.4%	37,818	51.3%	32,501	48.9%
老年人口（65歳以上）	28,677	31.7%	27,242	37.0%	25,389	38.2%
合計	90,581	100.0%	73,653	100.0%	66,448	100.0%



(※「社人研」は、国立社会保障・人口問題研究所の略)

(注 5) 超高齢化社会：65 歳以上の人口の割合が全人口の 21%を越えた社会

### (イ) スポーツ（学校）施設の利用が減少

#### ●スポーツ施設の利用状況

【単位：人】

区分/年度	2018年度 (平成30)	2019年度 (平成31・令和1)	※2020年度 (令和2)
スポーツ施設	323,526	298,027	145,851

#### ●学校施設（グラウンド・体育館）の利用状況

【単位：人】

区分/年度	2018年度 (平成30)	2019年度 (平成31・令和1)	※2020年度 (令和2)
小学校	143,190	127,670	62,060
中学校	62,097	64,710	35,654
合計	205,287	192,380	97,714

※2020（令和2年）年度は、新型コロナウイルス感染症により利用自粛要請や施設閉鎖を行ったため、利用者数が著しく少なくなっています。

## 3 伊賀市の課題

スポーツを取り巻く環境や、伊賀市における人口ビジョンやスポーツ（学校）施設の利用状況、さらに※市民アンケート調査やスポーツ団体等への調査結果等から、伊賀市のスポーツ推進に向けて取り組むべき主要な課題は次のとおりです。

※結果については、巻末の資料に掲載

## スポーツを「する」視点での課題

### ① スポーツを週1回以上実施する人口が少ない

(アンケート番号：市民 問 12)

成人全体の実施頻度は53.6%で前回調査(28.3% H19)から大幅に増加していますが、年代が上がるにつれて実施頻度は低くなる傾向にあります。また、全世代で女性の実施頻度が男性より低くなっています。実施頻度の低い年代や女性を中心に普及啓発を行い、成人全体の実施頻度を高くする取り組みが必要です。

### ② スポーツをしない(できない)理由として、「仕事や家事が忙しく時間がない」が多い

(アンケート番号：市民 問 14)

男女間で大きな違いは見られませんが、女性の理由では「面倒くさい」が最も多く、全体ではスポーツをする意識の無い方が19.0%いることから、体を動かす動機づけや情報提供の在り方について検討が必要です。

地域でのスポーツ活動や市民スポーツフェスティバルにおいて、レクリエーションスポーツの普及啓発や実施を望む声が多く、レクリエーションスポーツが体を動かす動機づけになるような取り組みが必要です。

### ③ 子どもの体力低下が進んでいる

週に1回以上スポーツを実施している小学生の割合は91.8%と高い水準にありますが、8.2%の小学生は体育以外の運動は全くしておらず、体力低下の要因になっていることが考えられます。

また、週1回以上スポーツを実施していても、運動の内容や回数によっては運動不足の可能性もあり、運動を全くしていない場合も含め、運動機会を増やすことが必要です。

子どもたちの健全な心身育成のためには、まずはスポーツが好きな子どもを一人でも多く増やす必要があることから、学校・地域・家庭がそれぞれの役割を果たし、互いに連携しながら取り組んでいくことが必要です。

### ④ 高齢化が進む中、健康寿命の延伸を図る

運動の実施頻度が高いほど健康だと思ふ人の割合が高くなることで、健康寿命の延伸手段としてスポーツの役割は大きいと考えられます。

一般的に運動の実施頻度は年代が上がるにつれ低くなるため、その年代や自身の体力・ライフステージに応じた運動を広める取り組みが必要です。

## スポーツを「みる」視点での課題

### ① スポーツ観戦や観戦の機会があっても行きたいと思わない層へのアプローチ

(アンケート番号：市民 問 19)

スポーツ観戦については、約75%の方が関心を示し、観戦機会がある場合に「できれば行きたい」と「ぜひ行きたい」が68%となっています。

一方、「関心がない」は25%、観戦希望について「あまり思わない」「全く思わない」が32%となっています。

このことから、関心層への一層の浸透や新たなファン層の開拓のため情報提供は勿論、観客を楽しませる仕組みづくり等「みられる側」の魅力づくりが必要です。

### ② 多くの地域が少子高齢化でスポーツ行事の実施が困難な半面気軽にできるレクリエーションスポーツへのニーズが高い

(アンケート番号：住民自治協議会 問 1)

市内83%の地域で何らかのスポーツ行事が実施されていますが、少子高齢化による参加人数の減少等により年々実施が困難になっています。多くの住民自治協議会からは、スポーツ推進委員に対してレクリエーションスポーツの普及啓発が期待されています。

## スポーツを「ささえる」視点での課題

### ① ボランティアの参加意向はあるもののきっかけがない

(アンケート番号：市民 問 21)

25.3%の人がボランティア活動への参加意向があり、また55.6%の人が好きなスポーツ普及・支援が動機づけになると答えています。

このように、好きなスポーツのボランティアであれば参加したいと思う人の割合が高いことから、スポーツイベント開催時にボランティア募集を行うなど、「ささえる」立場でスポーツに参加ができるきっかけ作りをしていく必要があります。

### ② 多くの団体で会員数が減少し後継者が不足している

(アンケート番号：スポーツ団体 問 2)

少子高齢化や余暇活動の多様化により80%の団体で会員数が減少傾向にあります。

また、競技人口の減少や指導する人材の不足などもあり、将来のスポーツ実施環境の充実のため、新たな競技人口の獲得や指導者、後継者の育成を図るとともに、専門知識普及のための情報を発信していく必要があります。

さらに、SDGsの観点から資金源の確保も含めた持続可能な新しい実施方法について検討していく必要があります。

### ③ スポーツイベントの見直しが必要

対外的なスポーツイベントは、他市町村での類似イベント開催によるエントリー者数の減少に加え、イベントを支えるスタッフにも高齢化や従事者数の減少がみられ運営が非常に厳しくなっています。

今後は、こうしたイベントの実施方法の見直しや他市町村との差別化、情報発信やあり方も含め、開催手法について検討する必要があります。

なお、市民向けのイベントの中で、特に伊賀市民スポーツフェスティバルについては、アンケート結果から気軽に参加できるレクリエーション重視のイベントに変えていく必要があります。

### ④ 施設の適切な維持管理と施設の有効活用の検討が必要

伊賀市のスポーツ施設は34施設あり、そのうち設置30年以上の施設が約6割を占め、さらに今後10年間で新たに7施設が設置後30年を迎え、老朽化した施設がさらに増加します。

このため、「伊賀市スポーツ施設再編・整備計画」に沿った施設の適切な維持管理と統廃合や長寿命化、多機能化など有効活用を図ります。

## スポーツ振興への期待

### ① 健康づくりとして

運動の実施頻度が高いほど健康や充実感がある人の割合が高く、スポーツが心身の健康に重要な役割を果たしていることを周知し、スポーツを始める人を増やす取り組みが必要です。

### ② 地域コミュニティの形成・活性化として

スポーツ少年団等のスポーツ団体からの意見として、伊賀市のスポーツ振興に期待する効果として、地域コミュニティの形成・活性化が挙げられています。



## 第3章 基本理念

### 1 計画の基本理念

すべての市民が生活の中でスポーツに親しみ 健康で豊かに暮らせるまち 伊賀市

スポーツは、人生を豊かに充実したものとするとともに、人間の身体的・精神的な欲求に応える文化です。

スポーツを実施することで、心身の健全育成のほか体力向上や生活習慣病予防にも繋がり、ひいては生涯元気でいることのできる健康年齢の延伸効果が期待されます。

また、生活が便利となること等で体を動かす機会が減少している現代では、年齢などに関係なく生活の中の多様なステージにおいて気軽にスポーツを「する」、「みる」、「ささえる」ことで健康増進に加え、爽快感や達成感などの精神的充実や楽しさ、喜び、さらには交流を通じた人の輪の広がりによりお互いを理解し合える共生社会の構築による市民活力の創出などを目指すこととし、「すべての市民が生活の中でスポーツに親しみ 健康で豊かに暮らせるまち 伊賀市」を計画の基本理念として掲げます。

### 2 計画の目標値

#### ① 数値目標

スポーツの定義として位置づけた「する」「みる」「ささえる」ことを基本目標とし、計画を推進する目安として基本目標ごとに数値目標を定めることとします。

#### ② 総合目標値

ライフステージに応じたスポーツ活動を生活に取り入れること（sports in life）で、生涯にわたり健康で豊かな生活を送れるようにすることに注目し、参酌する国のスポーツ基本計画や、伊賀市生涯スポーツ都市宣言の基本理念の成果を図るため、「成人の週1回以上のスポーツ実施率を65%程度にすること」を総合目標として設定します。

#### 【伊賀市における総合目標値】

評価指標	現状値	目標値
成人の週1回以上のスポーツ実施率	53.6% (令和3年「スポーツに関する市民アンケート」より)	65.0%程度

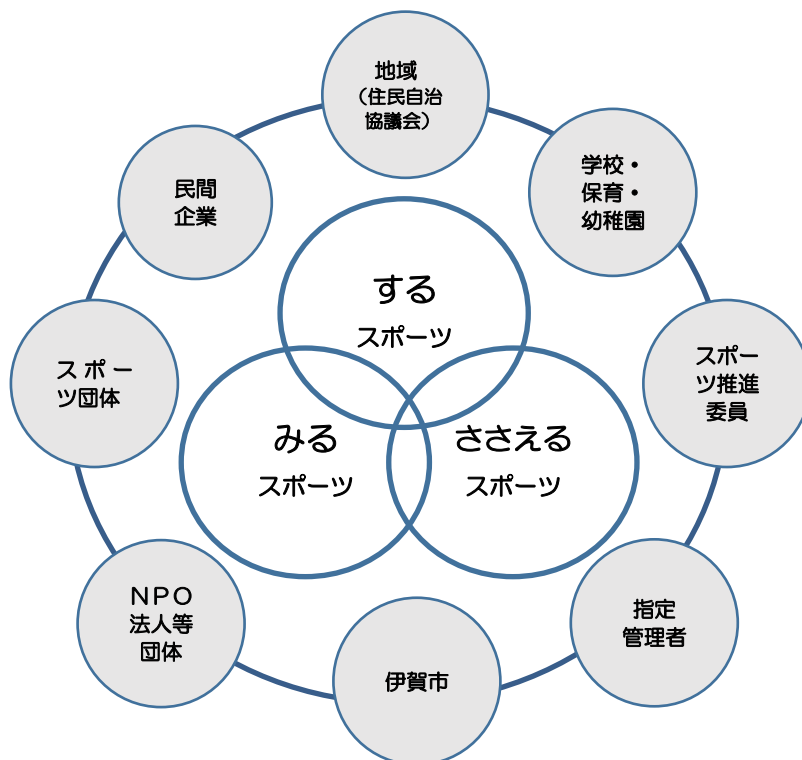
#### 参考 成人の週1回以上のスポーツ実施率の目標値

国 : 65.0%程度

三重県 : 65.0%程度

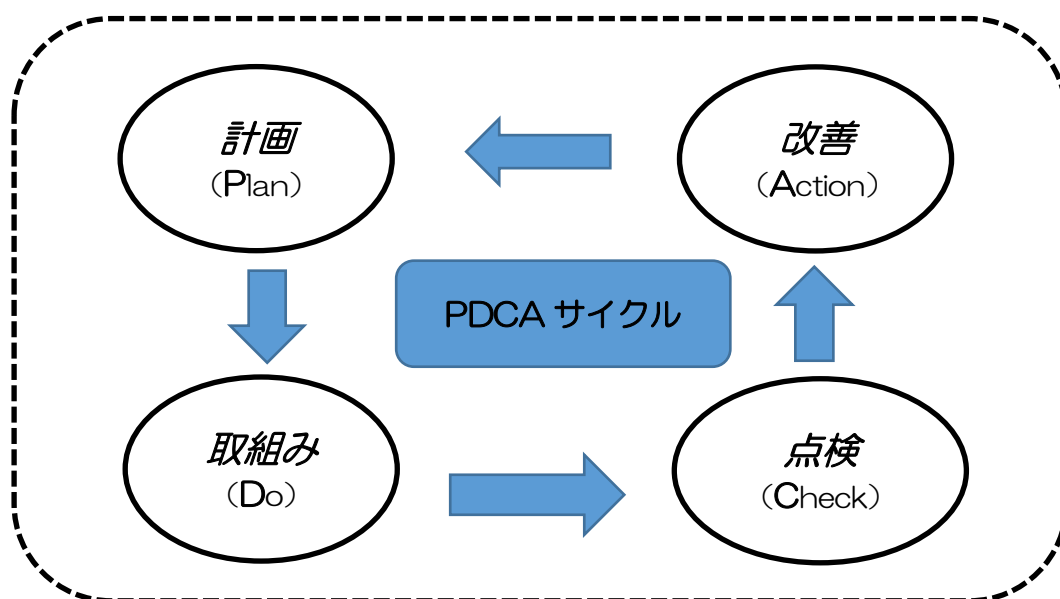
### 3 計画の実現に向けた連携・協働体制

計画では、これまでの取り組みを継承・発展させつつ、国際連合が提唱する「(注6)持続可能な開発目標(SDGs)」の視点も取り入れるとともに、行政やスポーツ団体、スポーツを行う個人ばかりでなく、住民自治協議会をはじめとする市民、学校、民間企業、NPO法人等の団体、スポーツ推進委員、施設管理を受託している指定管理者などと共に、それぞれの役割や責任を踏まえ、連携・協働して計画を実現します。



### 4 計画の進行管理 ((注7) PDCAサイクル)

伊賀市の描く行政分野の施策・事業全体の状況も勘案しながら柔軟かつ着実な計画の推進を図ることとし、計画内容の点検、及び方針変更内容の修正・変更・追加等があった場合には、伊賀市スポーツ推進審議会等において進捗管理や見直しを図ることとします。



## 5 新しい日常のスポーツ

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、緊急事態宣言の発令や不要不急の外出が制限され、スポーツ界では、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会」の 1 年間の延期をはじめ、数々の大会やイベントが中止や延期を余儀なくされ、さらにはスポーツ行事の活動自粛など大きな影響を受けました。

今後も継続的に感染症対策を行い施設利用や大会運営が感染防止を図りながら実施する（ウィズコロナ）や、感染終息後（アフターコロナ）も見据え、「新しい生活様式」に配慮し、市民や参加者等が安全に実施できるよう主催者をはじめ参加者、施設管理者が主体的に取り組むことが必要です。

## 6 スポーツの力を活用した SDGs 達成への貢献

国連では、持続可能な開発における重要な鍵として、スポーツが課題解決のツールとして、SDGs の 17 のゴール（目標）達成に向けた重要かつ有効な手段であるとしています。

スポーツ庁においても、SDGs の達成にスポーツで貢献していくこととしており、スポーツが持つ人々を集める力や人々を巻き込む力を使って、SDGs の認知度向上、ひいては社会におけるスポーツの価値の更なる向上に取り組んでいます。

本計画の基本理念や各施策の方向性は、そのスケールは違うものの、SDGs の理念や目標と同じくするところが多く、本計画の目指すべき社会の実現に向け、具体的施策に SDGs のゴールを表示し、スポーツの推進を図ります。



(注 6) **持続可能な開発目標 (SDGs)** :2015 (平成 27) 年から 2030 (令和 12) 年までに、貧困や飢餓、平和的社会など持続可能な開発のために達成すべき 17 の目標と 169 のターゲットからなる。

(注 7) **進行管理 (PDCA サイクル)** : 事業を効果的に管理するための段階をマネジメントサイクルといい、その主なものの一つとして PDCA サイクルがある。Plan (計画)、Do (実行)、Check (評価)、Action (改善) の 4 段階を繰り返すことで、継続的に事業内容を改善していくしくみ。

## 7 計画の体系

基本理念	基本目標	施策	具体的な取組み
すべての市民が生活の中でスポーツに親しみ 健康で豊かに暮らせるまち 伊賀市	<b>【基本目標1】</b> <b>「する」</b> スポーツ人口の拡大	<b>【施策1】</b> 生涯スポーツの普及と推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年齢や障がいの有無を問わず、生涯にわたってそれぞれのライフスタイルに応じたスポーツを楽しむことができる多様な施策を展開します。</li> </ul>
	<b>【基本目標2】</b> <b>「みる」</b> スポーツ活動の普及・啓発	<b>【施策2】</b> 子どもの体力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「走る・跳ぶ・投げる」基本体力を学校プログラムで習得し、スポーツに触れる機会づくりをとおしてスポーツを好きになれる事を目指します。</li> </ul>
	<b>【基本目標3】</b> <b>「ささえる」</b> スポーツ環境の体制整備・施設最適化	<b>【施策3】</b> みるスポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身近に一流の競技が見られるよう、チームや主催者などと連携し情報発信を行います。</li> <li>○ 新たなスポーツイベントの創造や誘致について検討します。</li> </ul>
	<b>【施策4】</b> 地域活性化やふれあい機会の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域で気軽にスポーツが実施できるよう、スポーツ推進委員や住民自治協議会と連携した実施環境を整備します。</li> </ul>	
	<b>【施策5】</b> 競技スポーツの支援・連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全国大会などトップ大会を目指す選手の競技力の向上をスポーツ協会と連携し推進します。</li> </ul>	
	<b>【施策6】</b> 指導者・ボランティアの人材育成と団体の自主財源の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ スポーツ実施者や地域を支えるための人材を育成し、ボランティア活動の魅力を伝えます。</li> <li>○ スポーツ団体などが自主的・安定的に運営できるように、各種団体と意見交換を行います。</li> </ul>	
	<b>【施策7】</b> スポーツ施設整備と利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 老朽化が進んでいる施設について、再編・整備計画に基づき統廃合や長寿命化を推進します。</li> <li>○ 施設が利用しやすいよう、制度面や情報発信を推進します。</li> </ul>	

## 8 数値目標の設定

「する」「みる」「ささえる」の3つの基本目標ごとに、計画推進の目安として、具体的な数値目標を定めることとします。



### ●「する」スポーツの数値目標

成果目標	2019（令和元）年度 現状値	2026（令和8）年度 目標値
市民スポーツフェスティバルの参加者数	1,623人	2,000人

※令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症防止により開催が中止となったため令和元年度を現状値とします。

【参考】 H28：1,918人、H29：1,857人、H30：1,773人

### ●「みる」スポーツの数値目標

成果目標	2021（令和3）年度 現状値	2026（令和8）年度 目標値
スポーツ観戦に関心がある人の割合	75%	90%

### ●「ささえる」スポーツの数値目標

成果目標	2020（令和2）年度 現状値	2026（令和8）年度 目標値
スポーツ施設の平均稼働率	41.51%	55.15%

※各スポーツ施設（プール、艇庫は除く）の稼働率（利用のあった日/365日）の合計を施設数で除した数（平均稼働率）

【参考】 H29：42.74%、H30：45.96%、R1：42.95%

## 第4章 基本目標実現のための具体的施策

社会環境の変化や、市民アンケート調査結果などを基に伊賀市におけるスポーツ推進の方向性について課題を整理し基本理念や基本政策に基づく「する」「みる」「ささえる」の視点から今後の具体的な取り組みの方向性について示すこととします。



### 1 基本目標「する」 スポーツ人口の拡大

#### 施策1 生涯スポーツの普及と推進

取組み ●ライフスタイルに応じたスポーツ活動を推進し、心身の健康増進を図る

年齢、興味、目的、障がいの有無などに関係なく幼少年期から高齢期まで、それぞれのライフステージにおいて、生活の中でスポーツを気軽に親しめる(sports in life)ことで体力向上をはじめ、心身の健康増進や健康寿命の延伸、さらにはスポーツを通じた郷土愛着の醸成が図られる環境の創出を目指します。

#### ① 子どものスポーツ活動

主な取り組み	事業概要	関係組織
スポーツ少年団運営事業	少年期から幅広いスポーツに親しみ、体を動かすことの楽しさに触れることで、スポーツ活動を通じた子どもたちの健全育成を図ります。	スポーツ少年団 スポーツ振興課
総合型地域スポーツクラブの運営	地域住民のスポーツ活動を推進するため、世代横断型のスポーツ教室等を開催します。	総合型地域スポーツクラブ スポーツ振興課
B&G 海洋センター活用事業	連絡協議会などを活用し、水辺などの環境を活用したふれあい型事業や自主事業を実施します。	スポーツ振興課 三重県 B&G 連絡協議会 指定管理者
レクリエーションスポーツの普及	レクリエーション協会などと連携し、子どもが気軽に参加でき、家庭で楽しめるレクリエーションの普及を行います。	スポーツ振興課 スポーツ推進委員 レクリエーション協会 住民自治協議会

#### ② 成人のスポーツ活動

主な取り組み	事業概要	関係組織
健康マイレージの普及	1日1回体操をする、1日6,000歩を歩く等、自分で決めた目標達成に応じてポイントを付与し、スポーツ実施へのインセンティブを図ります。	健康推進課

健康づくり教室	健康増進法に基づくメタボ予防などを目的にストレッチ体操など楽しみながら講座を行います。	健康推進課
総合型地域スポーツクラブの運営【再掲】	地域住民のスポーツ活動を推進するため、世代横断型のスポーツ教室等を開催します。	総合型地域スポーツクラブ スポーツ振興課

### ③ 高齢者のスポーツ活動

主な取り組み	事業概要	関係組織
介護予防普及啓発事業	3B体操などを活用し、体を動かすことで健康寿命の延伸を図ります。	介護高齢福祉課 (社会福祉協議会へ委託)
講座や教室の開催	関係団体と連携し、新しい軽スポーツ等を体験できる場の提供など、市民が新しい楽しみを見つめられる教室を開設します。	介護高齢福祉課 生涯学習課
総合型地域スポーツクラブの運営【再掲】	地域住民のスポーツ活動を推進するため、世代横断型のスポーツ教室等を開催します。	総合型地域スポーツクラブ スポーツ振興課
健康マイレージの普及【再掲】	1日1回体操をする、1日6,000歩を歩くなど、自分で決めた目標達成に応じてポイントを付与し、スポーツ実施へのインセンティブを図ります。	健康推進課
忍にん体操の普及	忍にん体操普及会と連携し、普及・啓発を行います。	健康推進課

### ④ 障がい者のスポーツ活動

主な取り組み	事業概要	関係組織
パラスポーツの普及	「ボッチャ」など、ユニバーサルスポーツの体験・競技会をとおして広く市民へ普及・啓発を行います。	スポーツ振興課 障がい福祉課 レクリエーション協会
障がい者スポーツ大会への支援	障がいのある人が主体的に社会参加活動に取り組めるよう、スポーツ大会への支援を行います。	障がい福祉課

## 施策2 子どもの体力向上

### 取組み ●体力向上とスポーツが好きになれる取組みの推進

子どもの体力やスポーツをしようとする意識が年々低下傾向にあります。

この背景には、少子化により学校単一でチーム編成ができないこと、習い事などで忙しくクラブ活動ができないこと、スポーツ以外にも個々の趣味や楽しみの多様化等によりスポーツの実施機会が少なくなっていることが考えられます。

さらにクラブ活動の専門指導者が確保できず、学校現場の教員に過重な負担が生じていることや少子化による廃部で子どもの選択肢が減るなどの課題点に対するため、公立中学校の休日部活動をスポーツ団体などの地域に委ねる「地域移行」を進める動きが出てきています。

しかしながら、子どもにとって「走る・跳ぶ・投げる」ことの基礎体力を培うことは将来に向けた自己の体を育むうえでも重要です。

このことから日々の学校における体育授業や運動会・競技会などの学習カリキュラムを基本としつつ、加えて体を動かすことでの仲間づくりやスポーツを始めるきっかけづくりを推進します。

主な取組み	事業概要	関係組織
保育所（園）・幼稚園での「からだそだて」の実施	発達に合った運動遊びを取り入れた「にんにんタイム」を実施し、子どもたちの体力向上や基礎的な運動能力を高めます。	保育幼稚園課 学校教育課
学校体育カリキュラムの実施	体育授業、運動会、中体連などの競技会を活用し子どもの体力向上やスポーツ好きの子どもが増える取組みを行います。	学校教育課
課外体育（クラブ活動）での専門講師の活用	課外体育（クラブ活動）の指導について専門指導員を招へいするなど体力・競技力の向上を図ります（現在はモデル実施）。	学校教育課
体力・運動能力等の調査	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告」を活用し子どもの体力や運動能力を継続して追跡します。	学校教育課
ACP（アクティブチャイルドプログラム）活動	楽しみながら積極的に体を動かし身体活動の習慣化を促します。	スポーツ少年団 スポーツ振興課 総合型地域スポーツクラブ
スポーツ少年団運営事業【再掲】	少年期から幅広いスポーツに親しみ、体を動かすことの楽しさに触れることで、スポーツ活動を通じた子どもたちの健全育成を図ります。	スポーツ少年団 スポーツ振興課



レクリエーションの普及【再掲】	レクリエーション協会などと連携し、子どもが気軽に参加でき、家庭で楽しめるレクリエーションの普及を行います。	スポーツ振興課 スポーツ推進委員 レクリエーション協会 住民自治協議会
総合型地域スポーツクラブの運営【再掲】	地域住民のスポーツ活動を推進するため、世代横断型のスポーツ教室等を開催します。	総合型地域スポーツクラブ スポーツ振興課

## 2 基本目標「みる」 スポーツ活動の普及・啓発

### 施策3 みるスポーツの推進

- 取組み
- スポーツチーム等との連携
  - スポーツを活用した地域の魅力発信や誘客

スポーツへの興味を高める手段として、トップレベルのスポーツに触れる機会をスポーツチームなどと連携し、SNSやケーブルテレビなどの広報媒体の活用により、試合情報やスポーツ教室などの情報発信を図ります。

また、スポーツをコンテンツとして地域の魅力を発信することで誘客を図り地域の活性化を目指します。

#### ① スポーツチーム等との連携

主な取り組み	事業概要	関係組織
伊賀FCくノ一三重との連携	地元で活動する「伊賀FCくノ一三重」の試合や市民交流イベントなどの情報を提供し、市民にスポーツを身近に感じてもらえる機会の提供に努めます。	スポーツ振興課 伊賀FCくノ一三重

#### ② スポーツを活用した地域の魅力発信や誘客

主な取り組み	事業概要	関係組織
スポーツイベントなどの発信	様々な媒体を活用し、市内（全国）におけるスポーツイベントや全国大会出場者などスポーツ選手などの紹介を通じて、スポーツへの関心を高められるよう広報を行います。 例：スポーツ広報誌「忍」、「ここスポ」、ケーブルテレビなど	スポーツ振興課 各実施主体

## 施策4 地域活性化やふれあい機会の醸成

### 取組み ●地域スポーツの推進

市民等が主体となった地域の活性化やふれあいを深める手段として、スポーツ活動や生涯学習を行うことのできる環境整備を目指します。

市内では、住民自治協議会や区（自治会）などによる地域での運動会やレクリエーション行事が開催されていますが、近年少子高齢化などで参加者数が減少し行事の開催が難しくなっています。

そのような中、少人数でも気軽にできるレクリエーションスポーツについてのニーズもあり、地域の日常での「集まり」等の機会を利用し、スポーツ推進委員による種目指導などの取組みを推進します。

主な取組み	事業概要	関係組織
スポーツ推進委員運営事業	市民へのスポーツの実技指導や地域スポーツに関する指導助言を行います。また、スポーツ推進委員に対する研修の充実を図ります。	スポーツ振興課 スポーツ推進委員
地域でのスポーツ行事の開催	各地域での運動会や体験会を通じて市民へのスポーツ活動の関心を深め、体を動かすことで体力向上や親睦を深める交流を行います。	住民自治協議会 区（自治会） スポーツ推進委員
学校体育施設開放事業	小中学校の体育館やグラウンドを学校運営に支障のない範囲で地域や団体に開放します。施設を有効活用し、スポーツの場を提供することで地域スポーツの活性化を図ります。	学校教育課 教育総務課 スポーツ振興課

## 3 基本目標「ささえる」 スポーツ環境の体制整備・施設最適化

### 施策5 競技スポーツの支援・連携

#### 取組み ●トップ選手の競技力向上とスポーツ協会との連携

出場選手の顕彰や市民が応援できる気運を高める機会をつくり、競技力の向上を図るインセンティブを付与することで競技意欲の向上を図ります。

#### トップ選手の競技力の向上とスポーツ協会との連携

主な取組み	事業概要	関係組織
全国大会出場者支援事業	全国大会へ出場する選手を称揚し、激励金の交付や表彰状の付与を行い選手の競技意欲の向上を図ります。 また、懸垂幕の掲出やパブリックビューイングなど、応援する場の設置を行います	スポーツ振興課 スポーツ協会

スポーツ協会運営 支援事業	競技種目の技術力向上を図るため、各種目協会及び団体が所属するスポーツ協会への支援を行います。	スポーツ振興課 スポーツ協会
------------------	--	-------------------

## 施策6 指導者・ボランティアの人材育成と団体の自主財源の確保

- 取組み ●スポーツ指導者・ボランティア育成と発掘  
●既存イベントの運営見直し

団体や指導者、ボランティアの育成を行うとともに、各団体が組織的・安定的、かつ自主的な運営が行えるよう連携を行います。

### ① スポーツ指導者・ボランティアの育成と発掘

主な取り組み	事業概要	関係組織
指導者の育成	各団体が自主的に指導者協議会などを活用し、専門性を確保しつつ後継の指導者を育成します。	指導者協議会 スポーツ協会 スポーツ少年団 総合型地域スポーツクラブ スポーツ振興課
指導者のスキル向上	総合型スポーツクラブの認証制度への移行などにより、各団体が自主的に競技種目の指導者スキル向上を行います。 ※認証制度とは、総合型地域スポーツクラブ全国協議会が定める登録基準を具備していると認められる登録クラブを認証することです。	スポーツ協会 スポーツ少年団 総合型地域スポーツクラブ スポーツ振興課
ボランティアの募集	スポーツイベント開催時に出場者募集と併せてボランティア募集を行ない、円滑なイベント実施と「ささえる」ことでのやりがいを育みます。	各実行委員会 スポーツ協会 スポーツ振興課

### ② 既存イベントの運営見直し

伊賀市では、「伊賀市民スポーツフェスティバル」や「伊賀上野シティマラソン」など、歴史のあるスポーツイベントを開催しています。

しかしながら、少子高齢化の進行等で従前から協力いただいている団体等を中心としたイベントを支える人材の不足、さらには新型コロナウイルス感染症による参加者やスタッフの安全確保などの課題があります。

一方で、従前のスタイルに拘らない自由な発想のもとで、自己資金の確保など各実行委員会が主体的に運営を行うため、新しいイベント運営の在り方や実施組織の強化について、参加団体が主体となった検討を行います。

主な取り組み	事業概要	関係組織
各種イベントの見直し	各実行委員会、スポーツ協会等とイベントの見直しについて検討します。	各実行委員会 スポーツ振興課
各団体の安定的・自立型運営	事務局の在り方等を含め各団体と協議します。	各団体 スポーツ振興課

## 施策7 スポーツ施設整備と利便性の向上

- 取組み ●計画的な施設改修・整備  
●利便性のある実施環境の提供

日常の管理運営をはじめ、老朽化や類似施設については「伊賀市スポーツ施設再編・整備計画」に基づき計画的に整備を行います。

また、身近な施設としての小・中学校の体育館やグラウンドにおける学校開放や、注8) DX を活用した予約システムの構築など利便性に配慮した実施環境の整備に努めます。

### ① スポーツ施設等の充実

主な取り組み	事業概要	関係組織
スポーツ施設整備事業	伊賀市スポーツ施設再編・整備計画に基づき老朽化が進む施設の改修や類似施設の統廃合、多機能化を行い競技環境の向上を図ります。 また、新たなスポーツニーズ（アーバンスポーツ等）にも対応した施設の整備に向け取り組みます。	スポーツ振興課
施設維持管理事業	日常の管理や予約受付等を行ない、安全で快適な競技環境を提供します。	スポーツ振興課 各指定管理者
学校体育施設開放事業【再掲】	小中学校の体育館やグラウンドを学校運営に支障のない範囲で地域や団体に開放します。施設を有効活用しスポーツの場を提供することで地域スポーツの活性化を図ります	学校教育課 教育総務課 スポーツ振興課

### ② 利便性のある実施環境の提供

主な取り組み	事業概要	関係組織
施設利用の利便性の向上	SNSを活用した予約システムの導入を検討するとともに、施設案内などの情報を充実させ利用者の利便性の向上を目指します。 またバリアフリー環境の充実を施設改修に併せ実施する等使いやすい環境を整えます。	スポーツ振興課 各指定管理者

(注8) デジタルトランスフォーメーション (DX) : ICT (情報通信技術) の浸透が人々の生活をあらゆる面でよりよい方向に変化させること。

# 資 料 編

## 資料1 スポーツに関する市民意識調査等の結果

### 1 市民アンケート等調査結果

伊賀市では、スポーツに関する市民意識や活動の状況を把握するため、2021（令和3）年10月に次の対象者に対して調査を行いました。

ア 伊賀市民及び在学・在勤する方を対象に「伊賀市民アンケート調査」

（調査期間：令和3年10月1日から10月31日）  
（調査方法：ロゴフォームを活用したWEB方式）  
（回答者数：509件）

イ スポーツ協会、スポーツ少年団、総合型クラブなどのスポーツ団体

（調査方法：書面による）  
（回答者数：30件）

ウ 住民自治協議会

（調査方法：書面による）  
（回答者数：29件）

エ スポーツ推進委員

（調査方法：書面による）  
（回答者数：22件）

なお、小学生（小5）及び中学生（中2）は「令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告」による集計データを用いることとします。

### ■スポーツを「する」

ア スポーツの好き嫌いと実施頻度

「スポーツが好きか」という問いに対して、いずれの対象においても「好き」「やや好き」と答えた人が、「やや嫌い」または「嫌い」と答えた人を大きく上回っています。

また、「好き」または「やや好き」と答えた人の割合は、小学生92.5%（前回82.3%）、中学生84.9%（同74.0%）、成人79.0%（前回61.9%）となり、年齢が高くなるほど低くなっています。

一方、男女別でみると、「好き」「やや好き」と答えた人が、男性では小学生95.2%、中学生93.8%、

成人 87.4%(前回 71.1%)であるのに対し、女性では小学生 90.3%、中学生 75.7%、成人 67.3% (前回 55.1%) となっており、女性のスポーツに対する関心が低くなっています。

「スポーツの実施頻度(学校の体育時間以外)」という問いに対して、「週に1回以上」と答えた割合は、小学生が91.8%、中学生が66.3%、成人が53.6%となりました。

中学生では、学校の部活動でスポーツをしていることで割合が高くなっています。小学生では実施頻度が9割程度と高い割合になっており、スポーツ少年団の団員が減少傾向にある中、団体競技ではクラブチーム、個人競技では体操やスイミング等に通っている子の割合が増加していると推測されます。

また、成人の「週1回以上スポーツを実施」割合が、前回調査(28.3%)より大幅に増加しており、健康への関心が高まりスポーツを実施する人が増えたと推測されます。

## イ スポーツの実施状況

実施種目ではウォーキングやランニングなどの個人種目が上位を占めています。実施場所については、実施種目を反映して道路の割合が最も高く、次に公共スポーツ施設になっています。

ウォーキングやランニングなどの個人種目が上位になった背景には、身近な環境で気軽に取組めるとともに、コロナ禍により団体競技や屋内競技が控えられた影響も大きいと推測されます。

## ウ スポーツをする・しない理由

「スポーツを実施した」主な理由としては、「楽しみ・気晴らしとして」(49.5%)、「健康のため」(42.2%)、「体力増進・維持のため」(37.9%)となり、心身の健康のためにスポーツをしている人が大半を占めています。

「スポーツをしなかった」主な理由としては、「仕事や家事が忙しくて時間がない」「面倒くさい」などとなり、日常生活におけるゆとりが少ないことが伺えます。

また、男女別では、男性が「仕事や家事が忙しくて時間がない」、女性が「面倒くさい」との理由が最も高くなり、年代別では、10代が「面倒くさい」、他の年代は「仕事や家事が忙しく時間がない」との理由が最も高くなりました。

## エ 自身の健康度合い

「健康だと思いますか」という問いに対して、「健康である」と答えた人が、10代(50.9%)、20代(41.9%)、30代(32.9%)、40代(23.8%)、50代(21.8%)となり、年齢が上がるにつれて自身の健康に不安を感じている人の割合が高くなっています。

また、「運動不足を感じますか」という問いに対して、「大いに感じる」「ある程度感じる」と答えた人の合計割合が、10代(67.0%)、20代(71.0%)、30代(75.0%)、40代(82.8%)、50代(88.5%)となり、年齢が上がるにつれて若干割合が高くなるものの大きな差はなく、逆にスポーツ実施頻度の高い10代でも運動不足と感じている人の割合が高くなっています。

運動の実施頻度と健康だと思う人の集計をしたところ、「健康である、どちらかといえば健康である」人の割合は、運動の実施頻度が「年に1~3日」の人(47.6%)、「3ヶ月に1~2日」の人(72.7%)、「月に1~3日」の人(75.8%)、「週に1日以上」の人(81.2%)、「週に2日以上」の人(87.5%)、「週に3日以上」の人(95.2%)となり、運動の実施頻度が上がるにつれて健康だと思う人の割合

が高くなっています。

「日常生活の中でどの程度充実感がありますか」という問いに対して、「十分充実感がある、まあ充実感がある」人の割合は、10代(75.5%)、20代(71.0%)、30代(69.7%)、40代(68.5%)、50代(63.2%)、60代(70.0%)で、若い年齢ほど充実感がある人の割合が高くなっています。

## ■スポーツを「みる」

### ア スポーツ観戦の頻度

「スポーツ観戦に関心がありますか」という問いに対して、「することにも観戦にも関心がある」(54%)、「することには関心がないが観戦することには関心がある」(21%)となり、75%の人が観戦に関心があるとの結果になりました。

また、「スポーツをすることにも観戦することにも関心がない」人は9%で、91%の人が何らかの形でスポーツに関心があるとの結果になりました。

### イ 地域におけるスポーツ実施状況

「住民自治協議会主催のスポーツ行事はありますか」という問いに対して、「ある」(83%)となり、大半の地域で何らかのスポーツ行事が開催されています。

また、開催回数は年2回が34%と最も高く、次いで1回が29%、3回が17%となっています。「スポーツ推進委員へ期待することは何ですか」という問いに対して、「レクリエーションスポーツの普及啓発」が51.7%と最も高くなっています。

スポーツ推進委員に「日々どのような活動を行っていますか」尋ねたところ、「住民自治協議会の会議に構成員として参加」が72.7%と最も高くなっています。

### ウ イベントの見直し

住民自治協議会、スポーツ推進委員に「スポーツイベント(伊賀上野シティマラソン、伊賀市民スポーツフェスティバル、伊賀地区駅伝)に満足していますか」尋ねたところ、住民自治協議会では、「満足している」(35%)、「満足していない」(17%)、「どちらでもない、わからない」(48%)となりました。

スポーツ推進委員では、「満足している」(53%)、「満足していない」(33%)、「どちらでもない、わからない」(14%)となりました。

また、住民自治協議会に「市民スポーツフェスティバルの実施方法や種目について」尋ねたところ、「競技志向の高い種目ではなく、レクリエーションやニュースポーツを取り入れる」が48.3%と最も高く、次いで「地域に関係なく自由に参加できるようにしたほうが良い」が24.1%となりました。



## ■スポーツを「ささえる」

### ア ボランティアなどの実施状況及びやってみたい希望

「今後スポーツに関するボランティア活動に参加したいですか」という問いに対して、「参加したい」(25%)、「参加したくない」(23%)となりました。

また、「どのようなきっかけや動機づけがあれば、スポーツに関するボランティア活動を行ったり続けたりすると思いますか」という問いに対して、「好きなスポーツの普及・支援」が55.5%と最も高くなりました。

### イ 指導者に求める要素

「運動・スポーツを行うにあたり、どのようなスポーツ指導者が必要だと思いますか」という問いに対して、「スポーツが好きになるような指導ができる人」が73.9%と最も高く、次いで「健康・体づくりのための指導ができる人」が44.0%となりました。

### ウ スポーツ施設への要望

「伊賀市のスポーツ施設に何か望むことがありますか」という問いに対して、「スポーツ施設やスポーツ行事の充実」が53.0%と最も高く、次いで「利用手続き、料金支払いなどの簡素化」が45.6%となりました。

### エ 情報を得る手段(DXなど)

「伊賀市内のスポーツに関する情報はどこから入手していますか」という問いに対して、「家族・友人・知人からの口コミ」が47.5%と最も高く、次いで「広報いが」が38.7%となりました。

また、「どのようなスポーツ情報が欲しいですか」という問いに対して、「スポーツ教室の案内」が37.1%と最も高く、次いで「スポーツ施設に関する情報」が32.8%となりました。

### オ スポーツ団体の現状

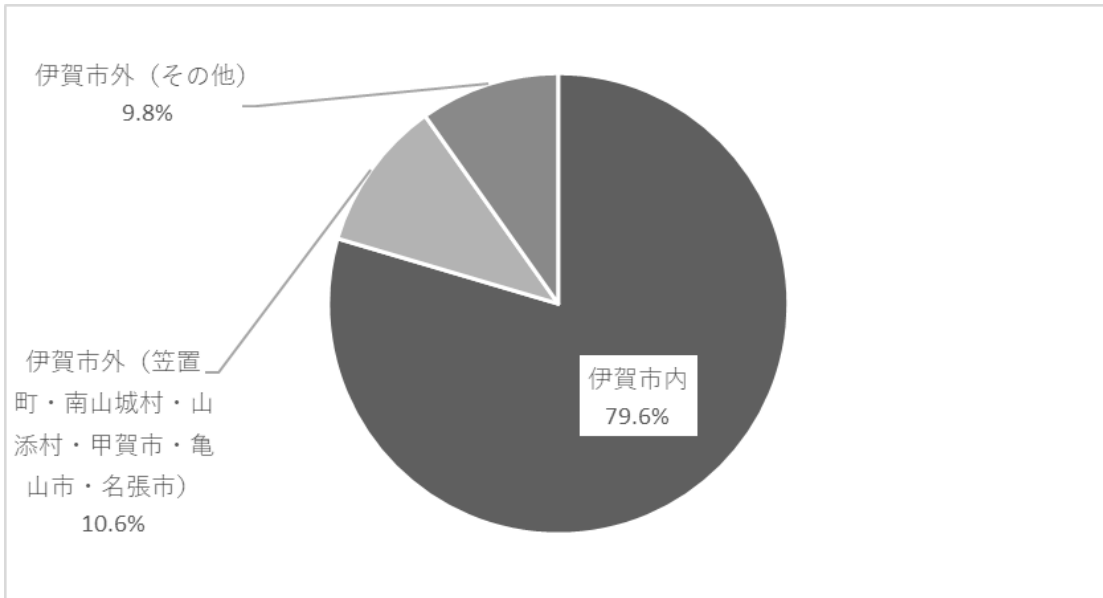
スポーツ協会、スポーツ少年団に「会員数の増減について」尋ねたところ、80%の団体で減少傾向にあり、理由としては、「高齢化による退会者の増加」(62.5%)、「少子化により子どもの数が少ない」(45.8%)となりました。

また、「団体における課題は何ですか」という問いに対して、「会員数の減少」が74.2%と最も高く、次いで「役員の後継者がいない」が41.9%となりました。

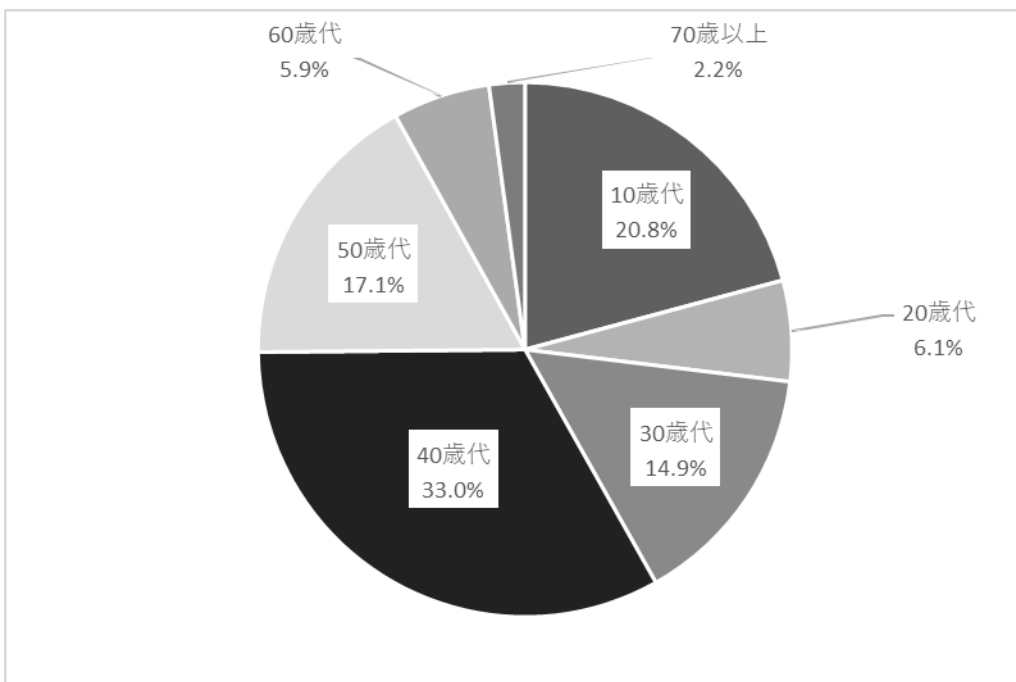
# 令和3年度 伊賀市スポーツに関するアンケート調査

## ■市民用アンケート

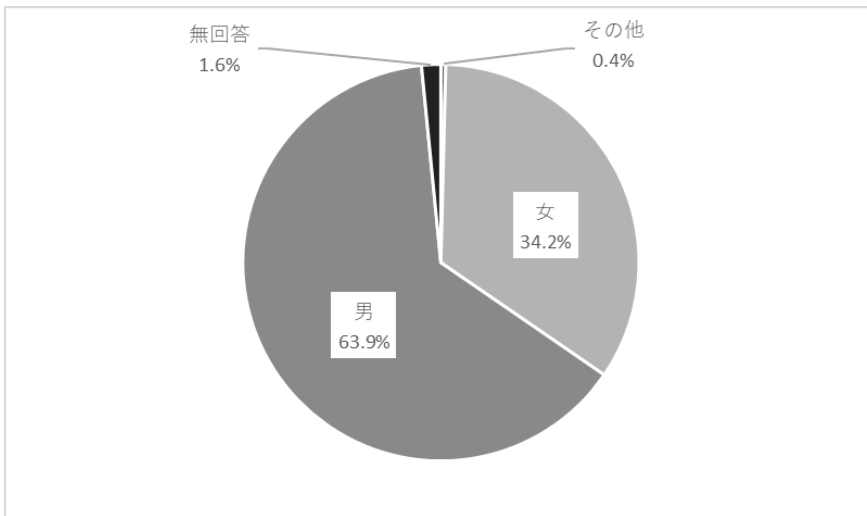
### 問1 居住地を教えてください



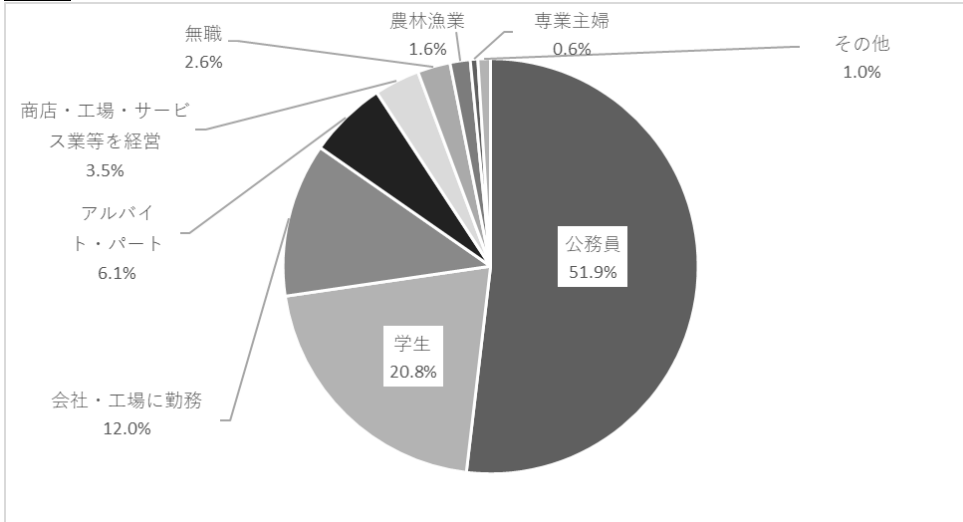
### 問2 年齢を教えてください



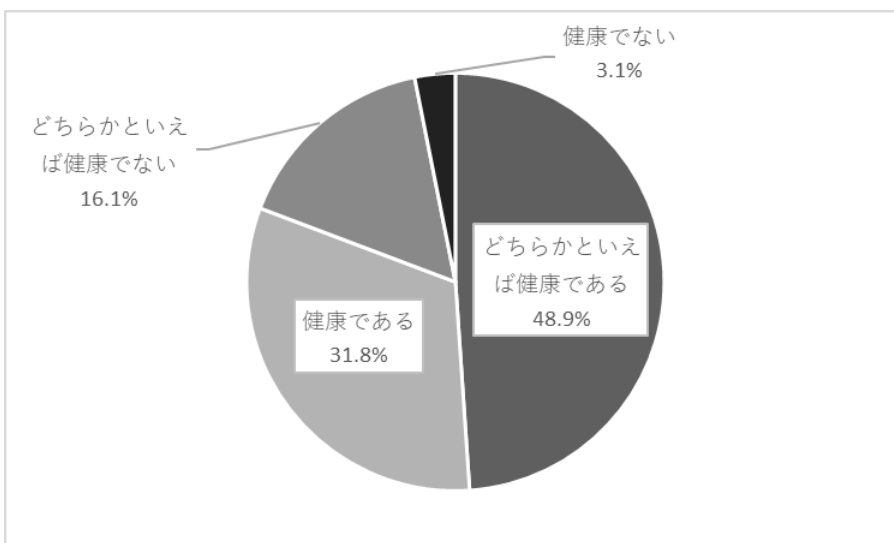
**問3** 性別を教えてください



**問4** ご職業を教えてください



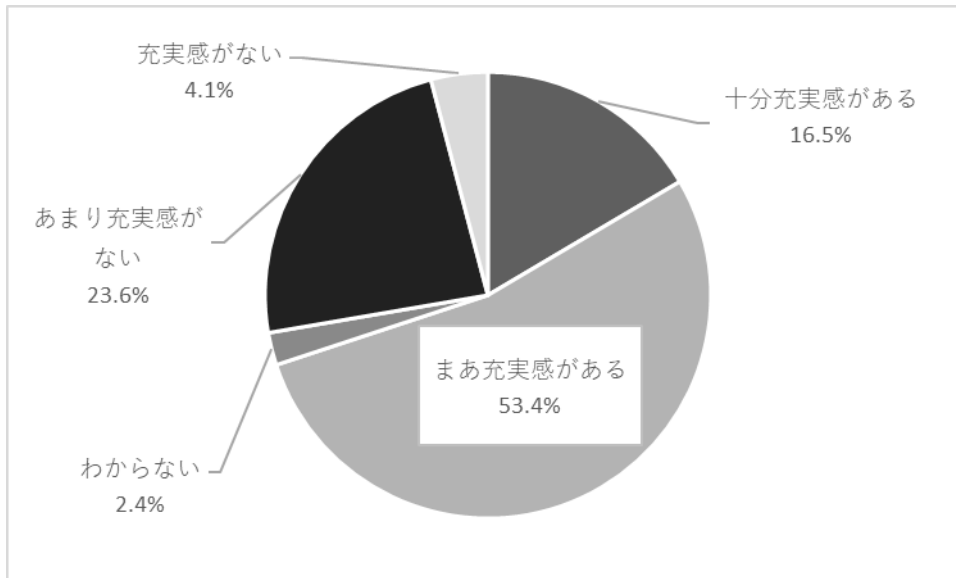
**問5** 最近、健康だと思いますか



**問5-1** 最近、健康だと思いますか（年齢別）

	10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上		総計	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
健康である	54	50.9%	13	41.9%	25	32.9%	40	23.8%	19	21.8%	8	26.7%	3	27.3%	162	31.8%
どちらかといえば健康である	41	38.7%	13	41.9%	38	50.0%	90	53.6%	43	49.4%	18	60.0%	6	54.5%	249	48.9%
どちらかといえば健康でない	9	8.5%	4	12.9%	12	15.8%	30	17.9%	23	26.4%	2	6.7%	2	18.2%	82	16.1%
健康でない	2	1.9%	1	3.2%	1	1.3%	8	4.8%	2	2.3%	2	6.7%	0	0.0%	16	3.1%
総計	106	100.0%	31	100.0%	76	100.0%	168	100.0%	87	100.0%	30	100.0%	11	100.0%	509	100.0%

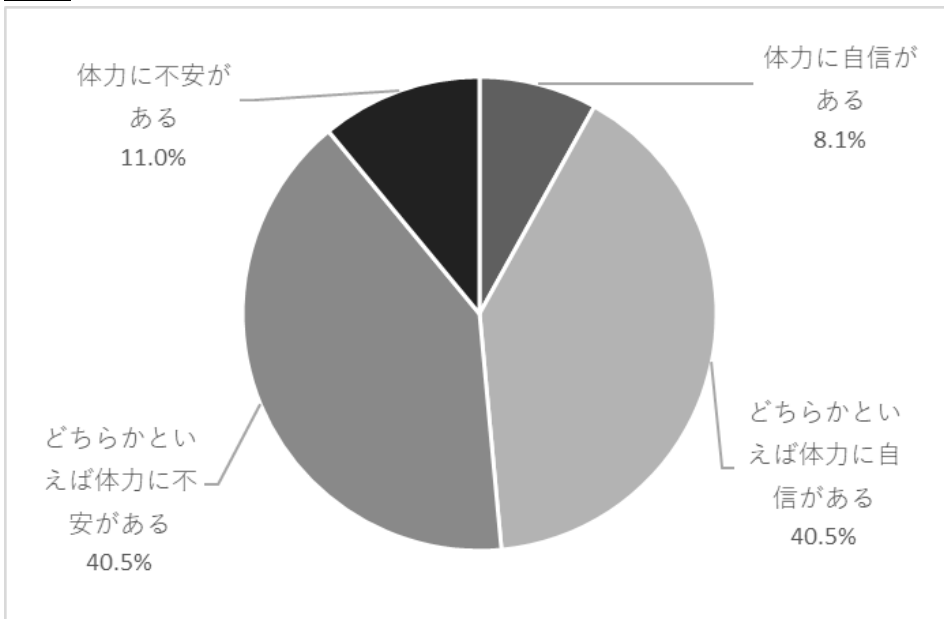
**問6** 日常生活の中でどの程度充実感がありますか



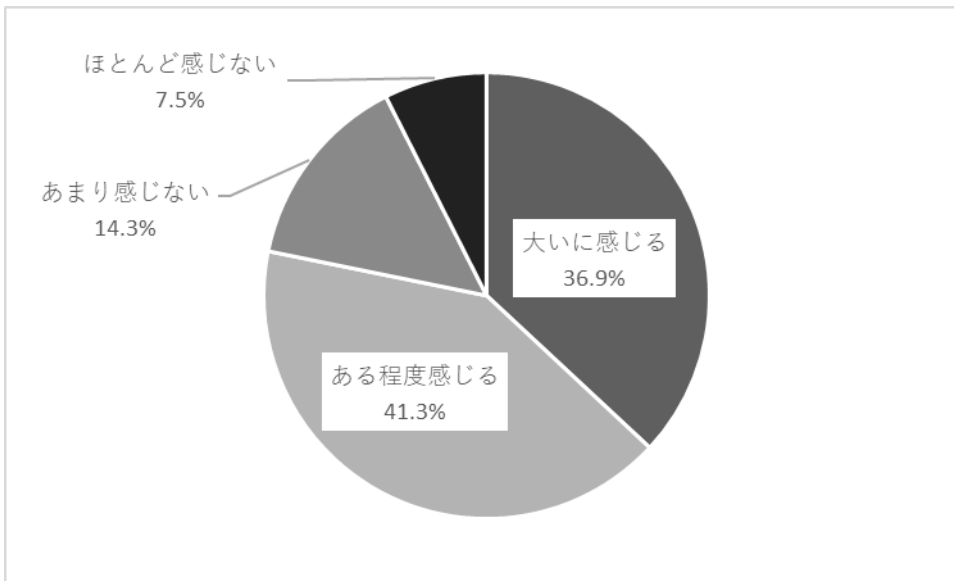
**問6-1** 日常生活の中でどの程度充実感がありますか（年齢別）

	10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上		総計	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
十分充実感がある	28	26.4%	3	9.7%	13	17.1%	25	14.9%	5	5.7%	7	23.3%	3	27.3%	84	16.5%
まあ充実感がある	52	49.1%	19	61.3%	40	52.6%	90	53.6%	50	57.5%	14	46.7%	7	63.6%	272	53.4%
あまり充実感が無い	19	17.9%	7	22.6%	17	22.4%	42	25.0%	25	28.7%	9	30.0%	1	9.1%	120	23.6%
充実感が無い	2	1.9%	1	3.2%	4	5.3%	8	4.8%	6	6.9%	0	0.0%	0	0.0%	21	4.1%
わからない	5	4.7%	1	3.2%	2	2.6%	3	1.8%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	12	2.4%
総計	106	100.0%	31	100.0%	76	100.0%	168	100.0%	87	100.0%	30	100.0%	11	100.0%	509	100.0%

**問7** ご自分の体力についてどのように感じていますか



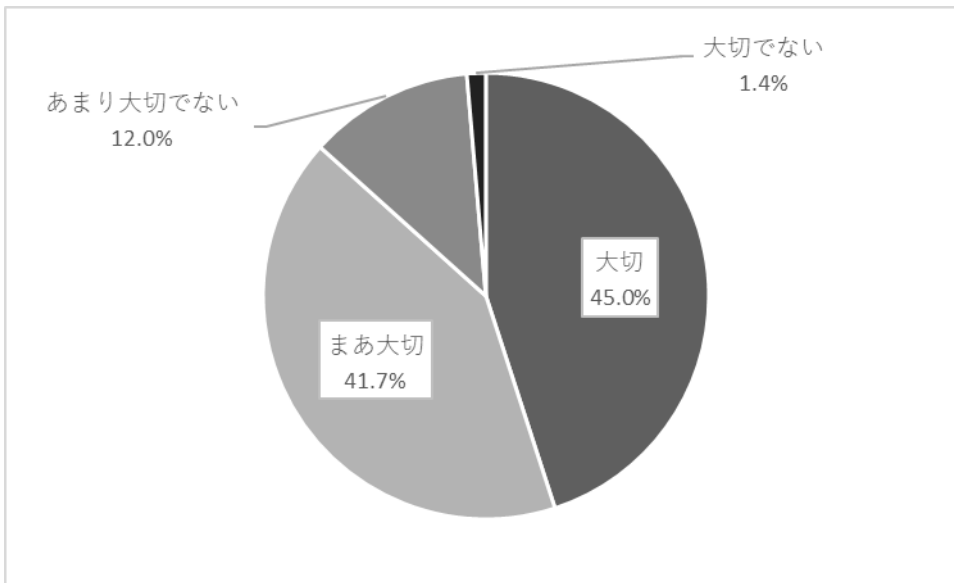
**問8** 普段、運動不足を感じますか



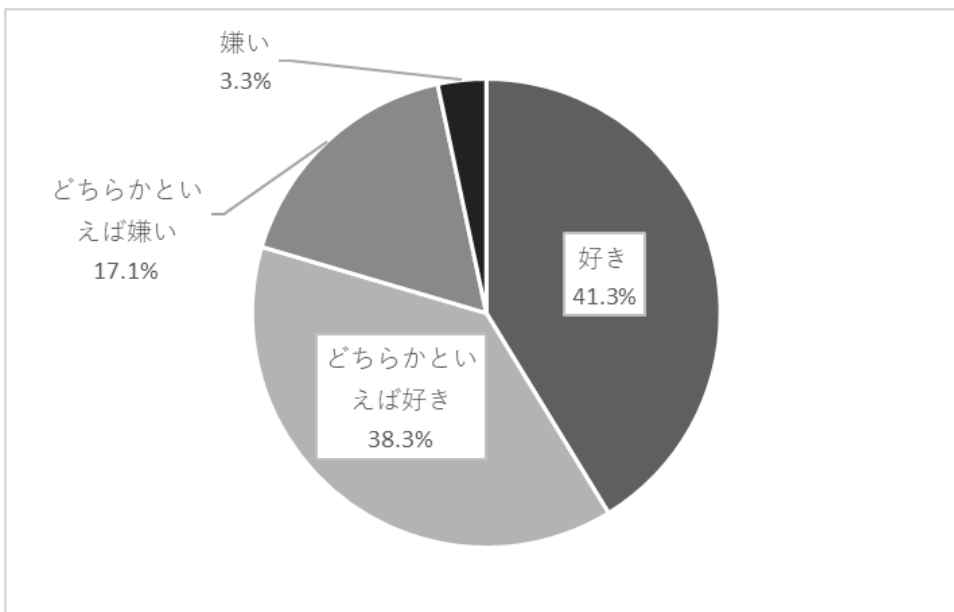
**問8-1** 普段、運動不足を感じますか（年齢別）

	10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上		総計	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
大いに感じる	29	27.4%	6	19.4%	27	35.5%	73	43.5%	39	44.8%	12	40.0%	2	18.2%	188	36.9%
ある程度感じる	42	39.6%	16	51.6%	30	39.5%	66	39.3%	38	43.7%	13	43.3%	5	45.5%	210	41.3%
あまり感じない	20	18.9%	6	19.4%	14	18.4%	20	11.9%	6	6.9%	5	16.7%	2	18.2%	73	14.3%
ほとんど感じない	15	14.2%	3	9.7%	5	6.6%	9	5.4%	4	4.6%	0	0.0%	2	18.2%	38	7.5%
総計	106	100.0%	31	100.0%	76	100.0%	168	100.0%	87	100.0%	30	100.0%	11	100.0%	509	100.0%

**問9** あなたにとって運動・スポーツは大切なものですか



**問10** 運動やスポーツ活動など身体を動かすことが好きですか



**問10-1** 運動やスポーツ活動など身体を動かすことが好きですか（年齢別）

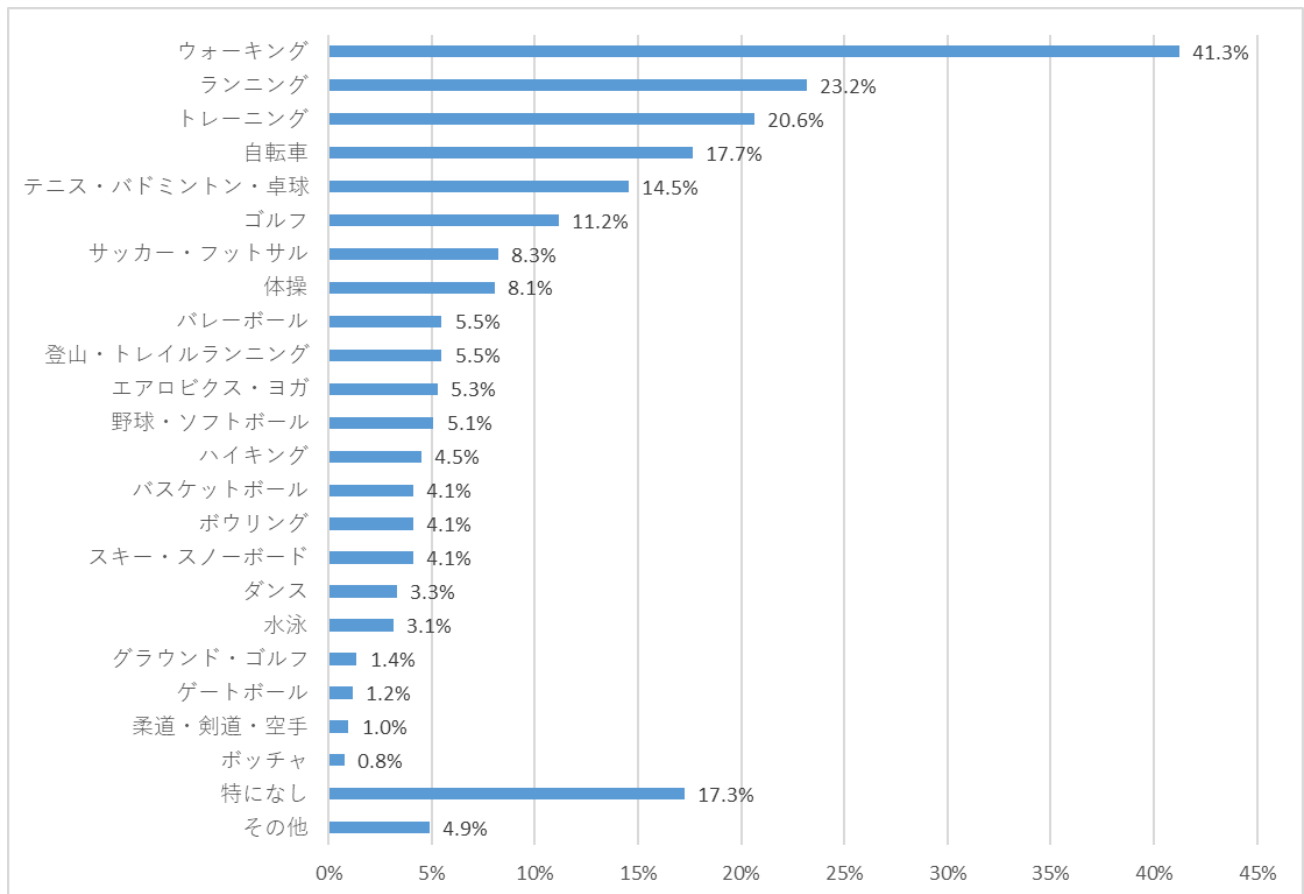
	10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上		総計	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
好き	45	42.5%	14	45.2%	42	55.3%	72	42.9%	23	26.4%	9	30.0%	5	45.5%	210	41.3%
どちらかといえば好き	33	31.1%	10	32.3%	27	35.5%	63	37.5%	42	48.3%	17	56.7%	3	27.3%	195	38.3%
どちらかといえば嫌い	21	19.8%	6	19.4%	7	9.2%	29	17.3%	18	20.7%	4	13.3%	2	18.2%	87	17.1%
嫌い	7	6.6%	1	3.2%	0	0.0%	4	2.4%	4	4.6%	0	0.0%	1	9.1%	17	3.3%
総計	106	100.0%	31	100.0%	76	100.0%	168	100.0%	87	100.0%	30	100.0%	11	100.0%	509	100.0%

**問 10-2** 運動やスポーツ活動など身体を動かすことが好きですか（男女別）

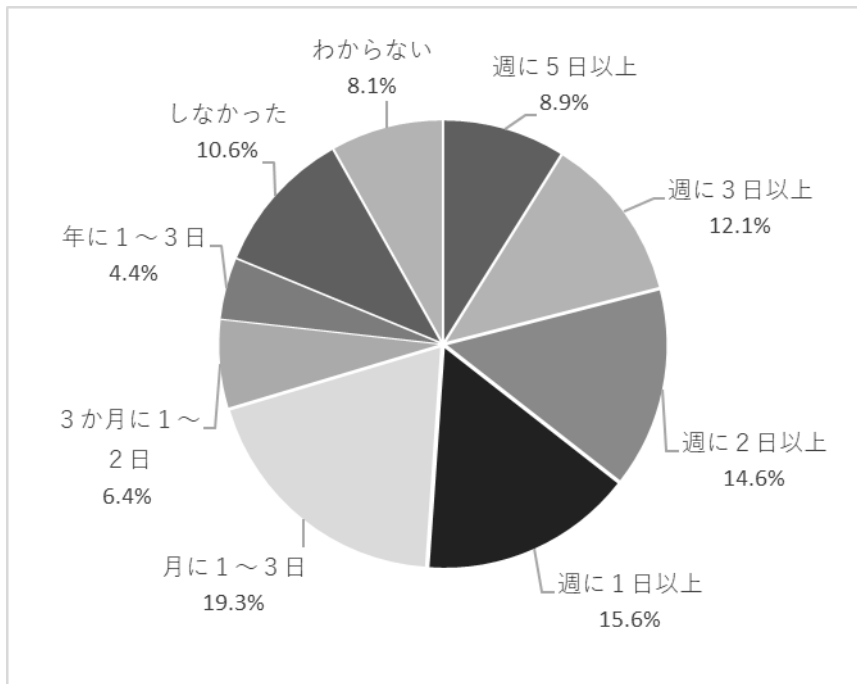
	男		女		その他		無回答		総計	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
好き	157	48.3%	52	29.9%	0	0.0%	1	12.5%	210	41.3%
どちらかといえば好き	127	39.1%	65	37.4%	1	50.0%	2	25.0%	195	38.3%
どちらかといえば嫌い	37	11.4%	46	26.4%	0	0.0%	4	50.0%	87	17.1%
嫌い	4	1.2%	11	6.3%	1	50.0%	1	12.5%	17	3.3%
総計	325	100.0%	174	100.0%	2	100.0%	8	100.0%	509	100.0%

●運動・スポーツの実施状況と今後の意向について

**問 11** あなたがこの1年間に実施した運動・スポーツがあれば多いものから3つ選択してください（学校の授業として実施したものや、職業として実施したものは除きます）



**問 12** この1年間に運動・スポーツを実施した日数を全部合わせると、何日くらいになりますか



**問 12-1** この1年間に運動・スポーツを実施した日数を全部合わせると、何日くらいになりますか（年齢別）

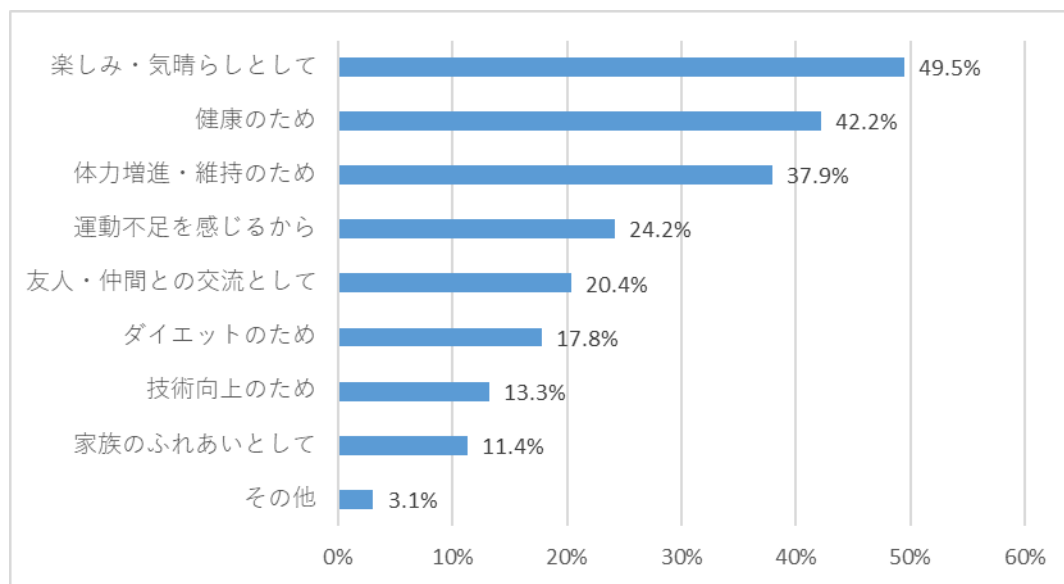
	10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上		総計	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
週に5日以上	26	24.5%	4	12.9%	4	5.3%	10	6.0%	4	4.6%	2	6.7%	3	27.3%	53	10.4%
週に3日以上	16	15.1%	9	29.0%	15	19.7%	14	8.3%	5	5.7%	1	3.3%	3	27.3%	63	12.4%
週に2日以上	12	11.3%	2	6.5%	14	18.4%	28	16.7%	7	8.0%	7	23.3%	2	18.2%	72	14.1%
週に1日以上	18	17.0%	6	19.4%	9	11.8%	33	19.6%	14	16.1%	4	13.3%	1	9.1%	85	16.7%
月に1~3日	5	4.7%	4	12.9%	18	23.7%	39	23.2%	22	25.3%	6	20.0%	1	9.1%	95	18.7%
3か月に1~2日	0	0.0%	2	6.5%	7	9.2%	11	6.5%	10	11.5%	3	10.0%	0	0.0%	33	6.5%
年に1~3日	1	0.9%	2	6.5%	2	2.6%	7	4.2%	8	9.2%	1	3.3%	0	0.0%	21	4.1%
しなかった	5	4.7%	0	0.0%	4	5.3%	17	10.1%	12	13.8%	5	16.7%	1	9.1%	44	8.6%
わからない	23	21.7%	2	6.5%	3	3.9%	9	5.4%	5	5.7%	1	3.3%	0	0.0%	43	8.4%
総計	106	100.0%	31	100.0%	76	100.0%	168	100.0%	87	100.0%	30	100.0%	11	100.0%	509	100.0%

**問 12-2** この1年間に運動・スポーツを実施した日数を全部合わせると、何日くらいになりますか（男女別）

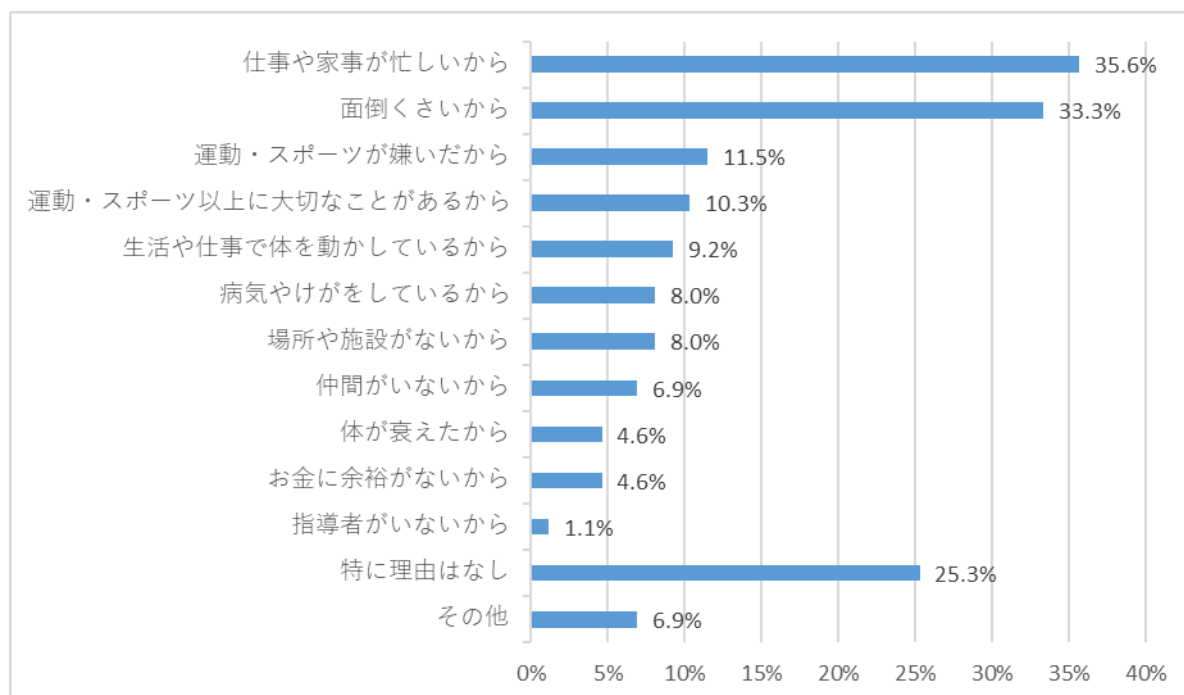
	男		女		その他		無回答		総計	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
週に5日以上	34	10.5%	17	9.8%	1	50.0%	1	12.5%	53	10.4%
週に3日以上	47	14.5%	14	8.0%	1	50.0%	1	12.5%	63	12.4%
週に2日以上	53	16.3%	19	10.9%	0	0.0%	0	0.0%	72	14.1%
週に1日以上	60	18.5%	22	12.6%	0	0.0%	3	37.5%	85	16.7%
月に1~3日	59	18.2%	36	20.7%	0	0.0%	0	0.0%	95	18.7%
3か月に1~2日	19	5.8%	14	8.0%	0	0.0%	0	0.0%	33	6.5%
年に1~3日	12	3.7%	9	5.2%	0	0.0%	0	0.0%	21	4.1%
しなかった	24	7.4%	20	11.5%	0	0.0%	0	0.0%	44	8.6%
わからない	17	5.2%	23	13.2%	0	0.0%	3	37.5%	43	8.4%
総計	325	100.0%	174	100.0%	2	100.0%	8	100.0%	509	100.0%



**問 13** **問 12**で①～⑦と回答した方にお聞きします。この1年間に、あなたが運動やスポーツを実施したのはどのような理由からですか（3つまで）



**問 14** **問 12**で⑧～⑩と回答した方にお聞きします。この1年間に、運動やスポーツをしなかったのはどのような理由からですか（3つまで）



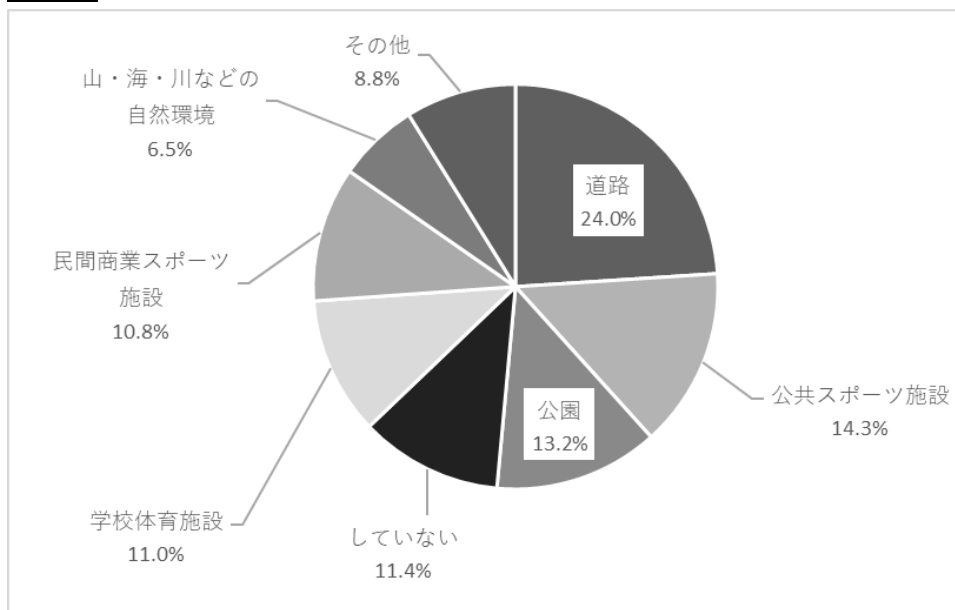
問 14-1 問 12 で⑧～⑨と回答した方にお聞きします。この1年間に、運動やスポーツをしなかったのはどのような理由からですか（年齢別）

	10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上		総計	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
仕事や家事が忙しいから	2	5.4%	2	66.7%	3	21.4%	13	31.7%	11	30.6%	0	0.0%	0	0.0%	31	26.7%
面倒くさいから	13	35.1%	0	0.0%	3	21.4%	3	7.3%	6	16.7%	3	27.3%	1	50.0%	29	25.0%
運動・スポーツが嫌いだから	4	10.8%	0	0.0%	0	0.0%	2	4.9%	4	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	10	8.6%
運動・スポーツ以上に大切なことがあるから	2	5.4%	0	0.0%	0	0.0%	5	12.2%	2	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	9	7.8%
生活や仕事で体を動かしているから	1	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	3	7.3%	2	5.6%	2	18.2%	0	0.0%	8	6.9%
場所や施設がないから	1	2.7%	0	0.0%	3	21.4%	2	4.9%	0	0.0%	1	9.1%	0	0.0%	7	6.0%
病気やけがをしているから	0	0.0%	0	0.0%	1	7.1%	3	7.3%	3	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	7	6.0%
仲間がないから	3	8.1%	0	0.0%	1	7.1%	1	2.4%	1	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	6	5.2%
お金に余裕がないから	0	0.0%	0	0.0%	1	7.1%	2	4.9%	1	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	4	3.4%
体が衰えたから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	5.6%	2	18.2%	0	0.0%	4	3.4%
指導者がいないから	1	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%
特に理由はなし	10	27.0%	1	33.3%	1	7.1%	4	9.8%	2	5.6%	3	27.3%	1	50.0%	22	19.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	1	7.1%	3	7.3%	2	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	6	5.2%
総回答者数	28	100.0%	2	100.0%	7	100.0%	26	100.0%	23	100.0%	6	100.0%	1	100.0%	87	100.0%
総回答数	37	132.1%	3	150.0%	14	200.0%	41	157.7%	36	156.5%	11	183.3%	2	200.0%	144	165.5%

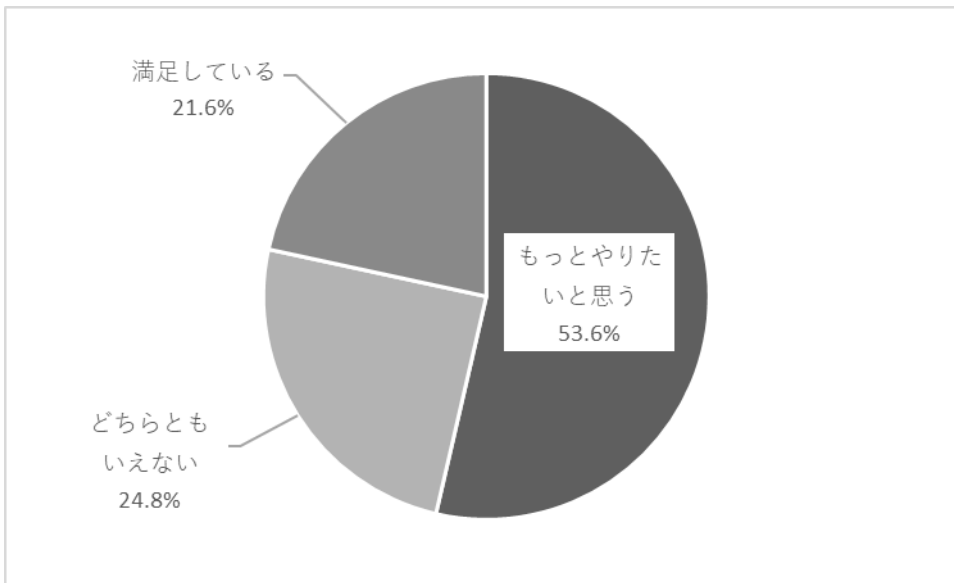
問 14-2 問 12 で⑧～⑨と回答した方にお聞きします。この1年間に、運動やスポーツをしなかったのはどのような理由からですか（男女別）

	男		女		その他		無回答		総計	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
仕事や家事が忙しいから	15	20.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	31	26.7%
面倒くさいから	11	15.3%	18	26.5%	0	0.0%	0	0.0%	29	25.0%
運動・スポーツが嫌いだから	4	5.6%	6	8.8%	0	0.0%	0	0.0%	10	8.6%
運動・スポーツ以上に大切なことがあるから	7	9.7%	2	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	9	7.8%
生活や仕事で体を動かしているから	4	5.6%	4	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	8	6.9%
場所や施設がないから	4	5.6%	3	4.4%	0	0.0%	0	0.0%	7	6.0%
病気やけがをしているから	4	5.6%	3	4.4%	0	0.0%	0	0.0%	7	6.0%
仲間がないから	3	4.2%	2	2.9%	0	0.0%	1	25.0%	6	5.2%
お金に余裕がないから	3	4.2%	1	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	4	3.4%
体が衰えたから	3	4.2%	1	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	4	3.4%
指導者がいないから	0	0.0%	1	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%
特に理由はなし	10	13.9%	10	14.7%	0	0.0%	2	50.0%	22	19.0%
その他	4	5.6%	2	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	6	5.2%
総回答者数	41	100.0%	43	100.0%	0	0.0%	3	100.0%	87	100.0%
総回答数	72	175.6%	68	158.1%	0	0.0%	4	133.3%	144	165.5%

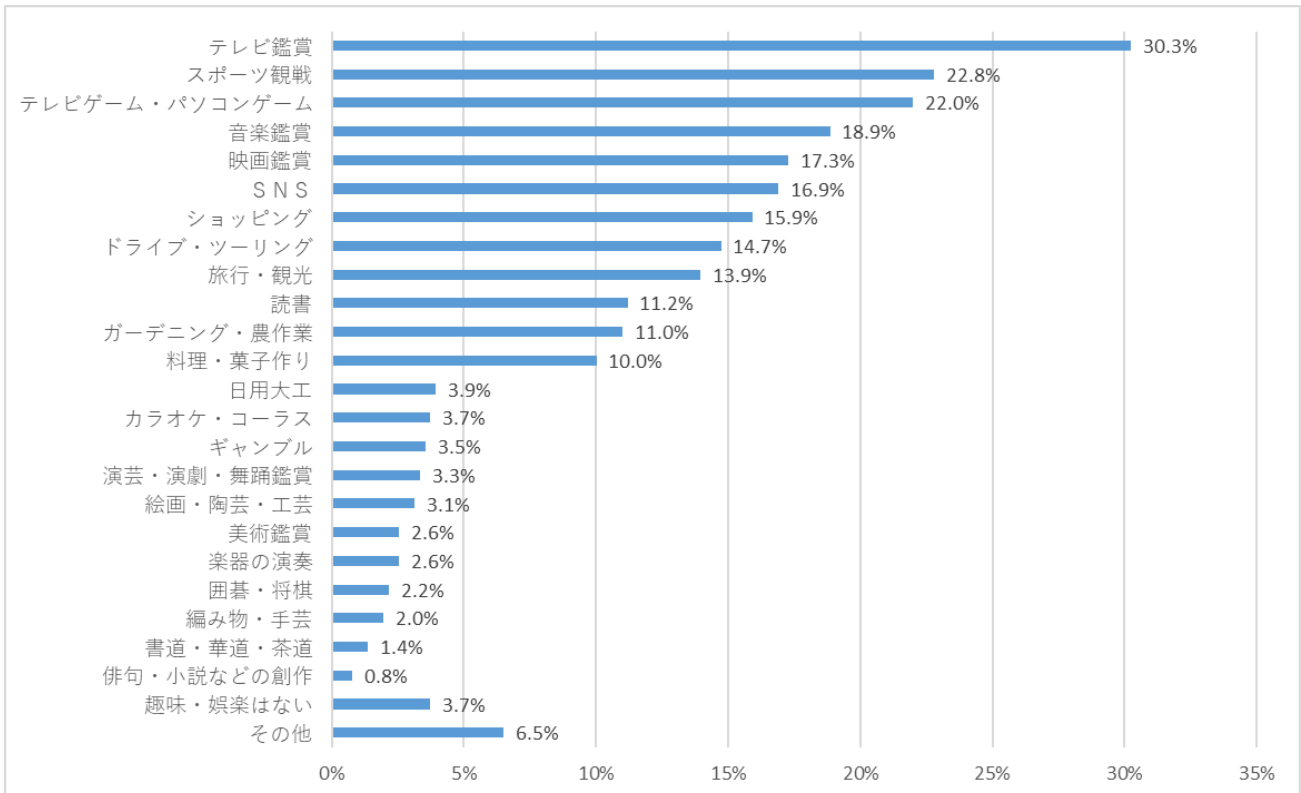
問 15 主にどこで運動やスポーツを行っていますか



**問 16** 現在の運動・スポーツの実施頻度に満足していますか

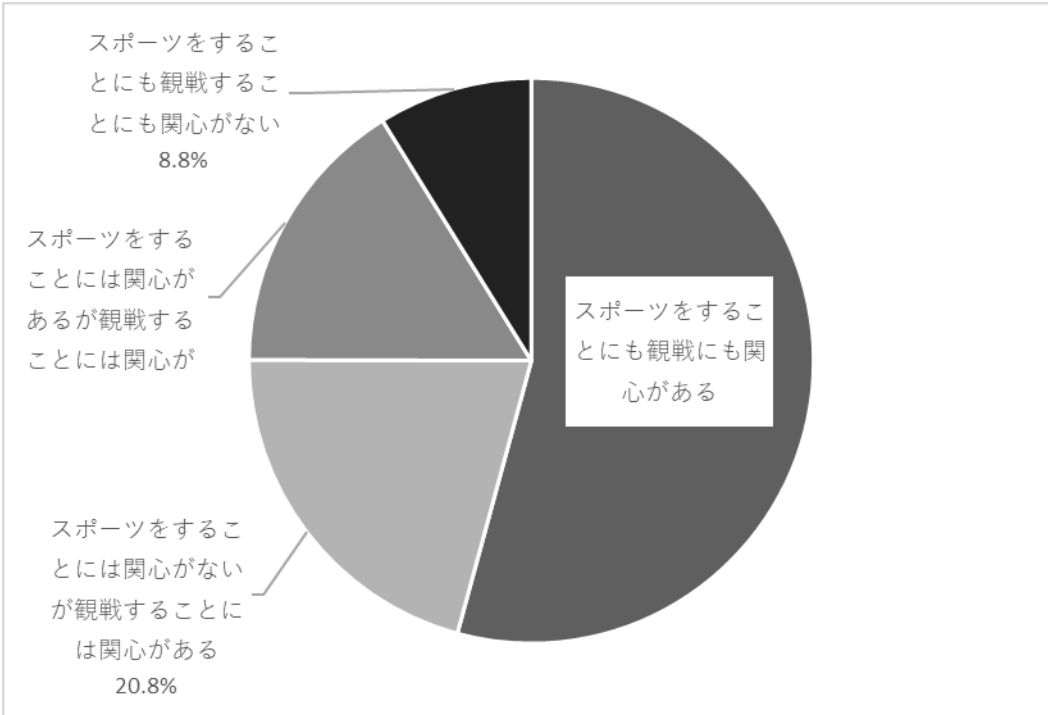


**問 17** 運動・スポーツを実施する以外に日頃行っている趣味・娯楽は何ですか（3つまで）

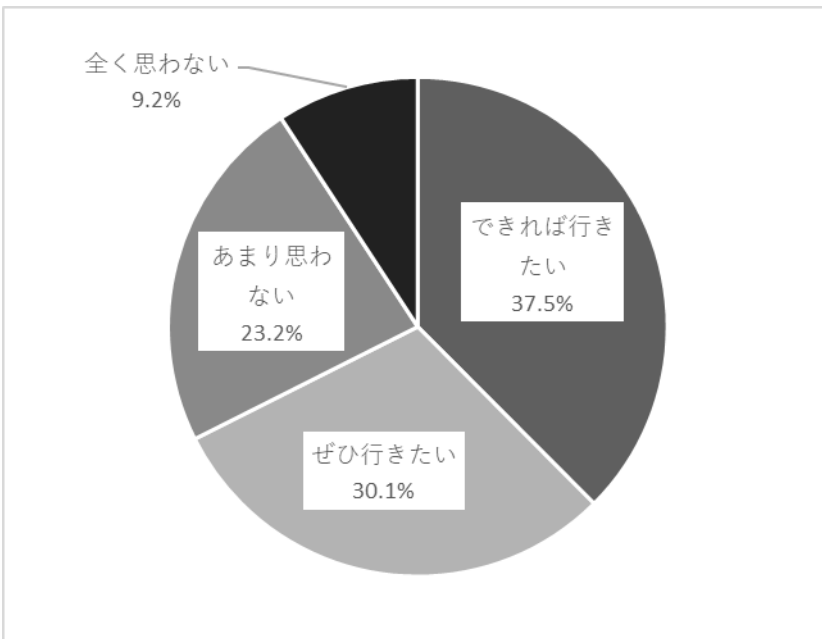


●スポーツ観戦について

問 18 スポーツ観戦（会場での観戦、テレビやインターネットでの観戦）に関心がありますか

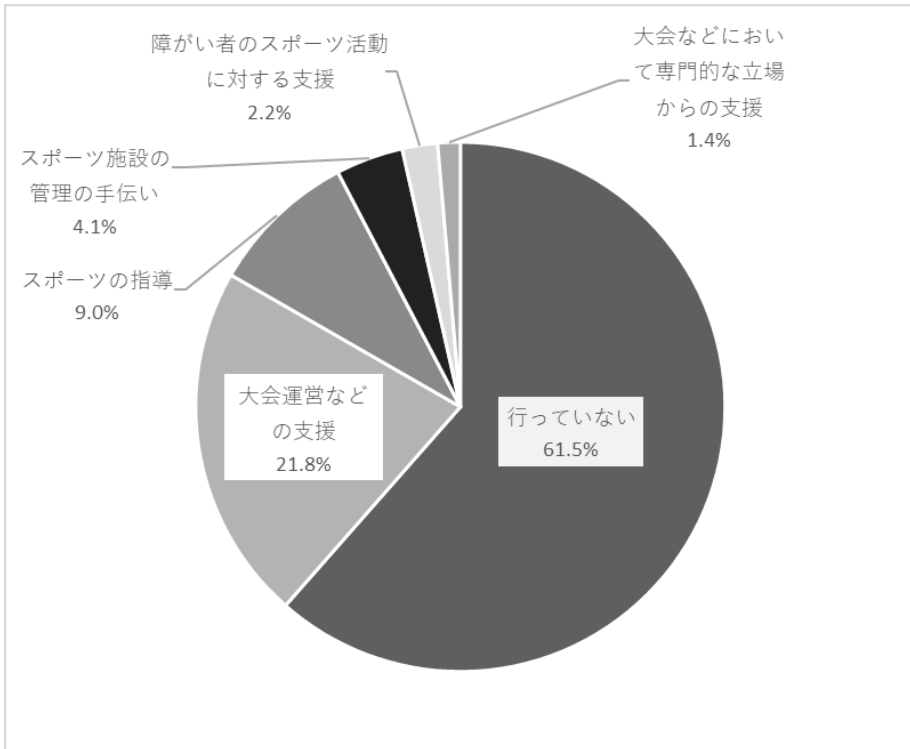


問 19 会場でスポーツ観戦ができるチャンスがあれば行きたいですか

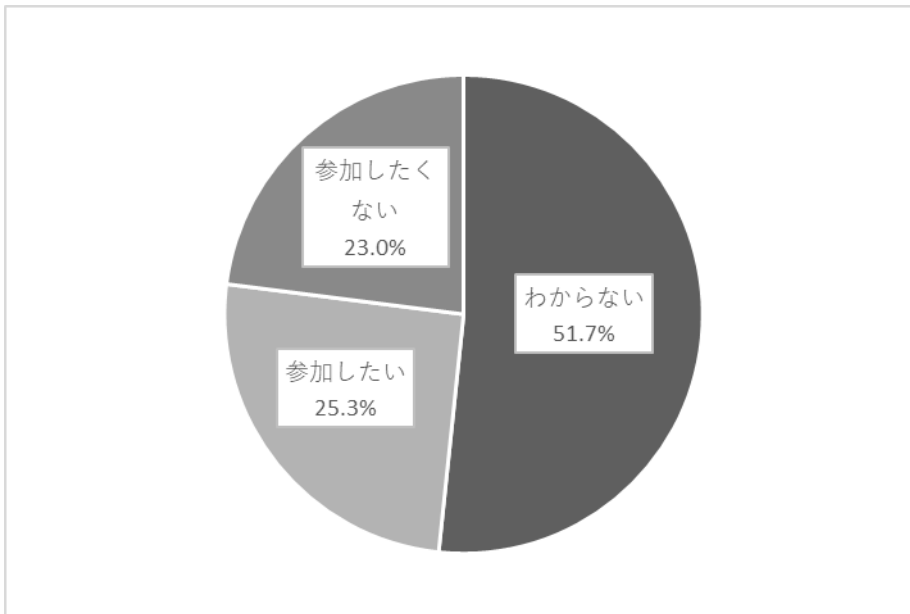


●ボランティア活動について

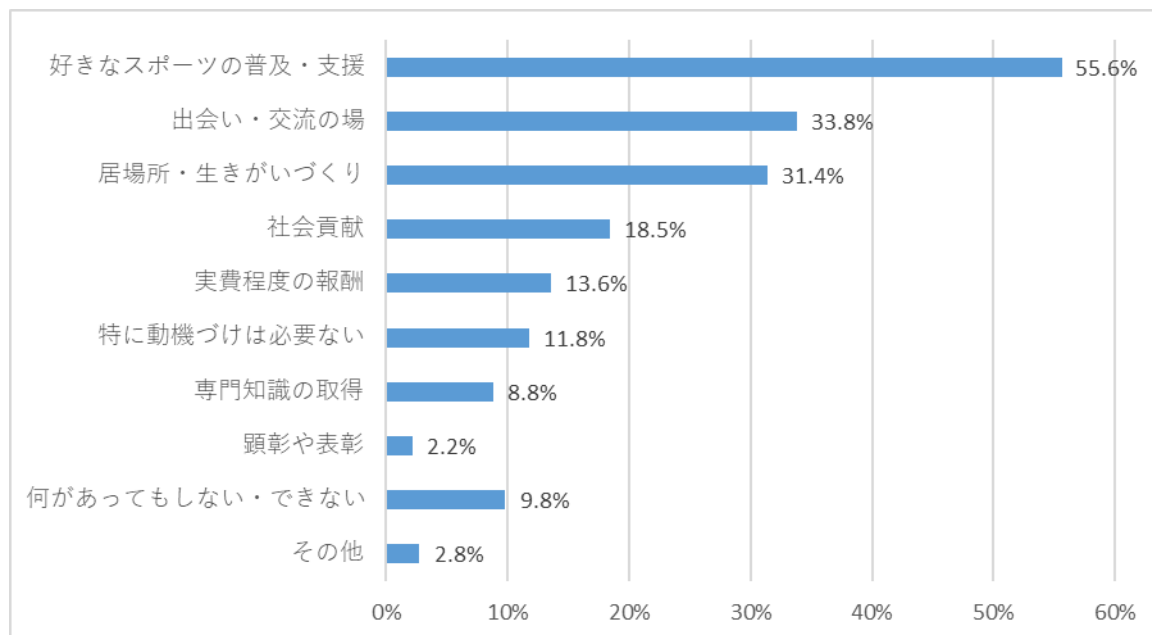
問 20 スポーツに関わるボランティア活動としてどのようなものを行いましたか



問 21 今後スポーツに関するボランティア活動に参加したいですか

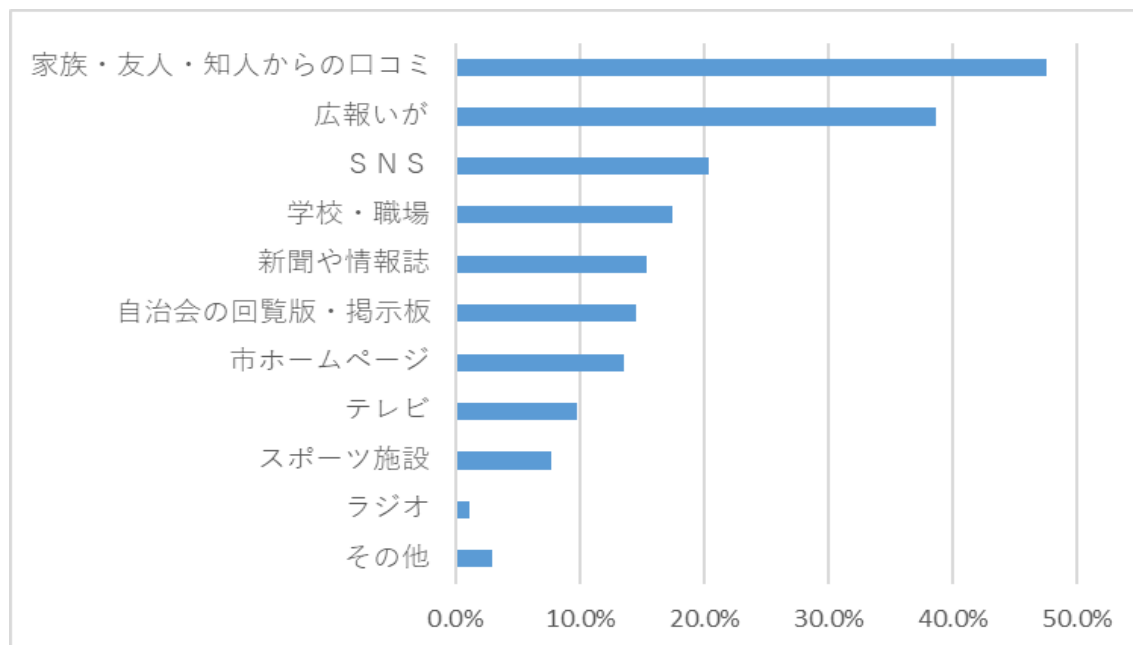


**問 22** どのようなきっかけや動機づけ（モチベーション）があれば、スポーツに関するボランティア活動を行ったり続けたりすると思いますか（3つまで）

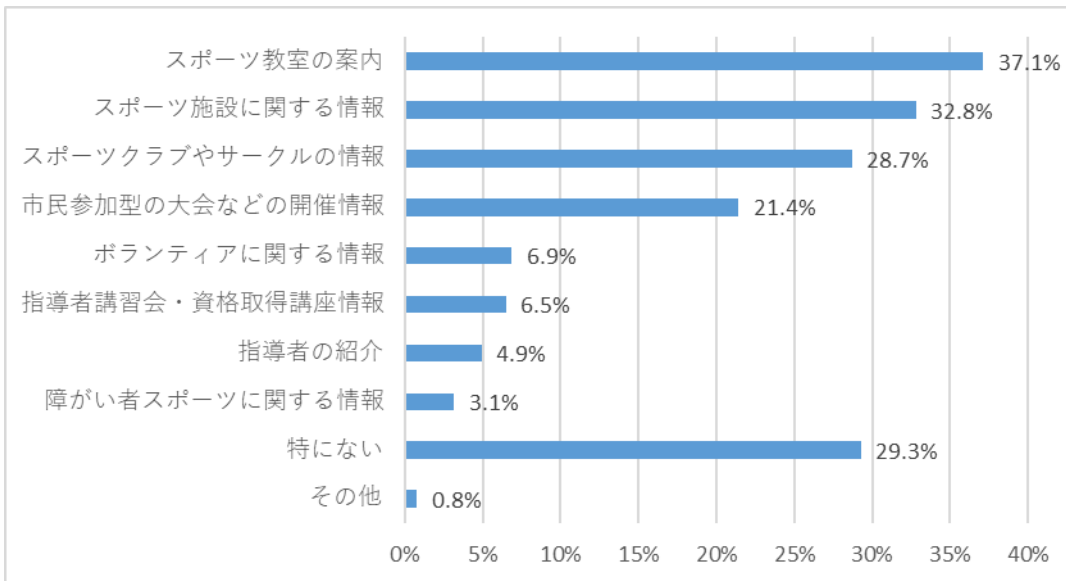


●スポーツ環境について

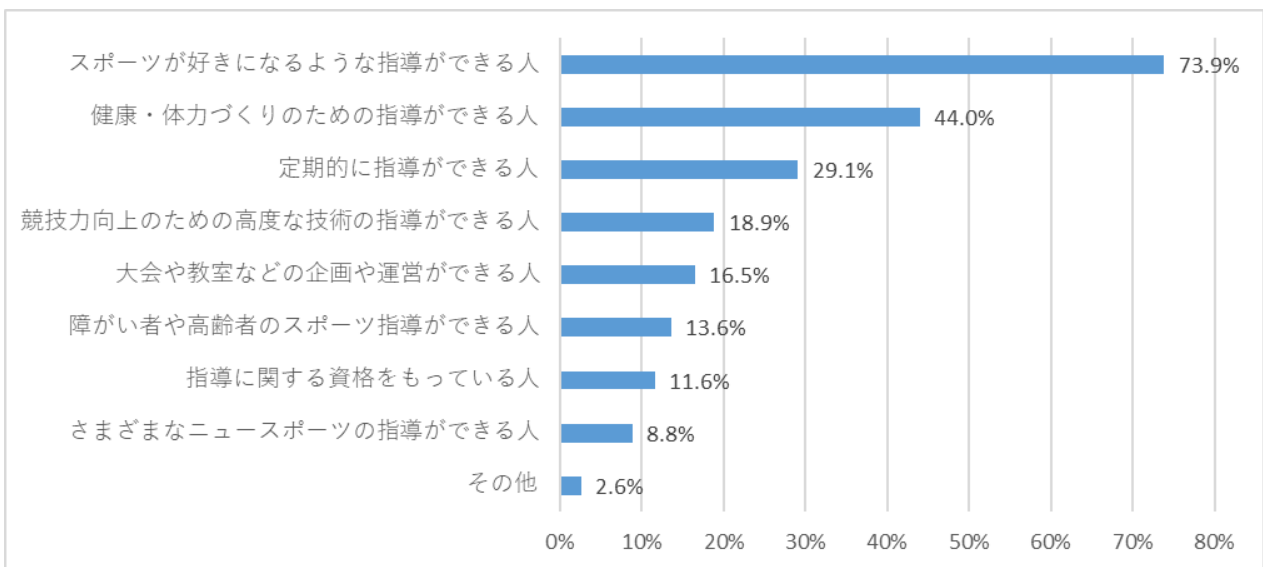
**問 23** 伊賀市内のスポーツに関する情報はどこから入手していますか（3つまで）



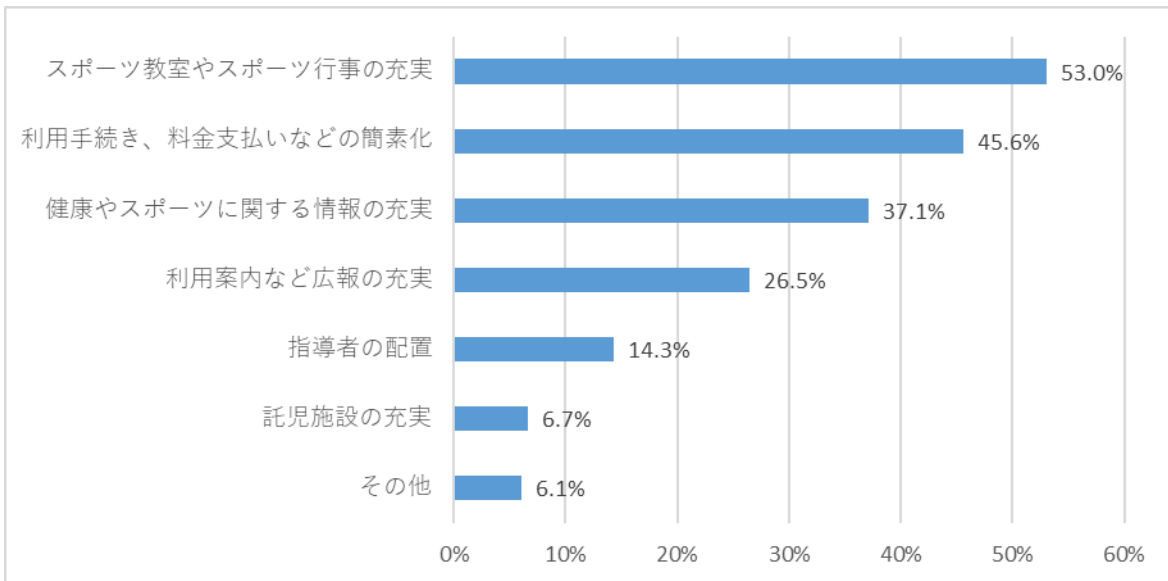
**問24** どのようなスポーツ情報が欲しいですか（3つまで）



**問25** 運動・スポーツを行うにあたり、どのようなスポーツ指導者が必要だと思いますか（3つまで）

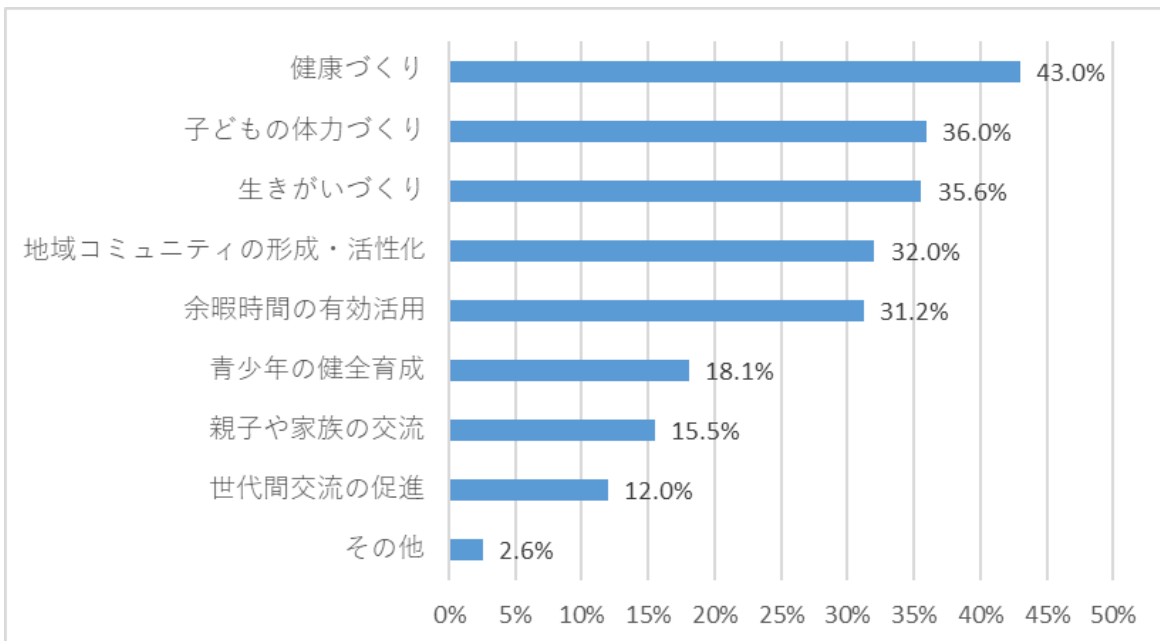


**問 26** 伊賀市のスポーツ施設に何か望むことがありますか（3つまで）



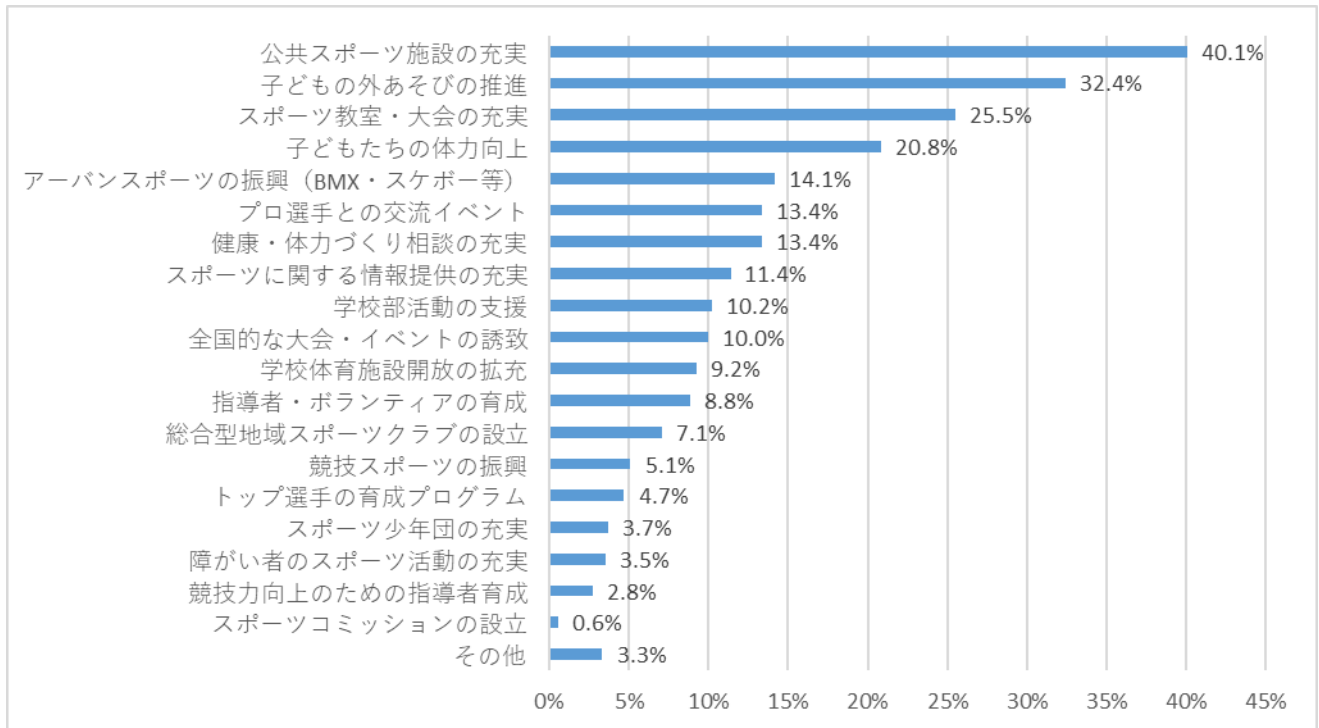
●スポーツ振興について

**問 27** 伊賀市におけるスポーツ振興にどのような効果を期待しますか（3つまで）

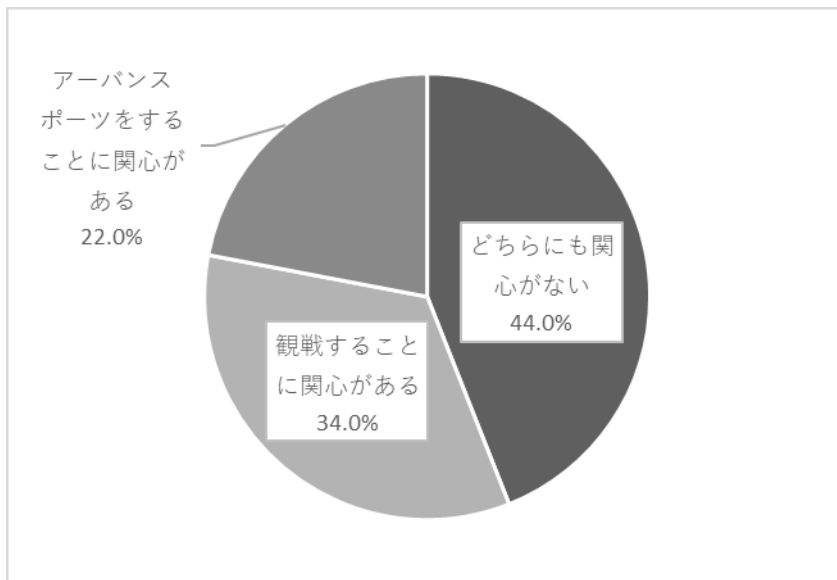




**問 28** スポーツをもっと振興させるために伊賀市に今後どのようなことに力を入れてもらいたいと思いますか（3つまで）

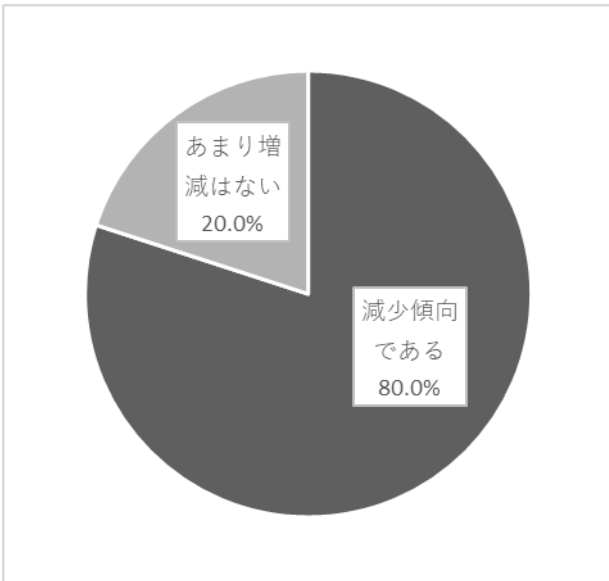


**問 29** アーバンスポーツ（BMX・スケボー等）への関心がありますか

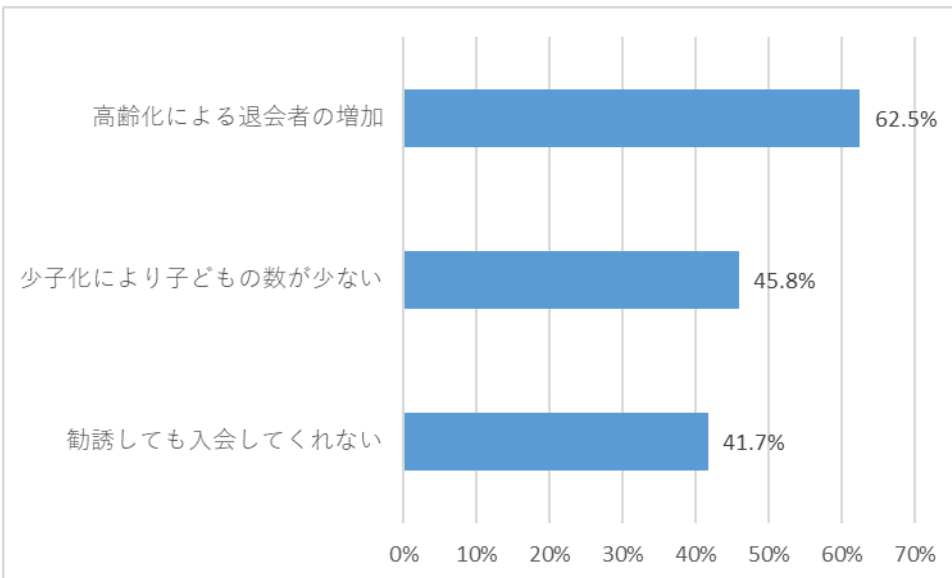


■伊賀市スポーツ協会・伊賀市スポーツ少年団・総合型地域スポーツクラブアンケート

問2 会員数の増減について当てはまるものに○をつけてください。

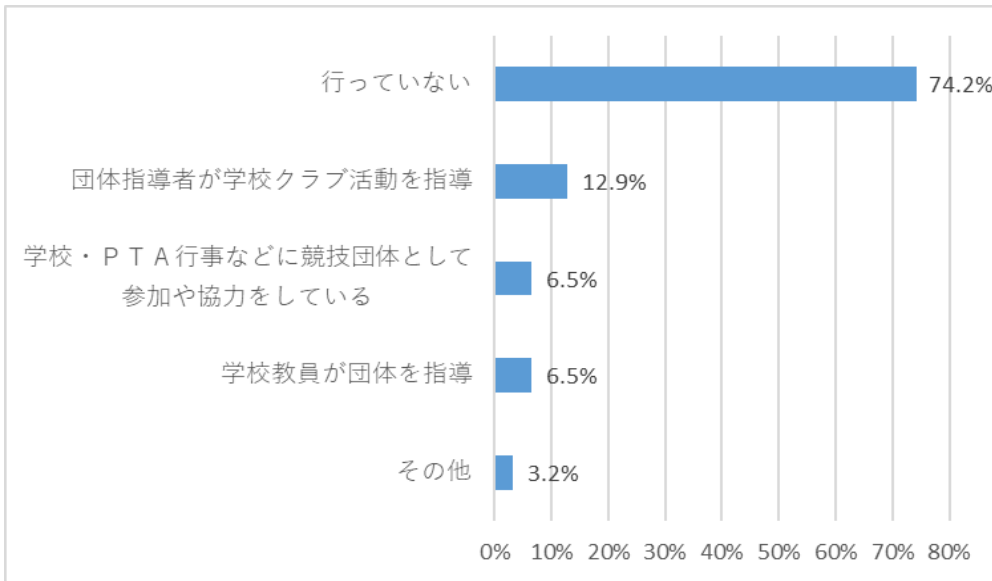


問4 問2で「3. 減少傾向である」と回答した方にお聞きします。その理由として考えられるものに○をつけてください。（複数選択可）

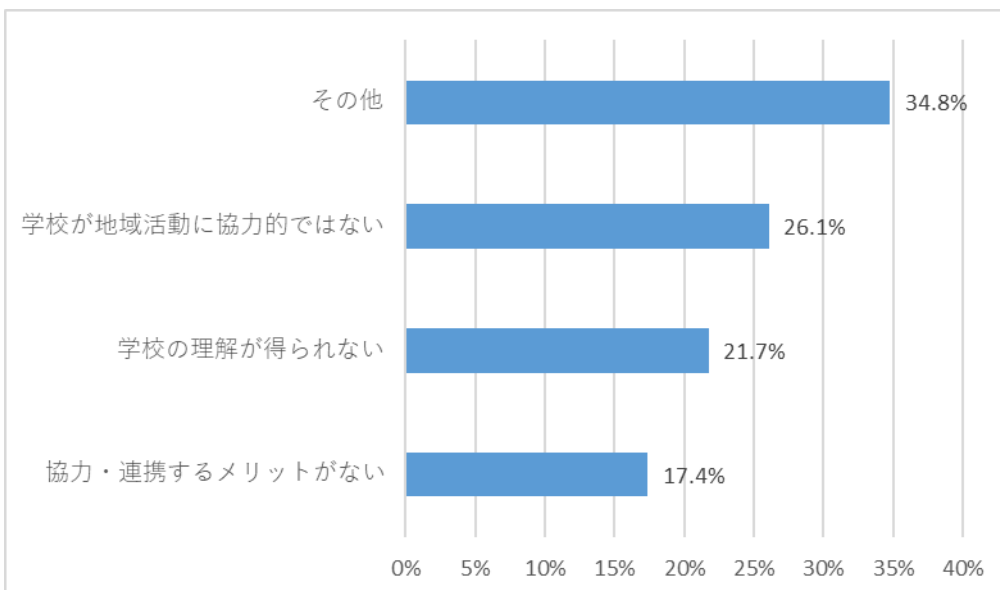


【団体活動について】

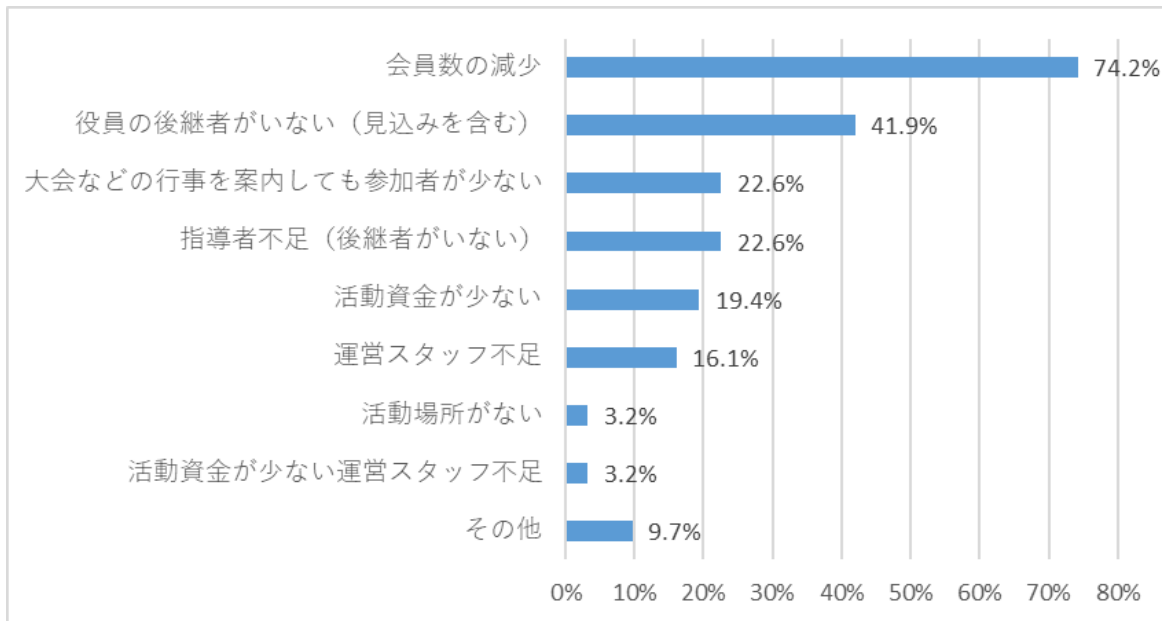
問5 学校活動と協力・連携した活動を行っていますか。



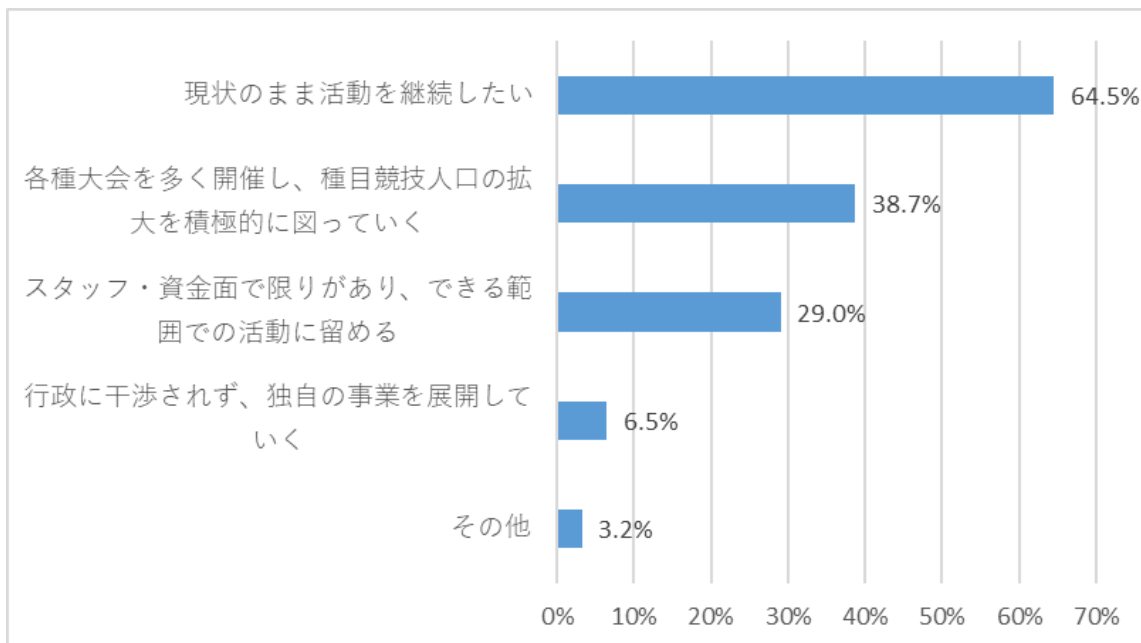
問6 問5で「4. 行っていない」と回答した方にお聞きします。その理由として考えられるものに○をつけてください。(複数選択可)



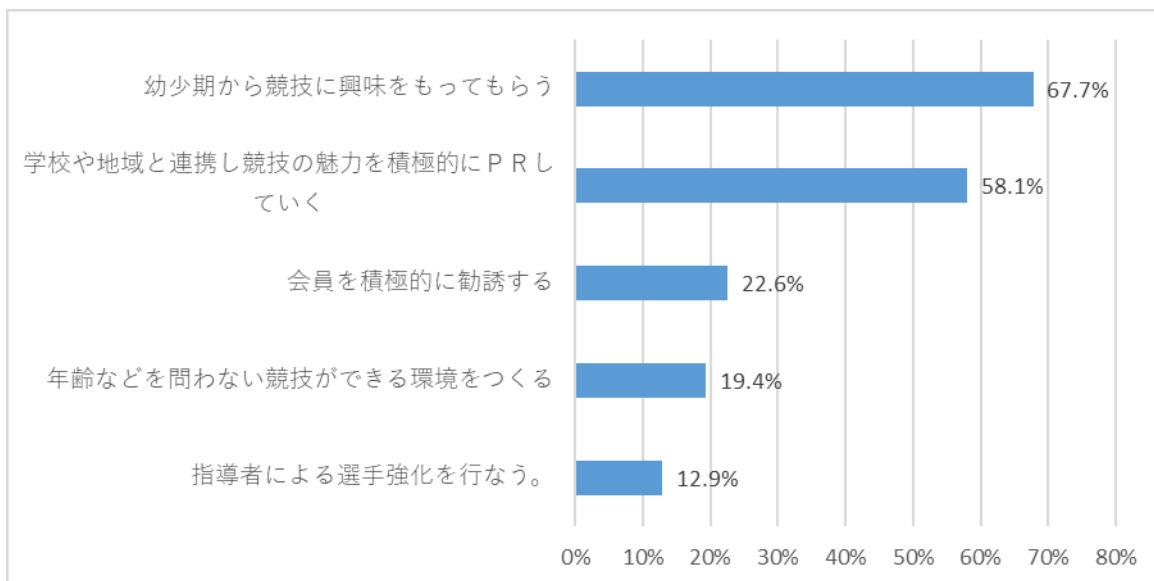
**問7** 現在団体における課題は何ですか。当てはまるものに○をつけてください。(複数回答可)



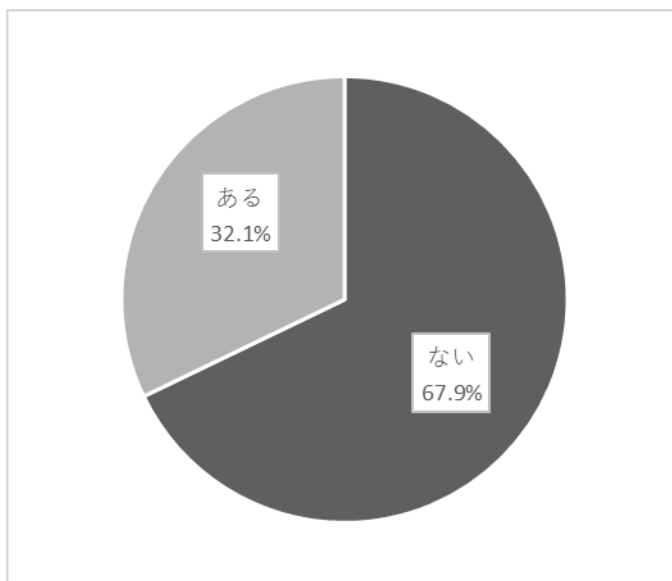
**問9** 今後の活動について当てはまるものに○をつけてください。(複数回答可)



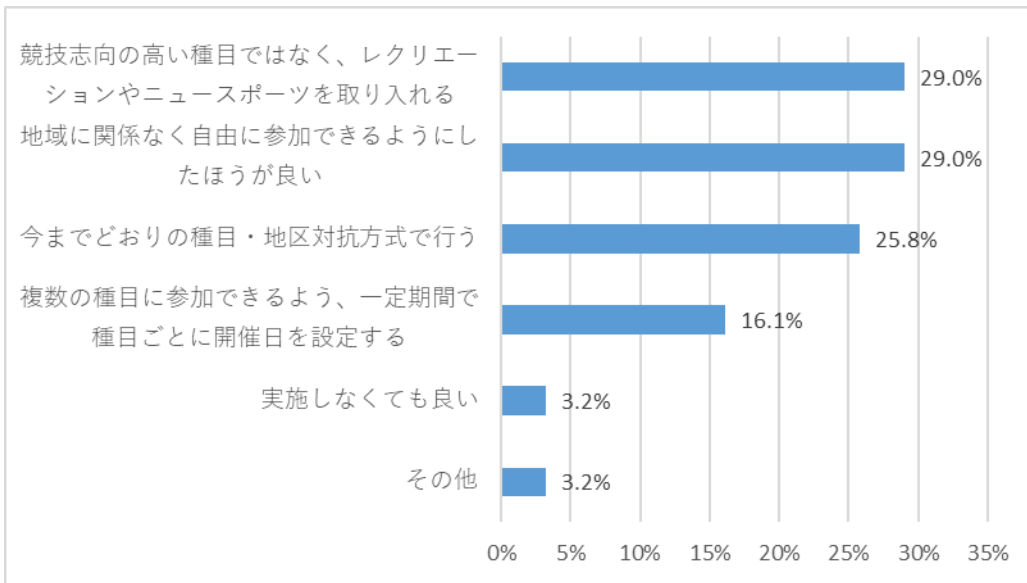
**問10** 競技人口を増やすためにどうすれば良いと思いますか。(複数回答可)



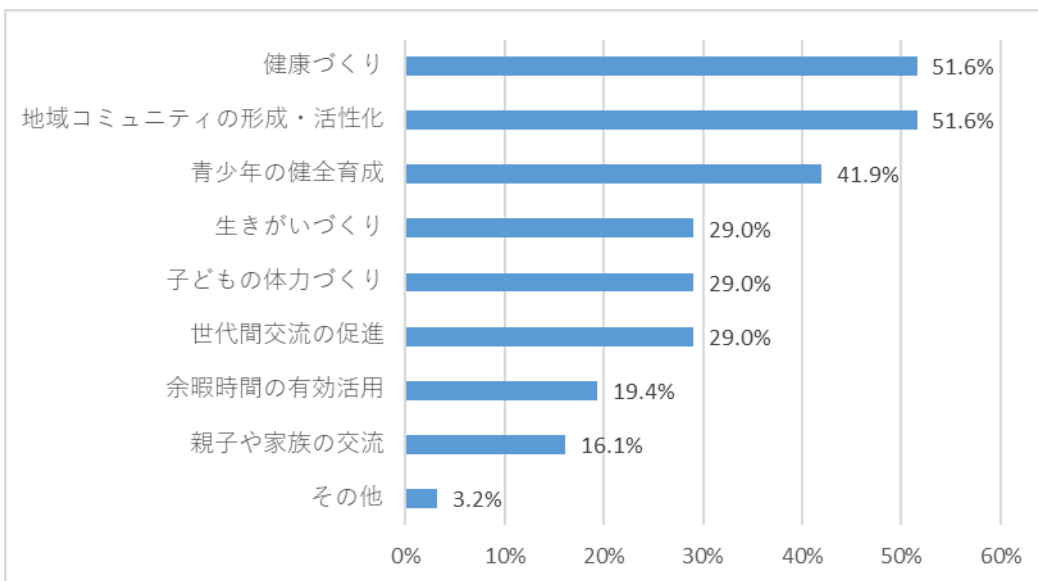
**問11** 今後市内で開催(誘致)してほしいスポーツイベント(大会)はありますか。



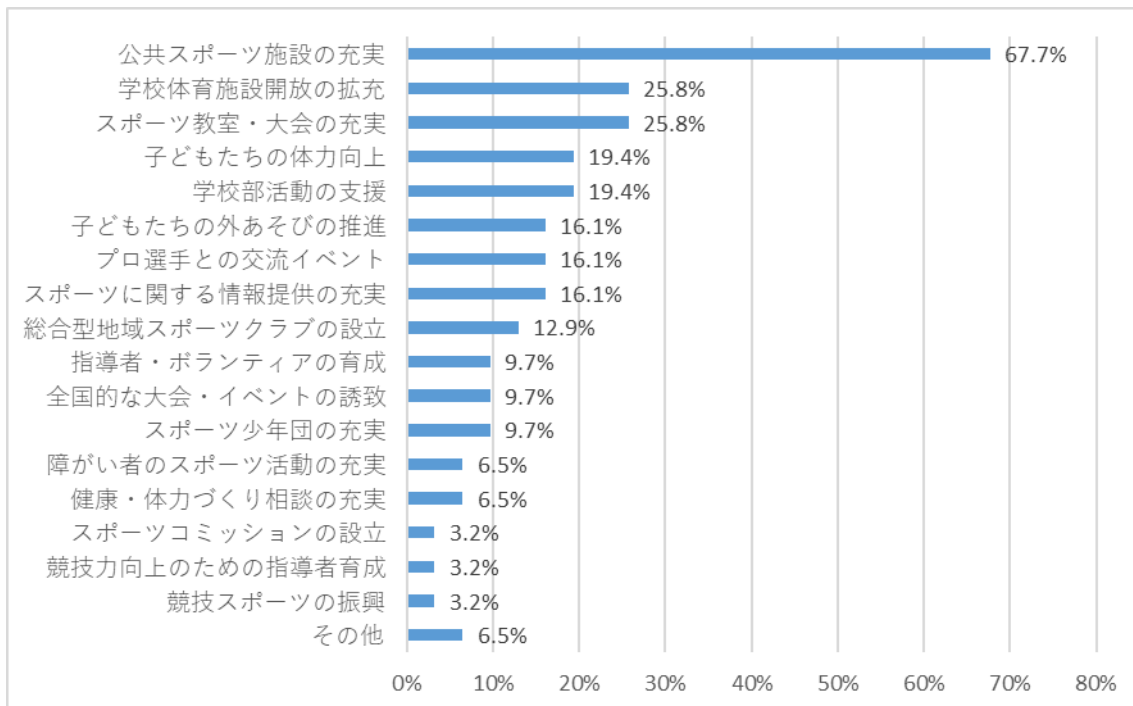
**問12** 実施方法や種目についてお聞きします。



**問13** 伊賀市のスポーツ振興にどのような効果を期待しますか。(3つまで)



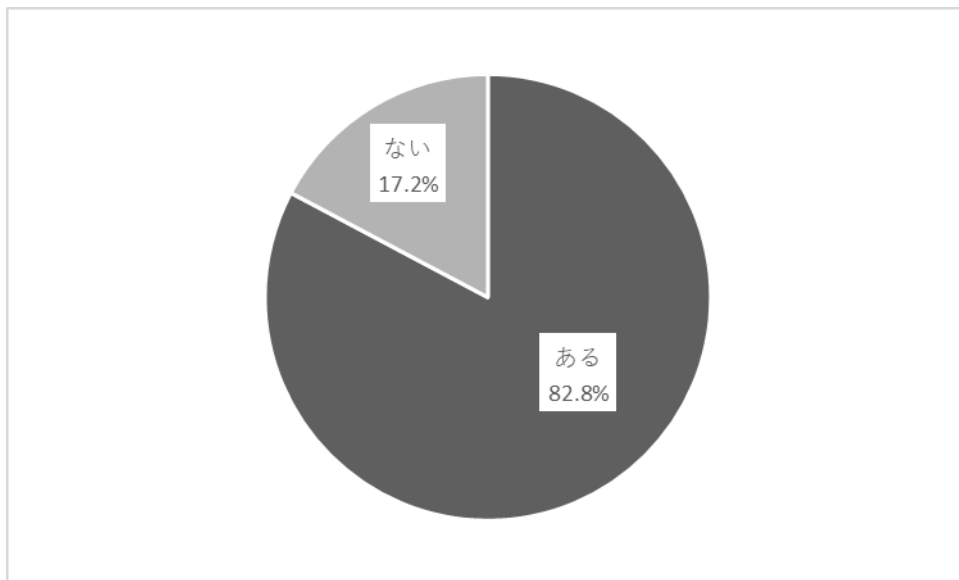
**問14** さらにスポーツを振興するために、伊賀市に今後どのようなことに力を入れてもらいたいと思いますか。（3つまで）



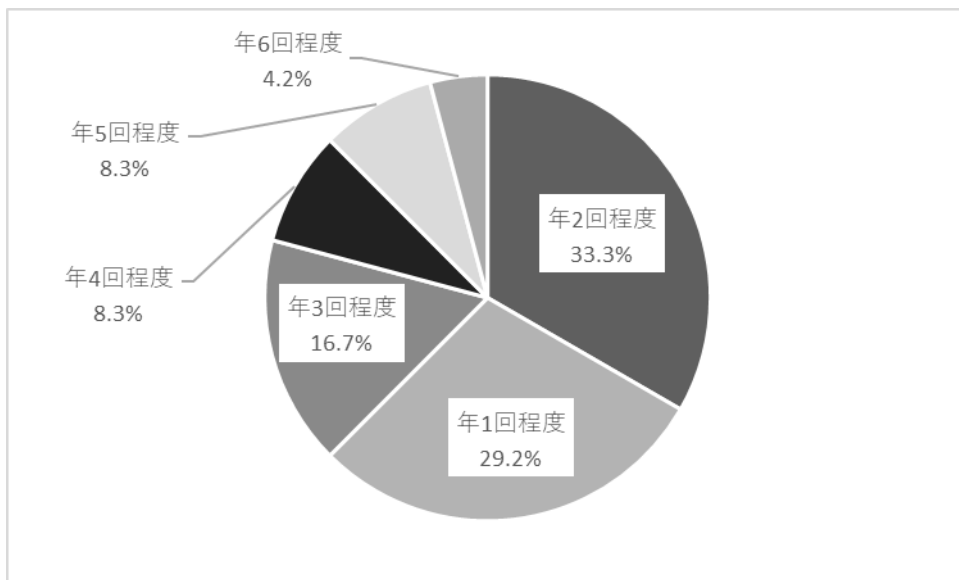
## ■住民自治協議会アンケート

【住民自治協議会のスポーツ行事について】

**問1** 住民自治協議会主催（直接主催でなくとも、実行委員会などと共催で関わっている行事も含む）のスポーツ行事はありますか。

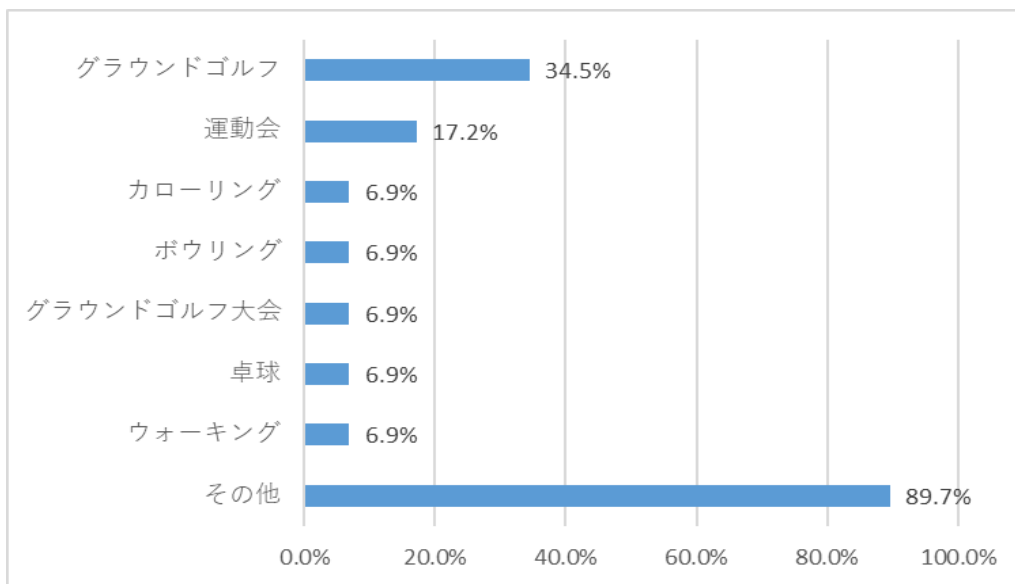


**問1-1** そのスポーツ行事の開催回数は年何回ですか。

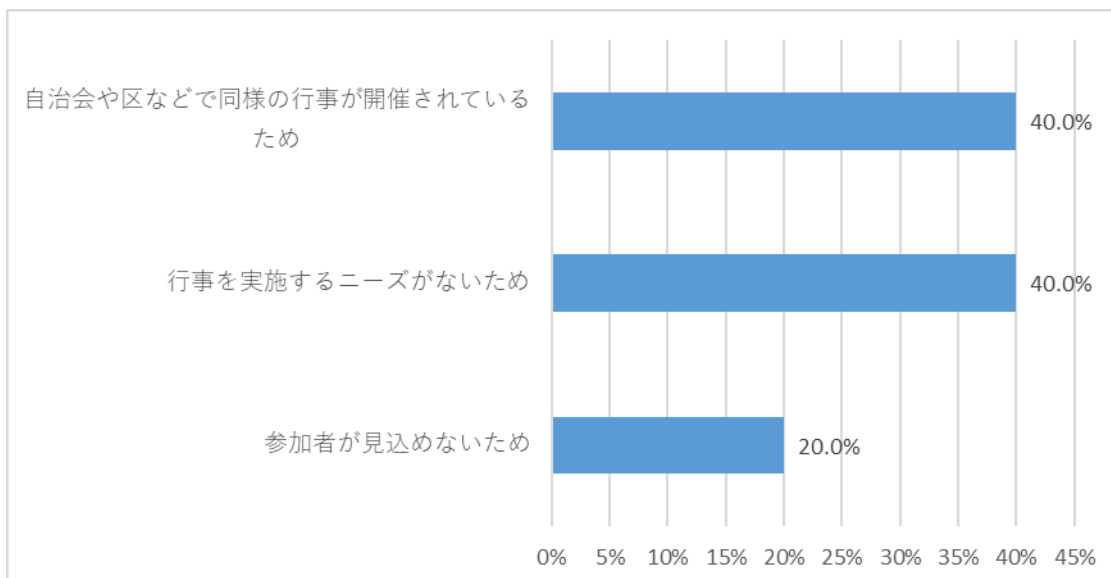




**問1-2** そのスポーツ行事の実施種目は何ですか。

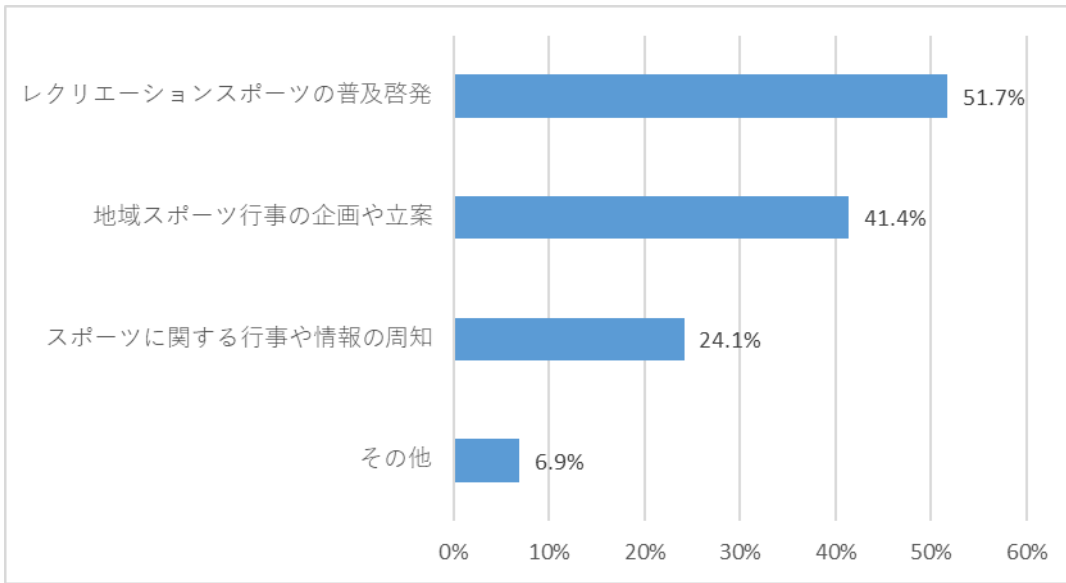


**問2** **問1**で「2. ない」とお答えの場合にお聞きします（複数回答）  
その理由として、考えられる理由は何でしょうか。

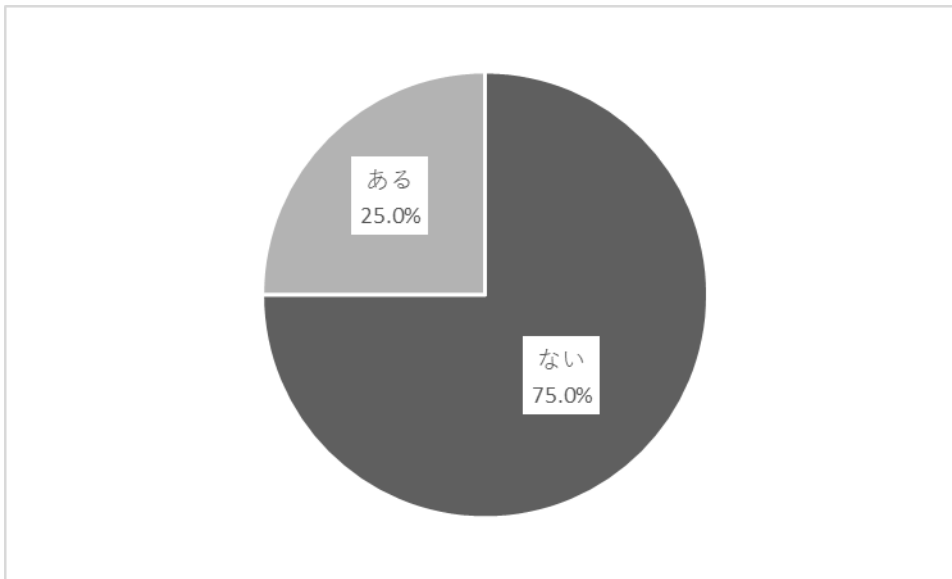


【スポーツ推進委員について】

問3 スポーツ推進委員へ期待することは何ですか。

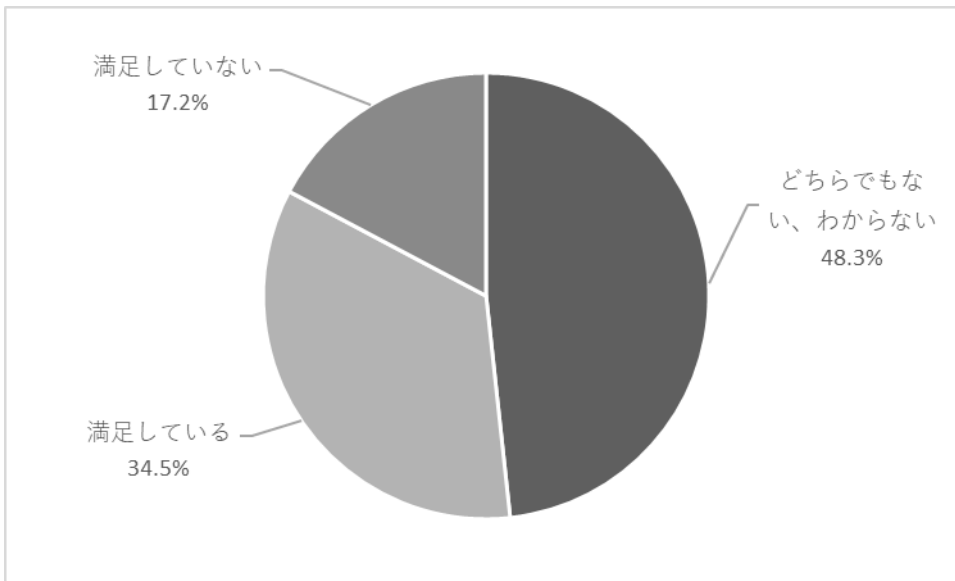


問4 今後市内で開催（誘致）してほしいスポーツイベント（大会）はありますか。



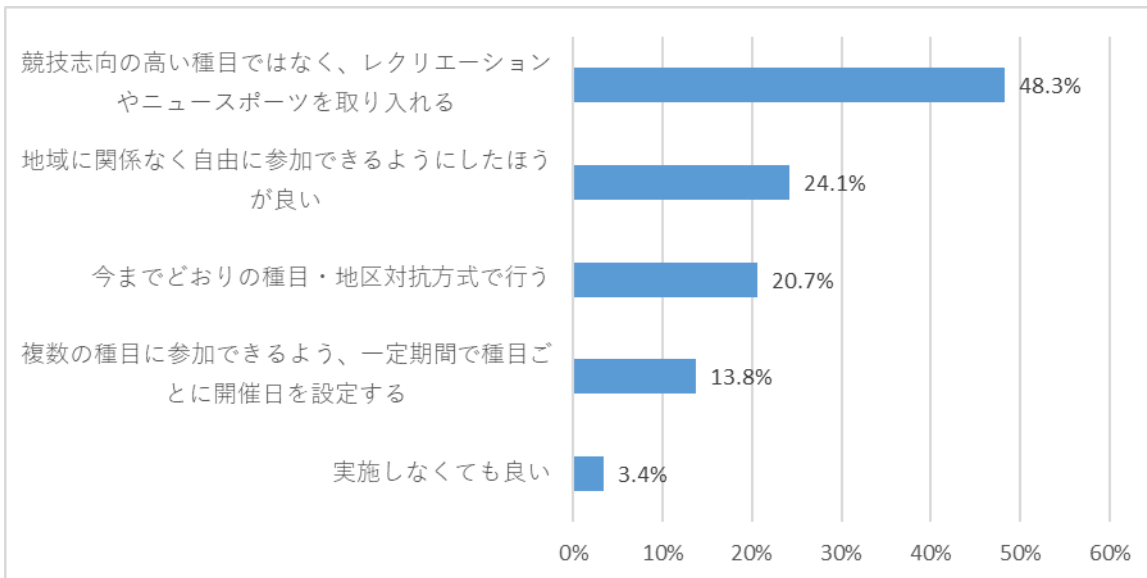
【市のスポーツ振興について】

問5 スポーツイベント（伊賀上野シティマラソン、伊賀市民スポーツフェスティバル、伊賀地区駅伝など）に満足していますか。



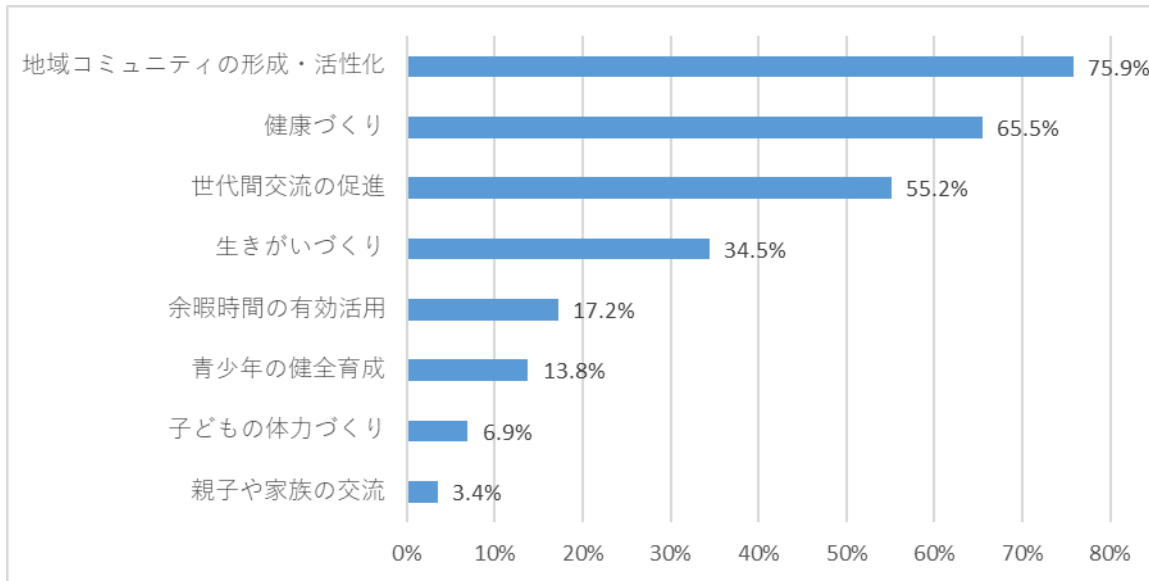
【伊賀市民スポーツフェスティバルについて】

問6 実施方法や種目についてお聞きします。

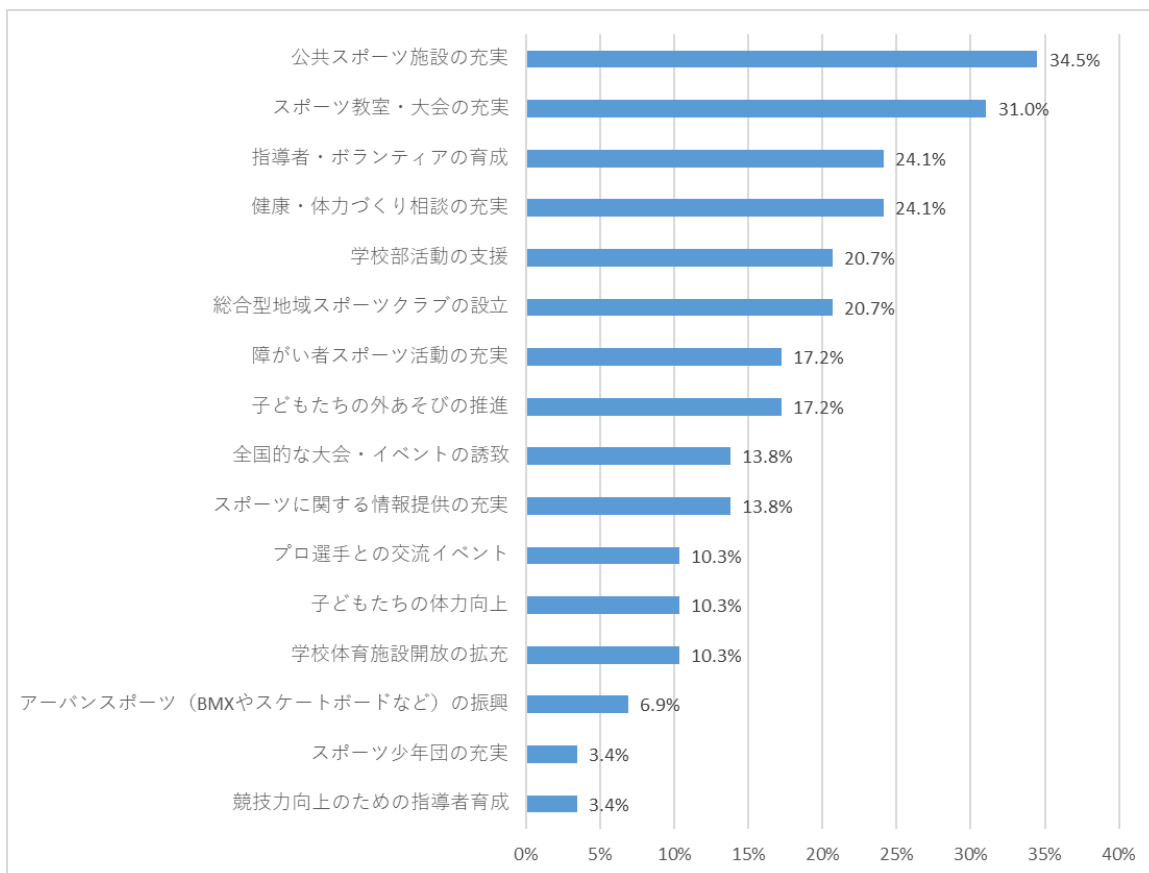


【今後の伊賀市のスポーツ振興について】

問7 伊賀市のスポーツ振興にどのような効果を期待しますか。（3つまで）

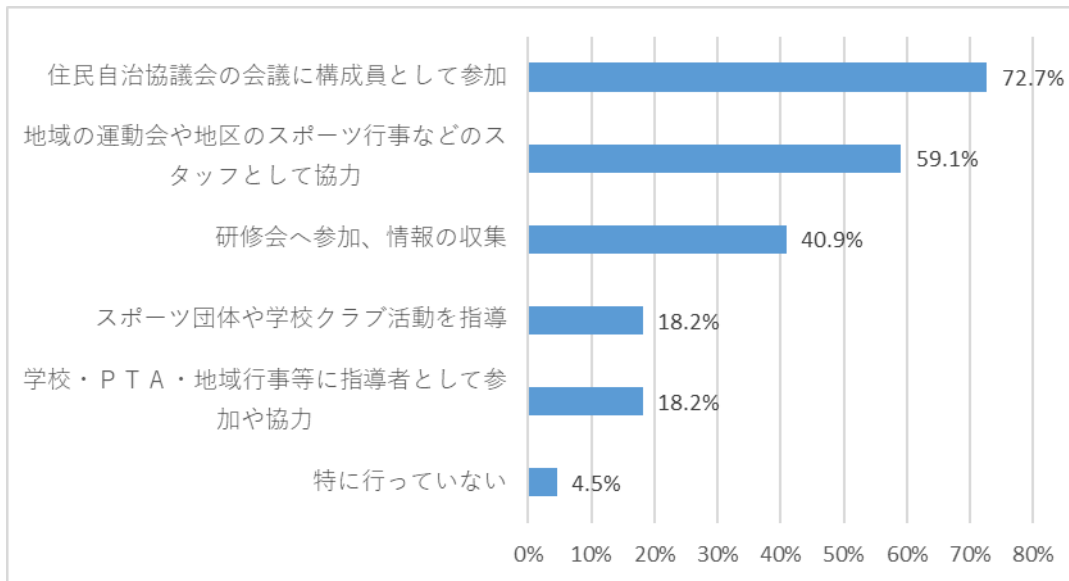


問8 さらにスポーツを振興するために、伊賀市に今後どのようなことに力を入れてもらいたいと思いますか。（3つまで）



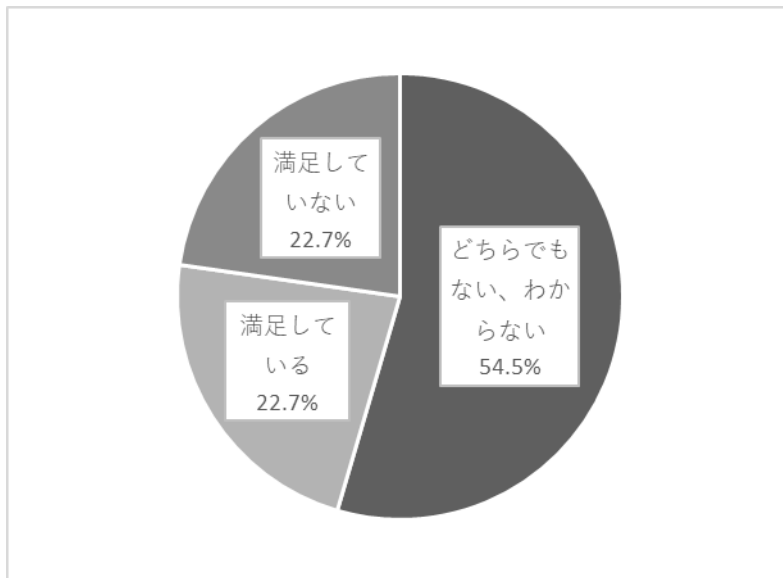
## ■スポーツ推進委員アンケート

問1 日々どのような活動を行っていますか。（複数回答可）

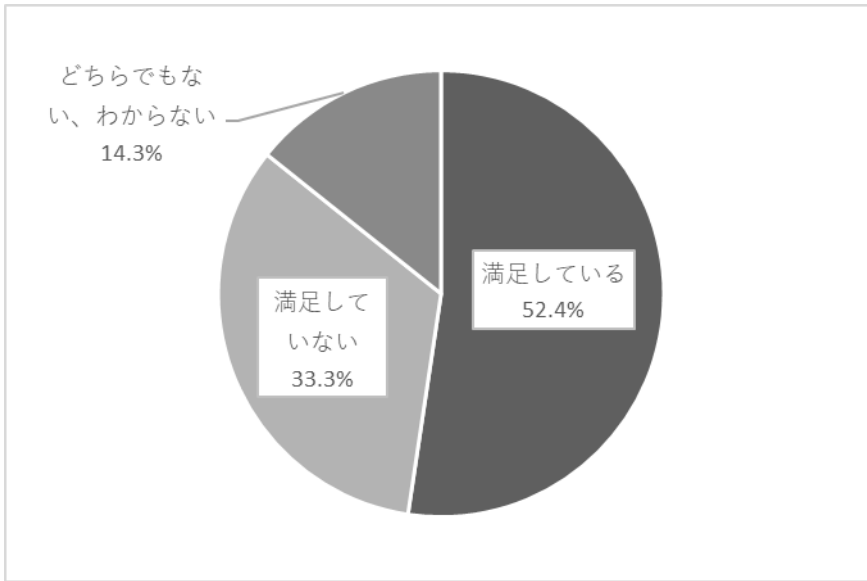


【市のスポーツ振興について】

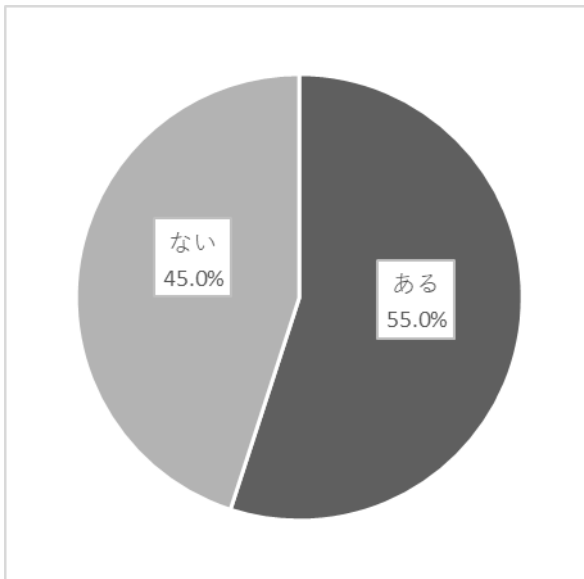
問3 市のスポーツ指導者育成への取り組みには満足していますか。



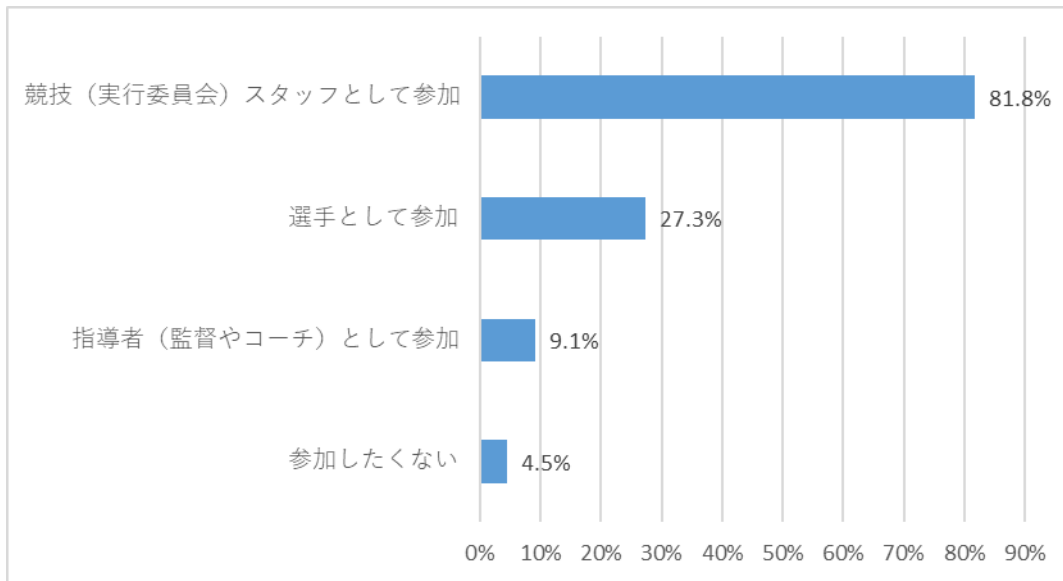
**問4** スポーツイベント（伊賀上野シティマラソン、伊賀市民スポーツフェスティバル、伊賀地区駅伝など）に満足していますか。



**問5** 今後市内で開催（誘致）してほしいスポーツイベント（大会）はありますか。

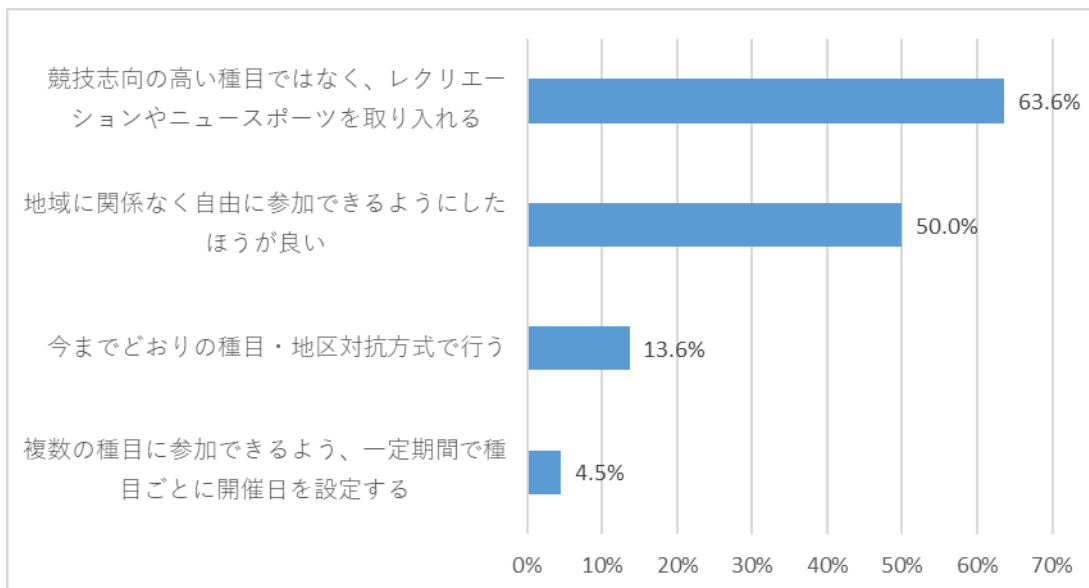


**問6** 全市的なイベントが行われた場合、ご自身はどのような形で関わりたいですか。

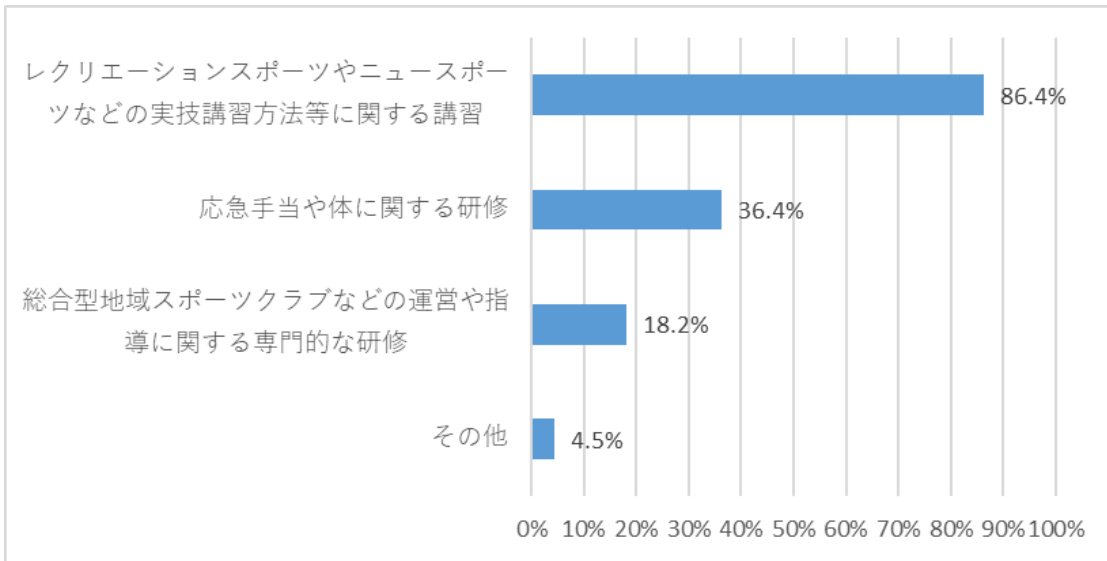


**【伊賀市民スポーツフェスティバルについて】**

**問7** 実施方法や種目についてお聞きします。

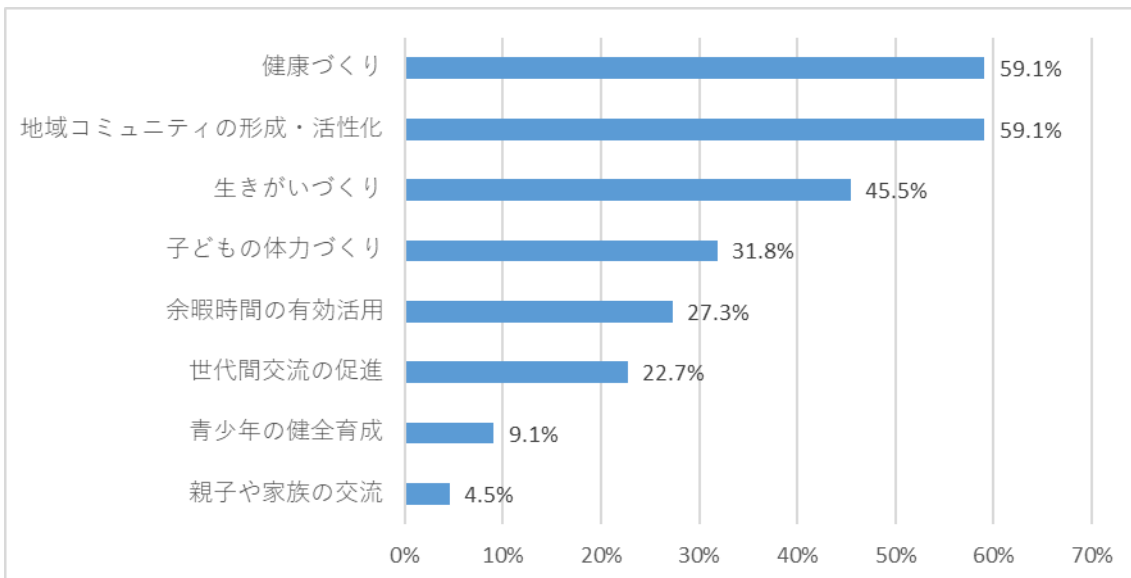


**問8** スポーツ推進委員の技術向上の研修会に参加するのであれば、どのような研修会に参加したいですか。



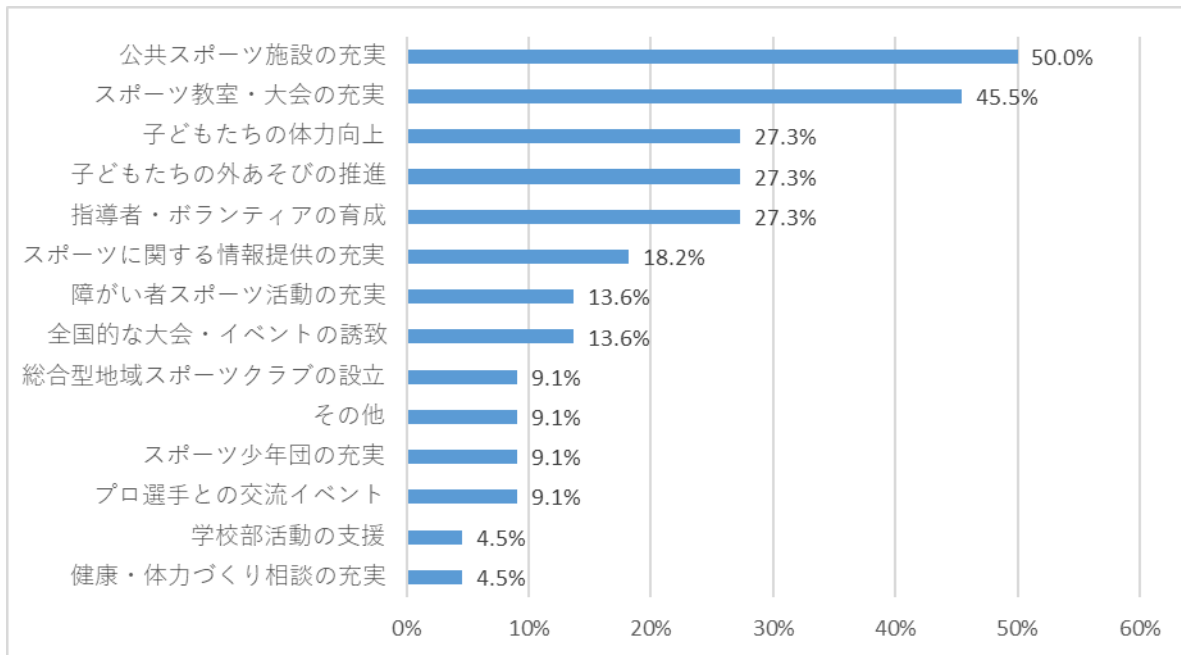
**【今後の伊賀市のスポーツ振興について】**

**問9** 伊賀市のスポーツ振興にどのような効果を期待しますか。（3つまで）





**問10** さらにスポーツを振興するために、伊賀市に今後どのようなことに力を入れてもらいたいと思いますか。（3つまで）



## 2 諮問

伊 ス 第 3 6 6 号  
2021（令和3）年8月25日

伊賀市スポーツ推進審議会  
会長 松 奇 敏 之 様

伊賀市長 岡 本 栄

### 伊賀市スポーツ推進計画について（諮問）

伊賀市スポーツ推進計画について、伊賀市スポーツ推進審議会に関する条例（平成 17 年条例第7号）第2条の規定に基づき、下記事項について貴審議会の意見を求めます。

### 記

伊賀市スポーツ推進計画の策定に関すること

### 3 答申

2022（令和4）年4月28日

伊賀市長 岡本 栄 様

伊賀市スポーツ推進審議会  
会長 松 寄 敏 之

#### 伊賀市スポーツ推進計画について（答申）

令和3年8月25日付伊ス第366号で当審議会へ諮問されたこのことについて慎重に審議を重ねた結果、別添のとおり答申します。

審議にあたっては、スポーツの実施状況やニーズ等について市民やスポーツに携わる競技団体・スポーツ推進委員、さらには住民自治協議会へアンケート調査などを通じて協議を行いました。

その中で、①子どものスポーツ離れや体力の低下が見られること、また高齢化が進むこと、②スポーツニーズが多様化していること、③指導者などスポーツをささえる人材確保やスポーツイベントの運営などに苦慮していることなどの課題が明らかになりました。

策定では、国のスポーツ基本計画を参酌するとともに、『伊賀市生涯スポーツ都市宣言』の基本理念にも基づき、スポーツを「する」だけでなく、「みる」、「ささえる」こともスポーツ活動として捉え、それぞれのライフステージに応じ気軽にスポーツを生活に取り入れ（sports in life）、スポーツ実施率の向上を図ることで生涯にわたり健康で豊かな生活を送れることを目指し、令和4年度を始期とする5年間の「伊賀市スポーツ推進計画」として取りまとめを行いました。

今後貴市におかれては本答申書の内容にご留意され市民等の意見に対し十分耳を傾けながら施策を推進されるよう要請するとともに、伊賀市のスポーツ振興が一層高まっていくことを心から祈念します。

#### 4 伊賀市スポーツ推進審議会委員名簿

区 分	氏 名	所 属
会 長	松 寿 敏之	伊賀市スポーツ協会
副 会 長	宮 田 久一	伊賀市スポーツ推進委員協議会
委 員	坂 口 輝三	伊賀市スポーツ少年団
//	田 中 栄一	総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
//	宮 田 慎一	伊賀市（小中学校）校長会 2022（令和4）年3月31日まで
//	五 百 雀 豊	伊賀市（小中学校）校長会 2022（令和4）年4月1日から
//	栗 野 仁博	伊賀FCくノ一
//	山 下 明子	伊賀市ママさんバレーボール連盟
//	福 寿 勇	伊賀市グラウンド・ゴルフ協会
//	山 本 志賀子	伊賀市障害者福祉連盟
//	内 田 崇之	伊賀市健康づくり推進協議会
//	辻 喜嗣	伊賀市レクリエーション協会
//	樋 口 優子	上野商工会議所
//	山 本 いずみ	公 募
//	中 森 正一	公 募

※ 順序不同

## 5 伊賀市スポーツ推進計画策定経緯

開催年月日	審議内容
2021（令和3）年8月5日	総合政策会議 ・策定方針、骨子案、スケジュールについて
2021（令和3）年8月17日	議員全員協議会 ・計画の策定について
2021（令和3）年8月24日	市政運営会議 ・策定方針、骨子案、スケジュールについて
2021（令和3）年8月25日	伊賀市スポーツ推進審議会に諮問
2021（令和3）年8月31日	令和3年度第2回伊賀市スポーツ推進審議会 ・策定方針、骨子案、スケジュールについて
2021（令和3）年10月1日～24日	伊賀市スポーツに関するアンケート 市民、住民自治協議会、スポーツ少年団、総合型スポーツクラブ、スポーツ協会（各競技団体）、スポーツ推進員
2021（令和3）年11月26日	庁内会議 ・計画案について（具体的施策について）
2021（令和3）年12月21日	令和3年度第3回伊賀市スポーツ推進審議会 ・計画案について
2022（令和4）年1月12日	令和3年度第4回伊賀市スポーツ推進審議会 ・計画中間案について
2022（令和4）年1月20日	総合政策会議 ・計画中間案について
2022（令和4）年2月15日	議員全員協議会 ・計画中間案について
2022（令和4）年3月1日～31日	パブリックコメント
2022（令和4）年4月20日	令和4年度第1回伊賀市スポーツ推進審議会 ・計画答申案について
2022（令和4）年4月28日	伊賀市スポーツ推進審議会からの答申
2022（令和4）年5月2日	教育委員会（意見聴取） ・計画最終案について
2022（令和4）年5月19日	総合政策会議 ・計画最終案について

## 伊賀市生涯スポーツ都市宣言

### 宣言文

スポーツは、心と体の健康を育むとともに、人と人との交流を深め、明るく活力に満ちた生きがいのある生活を送るうえで重要な役割を果たしています。私たち市民一人ひとりが、生涯にわたりスポーツに親しみ、健康で明るいまちづくりを推進するため、ここに「生涯スポーツ都市」を宣言します。

- スポーツに親しみ 健康な心身をつくれます
- スポーツを楽しみ 思いやりとふれあいの輪を広げます
- スポーツを通して 明るく活力ある伊賀市をつくれます

### 伊賀市生涯スポーツ都市宣言 説明文

少子高齢化社会を迎え、人々の価値観やライフスタイルが多様化する今日において、スポーツは、人生をより健康で充実したものにするために欠くことができないものとして、その重要性がますます高まっています。

伊賀市は、古くから伊賀流忍者の里であり、現在健康づくりの忍にん体操から、スポーツ・レクリエーション、競技スポーツ、武道に至るまで、さまざまなスポーツが盛んに行われています。

2018（平成30）年には「2018 彩る感動東海総体」（平成30年度全国高等学校総合体育大会）、2021（平成33）年には「三重とこわか国体」（第76回国民体育大会）が伊賀市で開催されることを契機に、生涯スポーツ都市宣言を行ない、市民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ都市の実現に向けて、スポーツの持つ可能性を最大限に活かし、生涯にわたってスポーツを「する」、「見る」、「支える」ことで、人と人とのつながりを育み、健康で明るい伊賀市を目指します。

# 伊賀市スポーツ推進計画

発行年月編



伊賀市

2022（令和4）年6月

伊賀市企画振興部スポーツ振興課

〒518-8501 三重県伊賀市四十九町3184番地

TEL 0595-22-9635 FAX0595-22-9694

E-mail [sports@city.iga.lg.jp](mailto:sports@city.iga.lg.jp)

## 伊賀市スポーツ推進計画

# パブリックコメントに寄せられたご意見

- パブリックコメント募集期間  
令和4年3月1日～3月31日
- 寄せられた意見  
メール  
FAX  
書面持参 2件      (個人 2件)





イ) 伊賀市の課題

【現状記載】

- 1 スポーツを取り巻く環境
- 2 伊賀市の現状
  - ア) 少子化の進行
    - ①伊賀市人口ビジョン
    - ②スポーツ（学校）施設の利用が減少
- イ) 伊賀市の課題

ご意見	回答
<p>目次の表記から考えて、「イ) 伊賀市の課題」は、「3 伊賀市の課題」が正しいと思われる。</p>	<p>【反映】</p> <p>ご意見のとおり誤記ですので修正し、「高齢」を追加します。</p> <p>(誤)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2 伊賀市の現状                     <ul style="list-style-type: none"> <li>ア) 少子化の進行                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①伊賀市人口ビジョン</li> <li>②スポーツ（学校）施設の利用が減少</li> </ul> </li> <li>イ) 伊賀市の課題</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>(正)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2 伊賀市の現状                     <ul style="list-style-type: none"> <li>少子高齢化の進行                             <ul style="list-style-type: none"> <li>ア) 伊賀市人口ビジョン</li> <li>イ) スポーツ（学校）施設の利用が減少</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>3 伊賀市の課題</li> </ul>

意見2 ページ数 5

第2章 スポーツを取り巻く環境と伊賀市の現状・課題

【現状記載】

第2章 スポーツを取り巻く環境と伊賀市の現状・課題

ご意見	回答
<p>本文5ページから12ページの内容は、全国のことか伊賀市独自のことか分かりにくいので、いっそのこと、第2章のタイトルを「スポーツを取り巻く状況と伊賀市が取り組むべき課題」と修正して、全国や伊賀市の現状を述べた後、伊賀市の取り組むべき課題を文章としてはいかがか。</p>	<p>【現状表記】</p> <p>第2章「スポーツを取り巻く環境と伊賀市の現状・課題」における『1スポーツを取り巻く環境』では、国の基本計画などで明らかになってきているスポーツを取り巻く環境について記載しております。</p> <p>一方、『2伊賀市の現状』では、スポーツを「する・みる・ささえる」面から今後これらを支える人口推移や高齢化の状況と施設利用状況について記載しております。</p> <p>また、「3伊賀市の課題」ではアンケート調査等により明らかになった事項について課題として記載しておりますので現状のとおりとします。</p>

1 スポーツを取り巻く環境の①少子化と子どものスポーツ離れ・体力の低下

【現状記載】

1 スポーツを取り巻く環境

①少子化と子どものスポーツ離れ・体力の低下

スポーツ庁が策定した『第2次スポーツ基本計画』によると、子どもの体力・運動能力は昭和60年ごろをピークに低い傾向にあります。この背景には、

ア) 少子化により地域のスポーツ団体活動が成り立たず、学校では運動部の休部・廃部が増加していること

イ) スポーツ活動の指導者不足からスポーツをする楽しさに触れる機会が減少することでスポーツ離れが一層進み子どもたちの運動する機会が減少していること

ウ) 習い事で忙しく、テレビゲーム等の室内遊びの増加により外遊びやスポーツ活動時間が減少傾向にあり、加えて犯罪や事故などへの懸念から子どもだけを身近に遊ばせることも難しくなっていること

が考えられます。

また、スポーツをする子どもと、しない子どもに二極化する傾向が見られます。

ご意見

回答

3行目から4行目

スポーツ庁が策定した『第2次スポーツ基本計画』によると、子どもの体力・運動能力は昭和60年ごろをピークに低い傾向にあります。この背景には、……の部分について

そもそも「第2次基本計画」ではなく「第2期スポーツ計画」が正しい。そのうえ、『(第2期)スポーツ基本計画』には「運動能力」ということばは使われておらず、基本計画のP8には次の表現がある。

・子どもの体力は緩やかな向上傾向にあるが、昭和60年頃ピーク時と比較すると依然として低い水準にある。それを踏まえれば次のように修正し記述すべきではないか。

⇒平成29年3月24日付け文部科学省『(第2期)スポーツ基本計画』によると、「子どもの体力は緩やかな向上傾向にあるが、昭和60年頃のピーク時と比較すると依然として低い水準にある。」と分析されています。

【反映】

ご指摘のように「第2期スポーツ基本計画」、また「スポーツ庁」は「文部科学省」の誤りですので、当該箇所をはじめ計画全体で修正をします。

①を基本計画を参酌し次のとおり修正します。また(ア)以降の背景は可能性として考えられますが、国の計画で明確な根拠が示されていないので削除します。

①少子化と子どものスポーツ離れ・体力の低下

文部科学省が策定した『第2期スポーツ基本計画』によると、子どもの体力水準が高かった昭和60年頃と比較すると、基礎的運動能力は依然として低い傾向にあります。さらにスポーツの好き嫌いにより積極的にスポーツをする子どもとそうでない子どもの二極化が顕著に認められ、運動習慣が身につけていないことが課題とされています。

このため、子どもが積極的にスポーツに取り組めるよう学校の体育や地域スポーツなどを通じて充分体を動かしてスポーツの楽しさなどを実感できる環境整備を図る必要があります。

①少子化と子どものスポーツ離れ・体力の低下

【現状記載】

1 スポーツを取り巻く環境

①少子化と子どものスポーツ離れ・体力の低下

スポーツ庁が策定した『第2次スポーツ基本計画』によると、子どもの体力・運動能力は昭和60年ごろをピークに低い傾向にあります。この背景には、

ア) 少子化により地域のスポーツ団体活動が成り立たず、学校では運動部の休部・廃部が増加していること

イ) スポーツ活動の指導者不足からスポーツをする楽しさに触れる機会が減少することでスポーツ離れが一層進み子どもたちの運動する機会が減少していること

ウ) 習い事で忙しく、テレビゲーム等の室内遊びの増加により外遊びやスポーツ活動時間

が減少傾向にあり、加えて犯罪や事故などへの懸念から子どもだけを身近に遊ばせる

ことも難しくなっていること

が考えられます。

また、スポーツをする子どもと、しない子どもに二極化する傾向が見られます。

ご意見	回答
<p>この分析内容が適切か疑問に思う。『スポーツ基本計画』P8には次の文章がある。</p> <p>・子どもの体力は、緩やかな向上傾向にあるが、昭和60年頃のピーク時と比較すると低い水準にある。スポーツ基本計画のどの部分を引用したのか分かりにくい。以下のように修正することを提案します。</p> <p>①少子化と子どものスポーツ離れ・体力の低下</p> <p>文部科学省が平成29年3月24日付けで公表した『スポーツ基本計画』には、「子どもの体力は緩やかな向上傾向にあるが、昭和60年頃のピーク時と比較すると依然として低い水準にある」とある。少子化と子どものスポーツ離れ・体力の低下は深刻になっている。その背景には、大きく次の3点が理由として考えられます。</p> <p>ア) 少子化により地域の・・・</p> <p>イ) スポーツ活動の指導者不足から・・・</p> <p>ウ) 習い事で忙しく・・・また、スポーツをする子どもと、しない子どもに二極化する傾向が見られます。</p>	<p>【反映】</p> <p>意見3による</p>

意見5 ページ数 5

①少子化と子どものスポーツ離れ・体力の低下

【現状記載】

1 スポーツを取り巻く環境

①少子化と子どものスポーツ離れ・体力の低下

スポーツ庁が策定した『第2次スポーツ基本計画』によると、子どもの体力・運動能力は昭和60年ごろをピークに低い傾向にあります。この背景には、

ア) 少子化により地域のスポーツ団体活動が成り立たず、学校では運動部の休部・廃部が増加していること

イ) スポーツ活動の指導者不足からスポーツをする楽しさに触れる機会が減少することでスポーツ離れが一層進み子どもたちの運動する機会が減少していること

ウ) 習い事で忙しく、テレビゲーム等の室内遊びの増加により外遊びやスポーツ活動時間が減少傾向にあり、加えて犯罪や事故などへの懸念から子どもだけを身近に遊ばせることも難しくなっていること

が考えられます。

また、スポーツをする子どもと、しない子どもに二極化する傾向が見られます。

ご意見	回答
<p>「背景」として、ア)、イ)、ウ)の3点、ならびに最後の行で「スポーツをする子どもと、しない子どもに二極化する傾向が見られます」と述べているが、根拠がどこにあるか伝わってこない。「第2期スポーツ基本計画」においても、そうした背景を述べているところがあるのか不明。あるのであればその根拠を示すべきではないか。</p>	<p>【反映】 意見3による</p>

意見6 ページ数 5

①少子化と子どものスポーツ離れ・体力の低下

【現状記載】

1 スポーツを取り巻く環境

①少子化と子どものスポーツ離れ・体力の低下

スポーツ庁が策定した『第2次スポーツ基本計画』によると、子どもの体力・運動能力は昭和60年ごろをピークに低い傾向にあります。この背景には、

ア) 少子化により地域のスポーツ団体活動が成り立たず、学校では運動部の休部・廃部が増加していること

イ) スポーツ活動の指導者不足からスポーツをする楽しさに触れる機会が減少することでスポーツ離れが一層進み子どもたちの運動する機会が減少していること

ウ) 習い事で忙しく、テレビゲーム等の室内遊びの増加により外遊びやスポーツ活動時間が減少傾向にあり、加えて犯罪や事故などへの懸念から子どもだけを身近に遊ばせることも難しくなっていること  
が考えられます。

また、スポーツをする子どもと、しない子どもに二極化する傾向が見られます。

ご意見	回答
<p>スポーツ離れや体力低下の根拠が示されていないのに、言い切ることには学術的にも無理があるのではないかと。現状を表すのであれば「①子どもの体力は低い水準にあり、運動習慣の二極化が見られる」ぐらいしか言えないと思われる。</p> <p>(参考) 「スポーツ基本計画」P8 現状と課題より ・スポーツが好きな子どもの割合は、小学5年生と比較し中学2年生が低く、特に中学生の女子は2割以上が「嫌い」・「やや嫌い」であり、運動習慣の二極化が見られる。</p>	<p>【反映】</p> <p>意見3による</p>

## ②高齢化による健康寿命の延伸

## 【現状記載】

## ②高齢化による健康寿命の延伸

毎年平均寿命は伸び続け、直近の『令和2年厚生労働白書』によると、男性：80.98歳、女性：87.14歳となっており、今後も高齢化が進むことが予想されます。一方、健康寿命は男性：72.14歳、女性：74.79歳となっており、平均寿命との差は約8年から13年となっています。平均寿命が延伸傾向のなか、日々の生活の状況に応じて体を動かすことで健康寿命を延ばし、病気や介護状態になりにくくすること（不健康な状態になる時点を遅らせる）が期待されます。

ご意見	回答
<p>「厚生労働白書」の引用であるので、全国のことを言いたいと思われる。伊賀市のことはP8「2伊賀市の現状」にもないので、このページでは、全国と伊賀市を纏めて記述するべきである。</p> <p>令和元年で、            (男) 平均寿命82.3歳 健康寿命79.2歳            (女) 平均寿命88.3歳 健康寿命81.5歳            を文中に挿入することを提案。</p> <p>【P8】            ア) 少子高齢化の進行            伊賀市の人口は減少傾向にあり、2015（平成27）年から2040（令和22）年までの25年間で24,133人減少し、約66,000人余りになると見込まれています。            年齢構成別の人口割合の推移をみると、老年人口の割合は増加で推移することから、伊賀市においても人口に占める老年人口は、(注5)超高齢化社会を歩む状況となっています。</p>	<p>【反映】            国の最新データが更新されたので改め、出典名を修正します。            またご意見にある伊賀市における年齢等については、P8「少子高齢化の進行」に記載します。</p> <p>【P5】            ②高齢化による健康寿命の延伸            毎年平均寿命は伸び続け、令和元年度における『厚生労働省簡易生命表』によると、男性：81.41歳、女性：87.45歳となっており、今後も高齢化が進むことが予想されます。            一方、健康寿命は男性：72.68歳、女性：75.38歳となっており、平均寿命との差は約8年から13年となっています。            平均寿命が延伸傾向のなか、日々の生活の状況に応じて体を動かすことで健康寿命を延ばし、病気や介護状態になりにくくすること（不健康な状態になる時点を遅らせる）が期待されます。</p> <p>【P8】            ア) 少子高齢化の進行            伊賀市の人口は減少傾向にあり、2015（平成27）年から2040（令和22）年までの25年間で24,133人減少し、約66,000人余りになると見込まれています。            『三重県推計資料』による平均寿命と健康寿命は、それぞれ男性：82.30歳（79.20歳）、女性：88.30歳（81.50歳）となっています。また、年齢構成別では、老年人口は増加で推移し、人口に占める老年人口は、(注5)超高齢化社会が進んでいく状況です。</p>



余暇活動及びスポーツニーズの多様化

【現状記載】

③余暇活動及びスポーツニーズの多様化

余暇活動の一つとしてのスポーツへの関わり方は多様です。健康増進や交流を実施目的とするもの、種目においてもサッカーや野球などの団体競技に加え個人で行うウォーキングやジョギング、さらにはスポーツジムでのトレーニングなどもあります。

また、近年では若年層によるスポーツ観戦の増加が見られます。（『2020レジャー白書』公益財団法人日本生産性本部）

一方、東京2020オリンピック・パラリンピック大会を機にボッチャなどの(注1)パラスポーツ、あるいはキンボールなど新たなルールやスタイルで行うニュースポーツやレクリエーション競技、さらにはスケートボードやBMXなどの(注2)アーバンスポーツへの関心も高まってきています。

ご意見	回答
<p>●「ウォーキングやジョギング、さらにはスポーツジムでの・・・」という文章を以下のように下線の部分を挿入していただきたい。 ⇒「・・・ウォーキングやジョギングに加え水泳やサイクリング、登山、さらにはスポーツジム・・・」</p> <p>●また、「近年では若年層によるスポーツ観戦の増加が見られます（『2020レジャー白書』）」の部分を次のように変更していただきたい。 ⇒『2020レジャー白書』によると、近年では若年層によるスポーツ観戦の増加が見られます。<u>なでしこリーグで活躍している「伊賀FCくノ一三重」などのプロスポーツもその一例です。</u></p> <p>●また、「一方、東京2020オリンピック・パラリンピック大会を機にボッチャなどのパラスポーツ、あるいは・・・」の部分を次のように変更していただきたい ⇒「一方、東京2020オリンピック・パラリンピック大会を機にボッチャなどのパラスポーツ（いわゆるパラスポーツ）、あるいは・・・」</p>	<p>【現状表記】</p> <p>国の基本計画などでスポーツを取り巻く環境概要について記載しておりますので現状表記とします。</p> <p>パラスポーツの言葉自体が正式なものではない為、（注1）において言葉の解説を記載していますので、現状のとおりとします。</p>

意見9 ページ数 5～6

「③余暇活動及びスポーツニーズの多様化」以下

【現状記載】

- ③余暇活動及びスポーツニーズの多様化
- ④体力低下とストレスの増大
- ⑤新型コロナウイルス感染症対策
- ⑥人間関係の希薄化と新たな連携ツールとしてのスポーツ
- ⑦スポーツを支える環境の変化
- ⑧スポーツ施設の老朽化・小規模類似施設の点在

ご意見	回答
<p>タイトルについて現状を表す文章にしてタイトルを全て修正する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>③スポーツニーズの多様化が進んでいる</li> <li>④体力低下と精神的ストレスが増大している</li> <li>⑤新型コロナウイルス感染症への対策が求められている</li> <li>⑥人間関係の希薄化打開のため新たな連携ツールとしてのスポーツが期待されている。</li> <li>⑦スポーツを支える環境が変化している</li> <li>⑧市内スポーツ施設の老朽化・小規模類似施設の点在による課題がある</li> </ul>	<p>【現状表記】</p> <p>計画全体の書き方により、現状のとおりとします。</p> <p>【一部修正】</p> <p>⑧を修正します</p> <p>⑧スポーツ施設の老朽化・既存施設の有効活用  <u>高度成長期に整備された施設の老朽化が一斉に進行し、日常の維持管理費用や改修費等の増嵩が避けられない厳しい状況にあります。このことから計画的に既存施設の安全性や利便性を高める改修や、スポーツ・学校体育施設の効率的な利用方法、さらには新しいスポーツニーズにも対応する検討を行っていく必要があります。</u></p>

意見10 ページ数 8～9

P8～9のデータについて

【現状記載】

P8「伊賀市人口ビジョン」「将来推計人口」

P9「スポーツ施設の利用状況」「学校施設（グラウンド・体育館）の利用状況」

ご意見	回答
<p>P5～7に組み入れる。少子化高齢化の進行との内容については、P5の②に入れ込む。 またスポーツ（学校）施設の利用が減少のデータは、P7の⑧に組み込む。</p>	<p>【現状表記】 意見2のとおり</p>

指導者育成や女性参画の問題

【現状記載】

① スポーツを週1回以上実施する人口が少ない  
(アンケート番号：市民 問12)

成人全体の実施頻度は53.6%で前回調査(28.3% H19)から大幅に増加していますが、年代が上がるにつれて実施頻度は低くなる傾向にあります。また、全世代で女性の実施頻度が男性より低くなっています。実施頻度の低い年代や女性を中心に普及啓発を行い、成人全体の実施頻度を高くする取り組みが必要です。

② スポーツをしない(できない)理由として、「家事」「時間がない」が多い

(アンケート番号：市民 問14)

スポーツをする意識の無い方が(19.0%)おり、体を動かす動機づけや情報提供の在り方について検討が必要です。

地域でのスポーツ活動や市民スポーツフェスティバルにおいて、レクリエーションスポーツの普及啓発や実施を望む声が多く、レクリエーションスポーツが体を動かす動機づけになるような取り組みが必要です。

ご意見	回答
<p>スポーツを取り巻く状況に指導者育成や女性参画の問題が見当たらない。特に女性参画については、資料の問12-2や問14-2などで男女別を比べている以上、そうした観点での分析が欲しいのではないか。</p>	<p>【反映】</p> <p>指導者育成は、現行の「⑦スポーツを支える環境の変化」にサポート人材の確保について記載しています。</p> <p>女性参画についての課題(スポーツの実施状況)は、P10「スポーツをする視点での課題」の①に記載しています。 また、②のスポーツをしない(できない)理由について文言を追加します。</p> <p>② スポーツをしない(できない)理由として、「家事」「時間がない」が多い (アンケート番号：市民 問14) 男女間で大きな差は見られませんが、女性では「面倒くさい」が上回り、全体では<u>スポーツをする意識の無い方が(19.0%)</u>いることから、体を動かす動機づけや情報提供の在り方について検討が必要です。 地域でのスポーツ活動や市民スポーツフェスティバルにおいて、レクリエーションスポーツの普及啓発や実施を望む声が多く、レクリエーションスポーツが体を動かす動機づけになるような取り組みが必要です。</p>

3 計画の実現に向けた連携・協働体制

【現状記載】

計画では、これまでの取り組みを継承・発展させつつ、国際連合が提唱する「(注6)持続可能な開発目標 (SDGs)」の視点も取り入れるとともに、行政やスポーツ団体、スポーツを行う個人ばかりでなく、住民自治協議会をはじめとする市民、学校、民間企業、NPO法人等の団体、スポーツ推進委員、施設管理を受託している指定管理者などと共に、それぞれの役割や責任を踏まえ、連携・協働して計画を実現します。

ご意見	回答
<p>2行目からの文章に下線部を挿入する。</p> <p>開発目標 (SDGs) の視点も取り入れるとともに、<u>公民館をはじめとする社会教育行政、観光や福祉分野の行政やスポーツ団体、スポーツを行う個人ばかりでなく、住民自治協議会をはじめとする市民・・・</u></p> <p>図 学校・保育・幼稚園・<u>公民館</u> 伊賀市 (<u>観光、福祉、教育等</u>)</p>	<p>【現状表記】</p> <p>「行政」の幅は多くの分野に渡ることから、ご意見にある公民館・社会教育、観光・福祉行政も含めて行政としています。</p> <p>また、令和3年度に改定された「伊賀市生涯学習推進指針」では、スポーツなど生涯学習の推進として、住民自治協議会の役割も示されていることから、図においても様々な実施主体が共に連携しながら進めていくイメージとしており、現行のとおりとします。</p>

意見13 ページ数 18

1 基本目標「する」スポーツ人口の拡大

【現状記載】

年齢、興味、目的、障がいの有無などに関係なく幼少年期から高齢期まで、それぞれのライフステージにおいて、生活の中でスポーツを気軽に親しめる (sportsinlife) 環境を創出します。  
このことで体力向上をはじめ、心身の健康増進や健康寿命の延伸を目指します。

ご意見	回答
<p>表の上にある文章に、次の下線文章を入れることで、スポーツ分野における伊賀市らしさも創り出してほしいと思います。ステージにおいて、生活の中でスポーツを気軽に楽しめる (sports in life) 環境を創出します。</p> <p><u>また伊賀市らしさとして「忍者」や「芭蕉」などを関連付けたスポーツ活動の開発を進めるとともに実行し、伊賀市民としてのアイデンティティや郷土を愛する気持ちの向上に寄与できることを目指します。</u> <u>こうしたことを総合し体力向上をはじめ、心身の健康増進や健康寿命の延伸を目指します。</u></p>	<p>【反映】</p> <p>新しいスポーツ活動の創出は、地域資源や人材を活用しつつも新しい価値観などにも配慮しながら従前のスタイルに拘らず自由な発想のもとで検討することも必要です。その過程では実施者はもちろん、各実行委員会などの主催者が主体的に検討を行うことで、改めて地域に愛着をもってもらえるようすることも必要なため一部修正します。</p> <p>年齢、興味、目的、障がいの有無などに関係なく幼少年期から高齢期まで、それぞれのライフステージにおいて、生活の中でスポーツを気軽に親しめる (sportsinlife) <u>ことで体力向上をはじめ、心身の健康増進や健康寿命の延伸、さらにスポーツを通じた郷土愛着の醸成が図られる環境の創出を目指します。</u></p>

1 基本目標「みる」スポーツ活動の普及・啓発

【現状記載】

スポーツへの興味を高める手段として、トップレベルのスポーツに触れる機会をスポーツチームなどと連携し、SNSなどの広報媒体の活用により、試合情報やスポーツ教室などの情報発信を図ります。

②スポーツを活用した地域の魅力発信や誘客

様々な媒体を活用し、市内（全国）におけるスポーツイベントや全国大会出場者などスポーツ選手などの紹介を通じて、スポーツへの関心を高められるよう広報を行います。

例：スポーツ広報誌「忍」、「ここスポ」 など

ご意見	回答
<p>説明文中の2行目に下線部を入れる。                      ・・・・連携し、<u>SNSやケーブルテレビ</u>などの広報媒体の活用により・・・</p> <p>②スポーツを活用した地域の魅力発信や誘客                      事業概要の例：スポーツ広報誌「忍」、「ここスポ」、<u>ケーブルテレビ</u>など</p>	<p>【反映】</p> <p>スポーツへの興味を高める手段として、トップレベルのスポーツに触れる機会をスポーツチームなどと連携し、<u>SNSやケーブルテレビ</u>などの広報媒体の活用により、試合情報やスポーツ教室などの情報発信を図ります。</p> <p>②スポーツを活用した地域の魅力発信や誘客                      様々な媒体を活用し、市内（全国）におけるスポーツイベントや全国大会出場者などスポーツ選手などの紹介を通じて、スポーツへの関心を高められるよう広報を行います。                      例：スポーツ広報誌「忍」、「ここスポ」、<u>「ケーブルテレビ」</u> など</p>

意見15 ページ数 資料編 (アンケート調査へのご意見)

実施済みアンケートですので、考え方などについて記載しています。

ご意見		回答
P40 問19	伊賀市で今思いつく観戦できるスポーツは、サッカー位しか思い浮かばない。自分が興味ないのと子どももしていないし観に行こうとはならない。観に行ける競技の数を増やしてほしい。	2021三重とこわか国体・とこわか大会は、伊賀市において5種目が開催予定でありましたが、残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大の為、中止となり、ハイレベルな試合を身近で観戦していただけるには至りませんでした。今後もサッカーだけに限らず伊賀市の施設において開催される場合は、開催情報をPRしていく予定です。
P42 問22	自分がしてきた事があるものについて、その機会があるなら参加したい (BMX)	ご意見としてお伺いします。
P43 問25	なかなかプロに指導してもらえる環境には無いことの方が多い中、身近で教えてもらえるチャンスがあるのは子供達にとって良いことだと思うが、それを教えられる環境づくりをしないと教えられないのでしてもらいたい。指導者がいても環境が無ければ難しい。	子どもへの指導について種目は限られますが、スポーツ少年団や総合型スポーツクラブ等において指導員によるコーチングが行われています。一方、実施環境では令和3年に策定した「伊賀市スポーツ施設再編・整備計画」において施設整備を進めていくこととしています。
P45 問29	アーバンスポーツは、騒音問題などで嫌がれることが多い。「ここでするな」と言うのは簡単な事だけどだからするのをあきらめさせるのは違うと思う。出来る場所を作ること(許可すること)も大切だと思う。	アーバンスポーツは、東京2020オリンピック・パラリンピック大会を契機として愛好者が増加傾向にあります。ご意見にあるような課題も承知しており、「伊賀市スポーツ施設再編・整備計画」において、限られた環境の中でも実施できることを引き続き検討していきます。
P49 問10	競技人口のこともそうですが、まず伊賀市に住みたいと思える魅力ある町になる事も重要だと思います。若い人が残りたい、住みに来たいと思われる町になれば競技人口も増える。	伊賀市総合計画では、行政だけでなく市民や事業者などが協働でまちづくりを担っていくことされています。本計画でもスポーツをする人ばかりでなく、スポーツをとおした交流などにより、伊賀市に愛着を持ってもらえるよう施策を進めていきたいと考えています。



